

令和 4 年度実施施策に係る事前分析表（案）

令和4年度実施施策に係る政策評価の事前分析表

(環境省R4-1)

別紙1

<p>施策名</p>	<p>目標1-1 地球温暖化対策の計画的な推進による脱炭素社会づくり</p>				<p>担当部局名</p>	<p>地球環境局 脱炭素社会移行推進室 地球温暖化対策課 地球温暖化対策事業室 フロン対策室 低炭素物流推進室 脱炭素ライフスタイル推進室 脱炭素ビジネス推進室</p>	<p>作成責任者名 (※記入は任意)</p>	<p>伊藤史雄(脱炭素社会移行推進室長) 井上和也(地球温暖化対策課長) 松崎裕司(地球温暖化対策事業室長) 豊住朝子(フロン対策室長) 豊住朝子(低炭素物流推進室) 井上雄祐(脱炭素ライフスタイル推進室長) 平尾禎秀(脱炭素ビジネス推進室長)</p>						
<p>施策の概要</p>	<p>地球温暖化対策計画に基づき、中期削減目標の達成に向けて対策・施策を総合的かつ計画的に推進するとともに、長期目標やパリ協定等を踏まえ、社会経済構造の転換を推進しつつ、長期的・戦略的な取組を進める。</p>				<p>政策体系上の位置付け</p>	<p>1. 地球温暖化対策の推進</p>								
<p>達成すべき目標</p>	<p>2030年度の新たな温室効果ガス削減目標として、2013年度から46%削減することを目指し、さらに50%の高みに向けて挑戦を続け、2050年までのカーボンニュートラルの実現を目指す。</p>				<p>目標設定の考え方・根拠</p>	<p>・地球温暖化対策の推進に関する法律(平成10年法律第117号) ・フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律(平成13年法律第64号) ・第五次環境基本計画(平成30年4月17日閣議決定) ・新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画(令和4年6月7日閣議決定) ・経済財政運営と改革の基本方針2022(令和4年6月7日閣議決定) ・地球温暖化対策計画(令和3年10月22日閣議決定) ・パリ協定に基づく成長戦略としての長期戦略(令和3年10月22日閣議決定) ・日本のNDC(国が決定する貢献)(令和3年10月22日地球温暖化対策推進本部決定)</p>	<p>政策評価実施予定時期</p>	<p>令和5年8月</p>						
<p>測定指標</p>	<p>基準値</p>	<p>基準年度</p>	<p>目標値</p>	<p>目標年度</p>	<p>年度ごとの目標値 年度ごとの実績値</p>							<p>測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠</p>		
<p>1 温室効果ガス排出量・吸収量(CO2換算トン)</p>	<p>14億800万</p>	<p>H25年度</p>	<p>7億6,000万</p>	<p>R12年度</p>	<p>-</p>	<p>12億 1,200万</p>	<p>11億600万</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>地球温暖化対策計画(令和3年10月22日閣議決定)に基づく。</p>
<p>2 エネルギー起源二酸化炭素の排出量(CO2換算トン)</p>	<p>12億3,500万</p>	<p>H25年度</p>	<p>6億7,700万</p>	<p>R12年度</p>	<p>-</p>	<p>10億 2,900万</p>	<p>9億6,700万</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>同上</p>
<p>3 非エネルギー起源二酸化炭素、メタン及び一酸化二窒素の排出量(CO2換算トン)</p>	<p>1億3,440万</p>	<p>H25年度</p>	<p>1億1,450万</p>	<p>R12年度</p>	<p>-</p>	<p>1億2,740万</p>	<p>1億2,520万</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>同上</p>
<p>4 代替フロン等4ガスの排出量(CO2換算トン)</p>	<p>3,910万</p>	<p>H25年度</p>	<p>2,180万</p>	<p>R12年度</p>	<p>-</p>	<p>5,540万</p>	<p>5,750万</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>同上</p>
<p>5 吸収源活動により確保した温室効果ガスの吸収量(CO2換算トン)</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>約4,770万</p>	<p>R12年度 (R2年度)</p>	<p>-</p>	<p>4,660万</p>	<p>約4,690万 4,450万</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>同上</p>
<p>6 「COOL CHOICE」賛同者数(個人)</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>480万</p>	<p>600万</p>	<p>1,467万</p>	<p>1,518万</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>同上</p>
<p>7 「COOL CHOICE」賛同事業所数(団体、企業、自治体)</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>25万</p>	<p>40万</p>	<p>44万</p>	<p>52万</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>同上</p>

達成手段 (開始年度)	予算額計(執行額) (百万円)			当初予算額 (百万円)	関連する 指標	達成手段の概要等	行政事業レビュー 事業番号
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度			
(1) 地球温暖化対策推進法施行推進経費 (平成10年度)	14 (14)	14 (12)	14 (14)	14	1	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	001
(2) 脱炭素社会実現に向けた国際研究調査事業 (平成26年度)	56 (53)	70 (56)	59 (56)	59	1.2	<p><達成手段の概要> 令和元年6月に我が国の長期戦略が策定され、今後長期目標の実現に向けた取組を進めていく必要がある。これを踏まえ、仏・独をはじめとした他国の事例研究や、研究者間のネットワーク会合を通じた科学的知見の共有を図り、我が国での活用を検討することにより、我が国の長期目標達成に資する施策の立案・実施に貢献する。</p> <p><達成手段の目標> 我が国の長期目標の達成に資する施策の立案・実施に向けた科学的知見を集積する。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 本事業研究による科学的知見は、長期目標の達成に資する我が国の施策の立案・実施の検討に寄与することができる。</p>	002
(3) 温室効果ガス排出・吸収量管理体制整備費 (平成16年度)	444 (396)	444 (375)	350 (277)	444	1,2,3,4,5	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	003
(4) 廃棄物処理施設を核とした地域循環共生圏構築促進事業 (平成24年度)	21,752 (20,234)	27,809 (25,146)	28,550 (25,580)	21,530	1.2	<p><達成手段の概要> 市町村等を対象として、エネルギー回収型廃棄物処理施設の新設・改良等及び廃棄物処理施設で生じた熱・電力を地域で活用するために要する経費の一部を補助する(間接補助金の電気・熱需要設備については民間事業者も含む)。</p> <p><達成手段の目標> 廃棄物処理施設において、高効率な廃熱利用と大幅な省エネが可能な設備の導入により得られるエネルギーを有効活用することで、エネルギー起源二酸化炭素の排出抑制を図つつ、当該施設を中心とした自立・分散型の「地域エネルギーセンター」の整備を進める。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 廃棄物焼却施設で生じた熱や発電した電力を地域で活用することによる低炭素化の取組を支援することで、エネルギー起源二酸化炭素の排出量削減に寄与する。</p>	004
(5) 地域脱炭素投資促進ファンド事業 (平成25年度)	4,600 (4,600)	4,800 (4,800)	4,800 (4,800)	1,000	1.2	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	005
(6) 環境金融の拡大に向けた利子補給事業 (平成25年度)	1,219 (1,027)	1,100 (760)	1,000 (576)	487	1.2	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	006
(7) 地域の防災・減災と低炭素化を同時実現する自立・分散型エネルギー設備等導入推進事業 (平成30年度)	21,467 (6,746)	12,530 (10,986)	1,852 (1,593)	-	1.2	<p><達成手段の概要> 地域防災計画又は地方公共団体との協定により災害時に避難施設等として位置付けられた公共施設又は民間施設に、平時の温室効果ガス排出抑制に加え、災害時にもエネルギー供給等の機能発揮が可能となり、災害時の事業継続性の向上に寄与する再生可能エネルギー設備等を導入する事業を支援する。</p> <p><達成手段の目標> 平時の温室効果ガス排出抑制に加え、災害時にもエネルギー供給等の機能発揮が可能となり、災害時の事業継続性の向上に寄与する再生可能エネルギー設備等を導入することによる平時の温室効果ガス排出抑制及び災害時にも電力供給等の機能発揮が可能な避難施設等を整備する。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 地域の防災・減災と脱炭素化の同時実現に寄与する。</p>	007
(8) 温室効果ガス排出量算定・報告・公表制度基盤整備事業費等 (平成11年度)	320 (251)	221 (220)	172 (153)	169	1,2,3	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	008
(9) J-クレジット制度運営・促進事業 (平成20年度)	259 (173)	219 (270)	209 (171)	209	1.2	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	009
(10) 家庭部門のCO2排出実態統計調査事業 (平成25年度)	300 (289)	295 (287)	295 (289)	295	1.2	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	010

(11)	地球温暖化対策の推進に関する法律に基づく普及啓発推進事業 (平成28年度)	338 (338)	328 (316)	328 (323)	500	1.2	<p><達成手段の概要> 地球温暖化対策の推進に関する法律を踏まえ、全国地球温暖化防止活動推進センター及び地域地球温暖化防止活動推進センターが実施する事業の支援を行う。</p> <p><達成手段の目標> ・各地域の民生・需要分野や家庭・個人の積極的な地球温暖化対策への取組が必要であることから、地球温暖化の危機的状況や社会にもたらす影響について理解を促し、地域の生活スタイルや個々のライフスタイル等に応じた効果的かつ参加しやすい取組を推進することで、住民の意識改革や自発的な取組の拡大・定着を目指す。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 地球温暖化対策のための「COOL CHOICE」への賛同や取組への参加を通じて一人ひとりの行動変容を促し、日々の生活の中でのCO2削減行動を拡大・定着させる。</p>	011
(12)	ライフスタイルの変革による脱炭素社会の構築事業等 (平成29年度)	1,000 (704)	1,000 (605)	700 (650)	600	1.2	<p><達成手段の概要> 一人ひとりの地球温暖化に対する危機意識を醸成するとともに行動変容を促進するために、現在の気候変動の影響を発信するための動画の制作、WEB・SNSを活用した情報発信、これまで制作した各種ツールの貸出しやイベントへの出展等により、ノンステートアクター(自治体・企業・NPO等の非政府主体)と連携した幅広い取組を実施する。また、地球温暖化問題に関心の薄い層に対しても、ナッジも活用して、脱炭素社会づくりにつながる自発的な行動変容を促していく。</p> <p><達成手段の目標> ・各地域の民生・需要分野や家庭・個人の積極的な地球温暖化対策への取組が必要であることから、地球温暖化の危機的状況や社会にもたらす影響について理解を促し、地域の生活スタイルや個々のライフスタイル等に応じた効果的かつ参加しやすい取組を推進することで、住民の意識改革や自発的な取組の拡大・定着を目指す。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 地球温暖化対策のための「COOL CHOICE」への賛同や取組への参加を通じて一人ひとりの行動変容を促し、日々の生活の中でのCO2削減行動を拡大・定着させる。</p>	012
(13)	温室効果ガス排出削減等指針策定調査事業 (平成20年度)	95 (41)	95 (71)	95 (82)	95	1.2	<p>令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)</p>	014
(14)	企業の脱炭素経営実践促進事業 (平成22年度)	620 (559)	621 (350)	640 (538)	601	1.2	<p>令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)</p>	015
(15)	先進対策の効率的実施によるCO2排出量大幅削減事業 (平成24年度)	3,700 (3,640)	3,265 (3,112)	35 (35)	-	1.2	<p>令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)</p>	016
(16)	CO2削減対策強化誘導型技術開発・実証事業 (平成25年度)	7,053 (5,448)	5,214 (4,103)	6,363 (5,149)	-	1.2	<p><達成手段の概要> 各分野におけるCO2削減ポテンシャルが相対的に大きいものの、民間の自主的な取組だけでは十分に進まず、現行の削減対策が不十分、または更なる対策の深掘りが可能な技術やシステムの内容及び性能等の要件を示し、それを満たす技術開発や実証を実施する。事業の開始から終了まで、毎年度技術の成熟レベルを判定し、外部専門家から、問題点に対する改善策の助言や開発計画の見直し指示等を行い、効果的・効率的に事業を実施することで、開発目標の達成及び実用化の確度を高める。</p> <p><達成手段の目標> 将来的な地球温暖化対策強化につながる効果的な技術を確認し、これら技術が社会に導入されることによる大幅なCO2排出量削減・脱炭素社会を実現する。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 民間の自主的な取組だけでは十分に進まない技術を国の主導により強力に進めることにより、当該技術の早期の社会導入を図り、大幅なCO2排出削減に寄与する。</p>	017
(17)	エネルギー起源CO2排出削減技術評価・検証事業費 (平成25年度)	3,660 (1,341)	598 (524)	400 (369)	870	1.2	<p><達成手段の概要> エネルギー対策特別会計における事業の効果算定手法の検討、技術動向調査及び事業効果の検証・把握等を行うとともに、次世代社会インフラ整備、統合的アプローチによる環境政策の推進、といった分野におけるCO2排出削減対策・技術について、実証事業を通じて個別手法の削減効果の検証、削減ポテンシャルの検証及び事業性の検証を行う。</p> <p><達成手段の目標> エネルギー起源CO2の排出の抑制のための再エネ・省エネ技術等の導入を通じて「脱炭素社会」を創出する</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> エネルギー対策特別会計において効果的に事業を推進することにより、エネルギー起源CO2の一層の排出抑制を図る。</p>	019
(18)	CCUS早期社会実装のための脱炭素・循環型社会モデル構築事業(一部経済産業省連携事業) (平成26年度)	6,587 (6,280)	5,544 (5,505)	10,955 (10,577)	8,000	1.2	<p>令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)</p>	020

(19)	大規模潜在エネルギー源を活用した低炭素技術実用化推進事業（一部経済産業省連携事業）（平成26年度）	1,253 (1,228)	647 (647)	200 (200)	-	1.2	<p><達成手段の概要> 商業規模の潮流発電システムの施工や運用に係わるコストの低減を図り、環境影響評価項目及び評価手法を明確化することで、漁業や海洋環境への影響を抑えた、日本の海域での導入が期待できる潮流発電システムの開発を行う。また、低温熱源活用発電においては、摂氏80度程度以下の低温熱源に適した作動流体を選定する。その作動流体により最適な発電を行えるタービン発電機や熱交換器等を開発し、コスト効率的なバイナリー発電システムの開発及び実証を行う。</p> <p><達成手段の目標> 商用スケールの漁業協調型の潮流発電の実証を行い、国内の導入に向けた環境負荷低減型の潮流発電技術及び発電システムを確立する。摂氏80度以下の未利用エネルギーを有効活用するバイナリー発電システム(100kW以上)を確立する。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 商用規模の潮流発電システム及び低温熱源活用発電システムを確立し、CO2排出量の削減に寄与する。</p>	021
(20)	GaN技術による脱炭素社会・ライフスタイル先導イノベーション事業（平成26年度）	2,500 (2,488)	2,500 (2,498)	2,500 (2,497)	-	1.2	<p>令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)</p>	022
(21)	国際パートナーシップを活用した高効率ノンフロン機器導入拡大等事業（平成25年度）	189 (188)	189 (186)	189 (186)	189	-	<p>令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)</p>	023
(22)	省CO2型リサイクル等高度化設備導入促進事業（平成27年度）	5,265 (4,644)	4,277 (3,995)	2,765 (2,489)	-	1.2	<p><達成手段の概要> 民間団体等を対象として、省CO2型リサイクル高度化設備の導入に要する経費の一部を補助する。</p> <p><達成手段の目標> 使用済製品等のリサイクルプロセス全体のエネルギー起源二酸化炭素の排出抑制及び再生資源の回収効率の向上を目指す。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 資源循環高度化設備導入により、エネルギー起源CO2の排出量削減に寄与する。</p>	024
(23)	脱炭素社会構築に向けた再エネ等由来水素活用推進事業（一部経済産業省、国土交通省連携事業）（平成27年度）	2,970 (2,585)	5,494 (4,740)	5,101 (2,730)	6,580	1.2	<p>令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)</p>	025
(24)	森林等の吸収源対策に関する国内体制整備検討調査費（平成11年度）	33 (30)	33 (25)	33 (31)	33	1.5	<p>令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)</p>	026
(25)	再生可能エネルギー電気・熱自立的普及促進事業（一部経済産業省連携事業）（平成28年度）	5,052 (4,472)	3,831 (3,089)	170 (165)	-	1.2	<p><達成手段の概要> 地域における再生可能エネルギー普及・拡大の妨げとなっている課題への対応の仕組みを備え、かつ二酸化炭素の削減に係る費用対効果の高い取組に対し、再生可能エネルギー設備を導入する事業等に対する補助を実施する。</p> <p><達成手段の目標> 再生可能エネルギーの自立的普及を促進する。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 再生可能エネルギーの自立的普及を促進することにより、低炭素社会の実現に寄与する。</p>	027
(26)	建築物等の脱炭素化・レジリエンス強化促進事業（一部経済産業省・国土交通省・厚生労働省連携事業）（平成28年度）	8,230 (7,605) ZEH含む	4,038 (3,772)	12,591 (10,844)	5,500	1.2	<p><達成手段の概要> 災害対応の観点から、停電時にも必要なエネルギーを供給できる機能を強化したネット・ゼロ・エネルギー・ビル(以下「ZEB」という。)の実現に資する再生可能エネルギー設備や高性能設備機器等の導入、地方公共団体の所有する施設と民間業務用施設等を対象としたZEBの実現に資する省エネ・省CO2性の高いシステムや高性能設備機器等の導入、既存の業務用施設(民間建築物、テナントビル、改修し業務用施設として利活用する空き家等)への省CO2性の高い機器等の導入、国立公園内宿舎施設における省CO2性の高い機器等の導入、上下水道施設における小水力発電設備等の再エネ設備、高効率設備やインバータ等の省エネ設備等の導入を支援する。</p> <p><達成手段の目標> 災害時にもエネルギー供給が可能となる先進的なZEBの実証、先進的な業務用施設等の実現と普及拡大、既存の業務用施設(民間建築物、テナントビル、空き家等)の省CO2改修、国立公園内宿舎施設の省CO2改修、上下水道施設の省CO2改修を促進する。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 分野に関わらず広く建築物等における脱炭素化・レジリエンス強化を通じて、業務その他部門におけるCO2排出量の削減を図ると同時に、激甚化する災害等気候変動への適応を高めつつ、快適で健康な社会の実現を目指す。</p>	028
(27)	廃熱・未利用熱・営農地等の効率的活用による脱炭素化推進事業（一部農林水産省連携事業）（平成29年度）	1,682 (1,439)	1,281 (1,070)	1,395 (1,112)	-	1.2	<p>令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)</p>	029

(28)	設備の高効率化改修支援事業 (平成29年度)	1,200 (782)	748 (652)	83 (80)	-	1.2	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	030
(29)	脱フロン・低炭素社会の早期実現のための省エネ型自然冷媒機器導入加速化事業(農林水産省・経済産業省・国土交通省連携事業) (平成29年度)	7,545 (7,031)	5,717 (5,621)	7,484 (7,274)	7,300	1.2,4	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	031
(30)	低炭素型の行動変容を促す情報発信(ナッジ)等による家庭等の自発的対策推進事業 (平成29年度)	3,000 (2,621)	3,000 (2,890)	2,810 (2,750)	-	1.2	<p><達成手段の概要> 近年欧米では行動科学等の理論に基づくアプローチ(ナッジ(nudge:そと後押しする)等)により、国民一人ひとりの行動変容を(1)情報発信等を通じて直接促進し、また、(2)社会システム等の外部環境の変化を通じて間接的に促進して、社会システムやライフスタイルの変革を創出する取組が政府主導により行われ、費用対効果が高く、対象者にとって自由度のある新たな政策手法として着目されており、環境分野においても国民各界各層が環境配慮に価値を置き低炭素社会の構築を実現するための取組等に適用が進められているが、我が国への適用や効果の持続可能性については検証が必要である。 (1)ナッジ等を活用した家庭・業務・運輸部門等の自発的対策推進事業 CO2排出実態に係るデータ(電力、ガス、燃料の使用等)を収集、解析し、個々にパーソナライズして情報をフィードバックし、自発的な低炭素型の行動変容を促す等、CO2排出削減に資する行動変容モデルを構築。地方公共団体との連携の下、当該モデルの持続的適用可能性の実証や我が国国民特有のパラメータの検証を実地にて行う。 (2)ブロックチェーン技術を活用した再エネCO2削減価値創出モデル事業 これまで十分に評価又は活用されていなかった自家消費される再エネのCO2削減に係る環境価値を創出し、当該価値を低コストかつ自由に取引できるシステムを、ブロックチェーン技術を用いて構築し、実証する。</p> <p><達成手段の目標> 我が国に適用可能なエネルギー消費に係る行動変容モデルを、実証実験を通じて構築し、展開、実用化を通じて、環境負荷低減に繋がる低炭素型の行動変容を促し、家庭・業務その他部門におけるエネルギー消費量及びCO2排出量を徹底的に削減する。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> ナッジ等やブロックチェーン技術の活用により、CO2削減に貢献することができる。</p>	032
(31)	カーボンプライシング導入可能性調査事業 (平成29年度)	250 (206)	250 (213)	250 (239)	250	1.2	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	033
(32)	CO2中長期大幅削減に向けたエネルギー転換部門低炭素化に向けたフォローアップ事業 (平成29年度)	150 (110)	150 (115)	130 (119)	110	1.2	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	034
(33)	省エネ型浄化槽システム導入推進事業 (平成29年度)	2,000 (1,294)	1,800 (1,425)	1,741 (1,516)	-	1.2	<p><達成手段の概要> 51人槽以上の既設合併処理浄化槽に係る、省CO2型の高度化設備(高効率ブロウ、インバーター制御装置等)の改修並びに、建築基準法に定める旧構造基準及び新構造基準(ブロウを使用するものに限る)のうち60人槽以上の既設合併処理浄化槽から構造や本体のコンパクト化によってエネルギー削減効果の高いと見込まれる浄化槽への交換費用について、1/2を補助する。平成12年度から販売の性能評価型の浄化槽のうち、初期型の合併処理浄化槽から60人槽以上の最高水準の省エネ技術を用いた先進的省エネ浄化槽への交換に係る費用について1/2を補助する。</p> <p><達成手段の目標> 集合住宅等に設置されている大型浄化槽の処理工程上で使われている機器設備(ブロウ、水中ポンプ、スクリーン等)の省エネ化については、小型浄化槽と比べて比較的遅れている。既設の大型浄化槽及び中・大型浄化槽に付帯する機械設備を省エネ改修するとともに、特に古い大型浄化槽自体を省エネ浄化槽に交換することにより、浄化槽システム全体の低炭素化を大幅に図るとともに、老朽化した中・大型浄化槽の長寿命化を図る。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 既設合併処理浄化槽の省CO2化を図ることでエネルギー起源CO2の排出量を削減する。</p>	035
(34)	グリーンボンドや地域の資金を活用した脱炭素化推進モデル事業 (平成30年度)	600 (239)	600 (233)	500 (195)	400	1.2	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	036
(35)	戸建住宅におけるネット・ゼロ・エネルギー・ハウス(ZEH)化支援事業(経済産業省・国土交通省連携事業) (平成30年度)	3,795 (3,564)	8,849 (7,734)	266 (223)	-	1.2	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	037

(36)	水素を活用した社会基盤構築事業	600 (30)	2,307 (1,384)	693 (691)	-	1.2	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	038
(37)	代替燃料活用による船舶からのCO2排出削減対策モデル事業(国土交通省連携事業) (平成30年度)	293 (264)	499 (498)	168 (168)	-	1.2	<p><達成手段の概要> 近年、船舶分野においても代替燃料の活用による更なるCO2排出削減が期待されており、今後普及の見込まれる代替燃料として、CO2削減に加え環境(NOx、SOx)性能等に優れたLNG燃料が挙げられる。しかし、LNG燃料船については、ガスエンジンやガス供給システムといった個々の技術開発は確立しているものの、それらの技術を実船に搭載し、実際の海域で航行した際に加わる負荷に応じて、燃焼の効率を最適化する制御技術の確立がなされていないため、LNG燃料船を実際の海域で運航し、負荷変動のデータを取得・分析することにより、ガスエンジン及びガス供給システムの燃料効率を最適化するための制御技術を確立する。</p> <p><達成手段の目標> LNG燃料船によるCO2排出削減の最大化を図る技術実証を行い、もって船舶からのCO2排出量の大幅削減を目指す。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 本事業により設計・実証したLNG燃料船において、事業終了年度の令和2年度においてガスエンジン及びガス供給システムの燃料効率を最適化するための制御技術を2種類確立する。それにより船舶分野の温室効果ガスの削減に寄与することができる。</p>	039
(38)	再生可能エネルギー資源発掘・創生のための情報提供システム整備事業 (平成30年度)	744 (679)	739 (729)	539 (632)	889	1.2	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	040
(39)	脱炭素社会の実現に向けた取組・施策等に関する情報発信事業 (平成30年度)	570 (385)	570 (464)	400 (367)	400	1.2	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	041
(40)	廃棄物処理システムにおけるエネルギー活用・脱炭素化対策支援事業 (平成30年度)	300 (210)	244 (197)	76 (75)	-	1.2	<p><達成手段の概要> 廃棄物処理システムにおける低炭素・省CO2対策普及促進事業を民間団体を対象に実施するとともに、収集運搬の効率化による低炭素化を図るモデル事業を市町村において実施する。</p> <p><達成手段の目標> 廃棄物の収集運搬・中間処理・最終処分等において、各々の地域特性に応じた適切な低炭素・省CO2対策の導入を促進するため、具体的な地域を選定して、一連の廃棄物処理システムにおける低炭素・省CO2対策を検証・提案し、その実現可能性を調査する。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> エネルギー起源二酸化炭素の排出量削減に寄与する。</p>	042
(41)	ESG金融ステップアップ・プログラム推進事業 (令和元年度)	300 (290)	300 (277)	300 (321)	-	1.2	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	043
(42)	脱炭素イノベーションによる地域循環共生圏構築事業(一部総務省、経済産業省、国土交通省連携事業) (令和元年度)	5,467 (1,595)	3,763 (2,723)	10,700 (4,579)	5,500	1.2	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	044
(43)	温室効果ガス排出に関するデジタルガバメント構築事業 (令和元年度)	50 (85)	120 (120)	1,040 (848)	720	1.2	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	045
(44)	電動化対応トラック・バス導入加速事業(国土交通省・経済産業省連携事業) (令和元年度)	1,000 (877)	1,000 (591)	1000 (659)	1,000	1.2	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	046
(45)	脱炭素社会を支えるプラスチック等資源循環システム構築実証事業 (令和元年度)	1,803 (1,651)	4,567 (3,582)	2,189 (1,847)	3,600	1.2,3	<p><達成手段の概要> 民間団体等を対象として、化石資源由来のプラスチックからバイオマス・生分解性プラスチック、紙、CNF等の再生可能資源への転換を図っていくとともに、使用済の廃プラスチック等の省CO2リサイクルシステムを構築し、脱炭素社会に貢献するプラスチック資源循環システムの構築を加速化する。</p> <p><達成手段の目標> ①従来のプラスチック素材を代替する紙、バイオマス・生分解性プラスチック等の省CO2型生産インフラ整備・技術実証を支援し、再生可能資源への転換・社会実装化を図る。 ②複合素材プラスチック等のリサイクル困難素材のリサイクル技術・設備導入を支援し、使用済素材リサイクルプロセス構築・省CO2化を図る。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 再生可能資源の普及やリサイクルシステムを確立し、国内におけるプラスチック資源循環システムを構築することで、CO2排出削減に寄与する。</p>	047

(46)	廃棄物処理×脱炭素化によるマルチベネフィット達成促進事業 (令和2年度)	-	1,950 (1,400)	1,957 (1,862)	2,000	1.2	<p><達成手段の概要> 廃棄物エネルギーの有効活用、災害廃棄物処理体制の構築及び地域活性化に資する事業への支援並びに中小企業等におけるPCB使用照明器具のLED化による、PCB廃棄物の早期処理の推進及び省エネルギーの促進に資する事業への支援を行うことにより、脱炭素化以外の政策目的の達成も図り、地域循環共生圏の構築を促進する。</p> <p><達成手段の目標> 廃熱を高効率で熱回収する設備の整備促進、廃棄物から燃料を製造する設備及び廃棄物燃料を受け入れる際に必要な設備の整備促進、中小企業等において使用中のPCB使用照明器具を対象として、発生するPCB使用安定器の早期処理が確実な場合に限り、PCB使用照明器具の有無に係る調査費及びPCB使用照明器具をLED照明器具に交換する事業の促進。</p> <p>※PCB使用照明器具については令和3年度より事業開始</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> ・廃棄物由来エネルギーの有効活用や廃棄物燃料の利用促進等を行うことで、化石燃料の利用に伴う温室効果ガスの排出削減に寄与する。 ・PCB使用照明器具をLED照明へ交換することで、消費電力の削減によるCO2排出量の削減を図る。</p>	058
(47)	PPA活用など再エネ価格低減等を通じた地域の再エネ主力化・レジリエンス強化促進事業 (令和2年度)	-	2,509 (870)	9,617 (6,762)	3,800	1.2	<p>令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)</p>	059
(48)	バッテリー交換式EVとバッテリーステーション活用による地域貢献型脱炭素物流等構築事業(一部経済産業省連携事業) (令和2年度)	-	1,000 (565)	991 (705)	1,200	1.2	<p>令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)</p>	060
(49)	低炭素型ディーゼルトラック普及加速化事業(国土交通省連携事業) (令和2年度)	-	2,965 (2,942)	2965 (2,804)	2,965	1.2	<p>令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)</p>	061
(50)	革新的な省CO2実現のための部材(GaN)や素材(CNF)の社会実装・普及展開加速化事業 (令和2年度)	-	1,800 (816)	1,507 (1,371)	3,800	1.2	<p>令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)</p>	062
(51)	浮体式洋上風力発電による地域の脱炭素化ビジネス促進事業 (令和2年度)	-	311 (79)	354 (344)	350	1.2	<p>令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)</p>	063
(52)	脱炭素型金属リサイクルシステムの早期社会実装化に向けた実証事業 (令和2年度)	-	500 (477)	500 (500)	400	1.2	<p><達成手段の概要> IoT機器などの非鉄金属(銅・アルミニウム等)含有製品について、民間団体等に対し、省エネ型リサイクルに係る技術・システムの実証・事業性評価の委託を行う。</p> <p><達成手段の目標> 脱炭素型金属リサイクルシステムの社会実装化を促進する。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 実証された新しい技術・システムが社会実装されることにより、金属のライフサイクルにおけるCO2排出量削減に寄与する。</p>	064
(53)	事業全体のマネジメント・サイクル体制確立事業 (令和2年度)	-	3140 (1384)	2583 (1,895)	2,694	1.2	<p><達成手段の概要> 環境省のエネルギー対策特別会計予算事業(事業補助、委託、技術開発実証等)における事業効果の把握・検証・成果集約を行うとともに、成果のとりまとめを踏まえた戦略・事業立案を行うことにより、事業全体のマネジメント・サイクル体制を確立する。</p> <p><達成手段の目標> エネルギー対策特別会計予算事業のマネジメント・サイクルを確立することにより、事業計画立案、事業実施、事業評価検証の高度化、効率化、効果の最大化を図る。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> エネルギー対策特別会計において、予算事業全体のマネジメント・サイクル体制を確立し、事業計画立案、事業実施、事業評価検証の高度化、効率化、効果の最大化を図ることにより、温室効果ガスの一層の排出抑制を図る。</p>	065
(54)	社会変革と物流脱炭素化を同時実現する先進技術導入促進事業(国土交通省連携事業) (令和2年度)	-	323 (290)	873 (818)	800	1.2	<p>令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)</p>	067

(55)	再エネ電力と電気自動車や燃料電池自動車等を活用したゼロカーボンライフ・ワークスタイル先行導入モデル事業（経済産業省 連携事業）（令和2年度）	-	-	7900 (7,400)	-	1.2	<p><達成手段の概要> 再エネ電力と電気自動車や燃料電池自動車等を同時に購入・利用する取組を、集中的に支援する。災害時に給電できる充放電設備の導入も支援する。本事業の補助対象者には、電気自動車等を活用したゼロカーボンの生活・事業活動の実態調査に、モニターとして参画していただく。また、モデル事業の調査結果の分析を行い、ゼロカーボンの実践・普及拡大に向けた課題抽出や効果的な普及啓発等の企画・立案に活用する。</p> <p><達成手段の目標> グリーン社会の実現に向けて、電気自動車や燃料電池自動車、プラグインハイブリッド車を普及させることにより、移動の脱炭素化と分散型社会・レジリエンス強化等を同時に推し進め、国民の脱炭素ライフスタイルへの転換を図る。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> エネルギー起源CO2の排出量削減に寄与する。</p>	068
(56)	革新的な省CO2型感染症対策技術等の実用化加速のための実証事業（令和2年度）	-	-	1,390 (904)	1,700	1.2	<p>令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)</p>	069
(57)	脱炭素社会構築のための資源循環高度化設備導入促進事業（令和2年度）	-	-	6,193 (2,069)	5,000	1.2	<p><達成手段の概要> 民間団体等を対象として、省CO2型リサイクル高度化設備、再生可能資源由来素材の省CO2型製造設備、太陽光パネル・リチウムイオン電池のリサイクル設備導入に要する経費の一部を補助する。</p> <p><達成手段の目標> 化石資源由来プラスチックの代替、使用済み製品等のリサイクルの促進を図り、これらのプロセス全体のエネルギー起源CO2の排出を抑制する。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 資源循環高度化設備導入により、再生利用量増加及びエネルギー起源CO2の排出量削減に寄与する。</p>	070
(58)	地域レジリエンス・脱炭素化を同時実現する公共施設への自立・分散型エネルギー設備等導入推進事業（令和2年度）	-	11 (11)	6,093 (2,112)	2,000	1.2	<p><達成手段の概要> 地域防災計画により災害時に避難施設等として位置付けられた公共施設に、平時の温室効果ガス排出抑制に加え、災害時にもエネルギー供給等の機能発揮が可能となり、災害時の事業継続性の向上に寄与する再生可能エネルギー設備等の導入を支援する。</p> <p><達成手段の目標> 平時の温室効果ガス排出抑制に加え、災害時にもエネルギー供給等の機能を発揮し、事業継続可能な避難所を整備する。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 災害時においても発電・電力供給等の機能発揮が可能な再エネ・蓄エネシステムの整備等により、地域の防災・減災と脱炭素化の同時実現に寄与する。</p>	071
(59)	地域脱炭素実現に向けた再エネの最大限導入のための計画づくり支援事業（令和2年度）	-	-	3,132 (1,469)	800	1.2	<p><達成手段の概要> 地域経済の活性化・新しい再エネビジネス等の創出・分散型社会の構築・災害時のエネルギー供給の確保につながる地域再エネの最大限の導入を促進するため、地方公共団体による地域再エネ導入の目標設定や合意形成に関する戦略策定の支援を行うとともに、官民連携で行う地域再エネ事業の実施・運営体制構築支援や持続性向上のための地域人材育成の支援を行う。</p> <p><達成手段の目標> 本事業を通じて策定された再エネ導入目標を、適切に地方公共団体実行計画(区域施策編)に反映させる。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 地域のステークホルダーと連携した地域の特性に応じた計画の策定、再エネ導入に関する地域住民との合意形成、地域に裨益する再エネに関する事業の持続性の向上を推進することにより、脱炭素な地域づくりを推進し、持続可能でレジリエントな地域社会の実現に寄与する。</p>	072
(60)	「脱炭素×復興まちづくり」推進事業（令和3年度）	-	-	294 (288)	500	1.2	<p><達成手段の概要> (1)「脱炭素×復興まちづくり」に資するFS事業 CO2削減効果のある再生可能エネルギー等を用いて、福島県浜通り地域で新たな産業を社会実装することを目指し、その事業の実現可能性調査(FS)を実施する。 (2)「脱炭素×復興まちづくり」に資する計画策定、導入等補助 福島県が策定した「再生可能エネルギー推進ビジョン」や自治体等が宣言する「ゼロカーボンシティ」で示された方針に沿って、これらの実現に向けた計画策定と、その計画に位置づけられた自立・分散型エネルギーシステム等の導入等の支援を行う。</p> <p><達成手段の目標> 原子力災害以降、環境再生事業の実施にあたって周辺市町村や住民には、苦渋の決断と多大な負担を強いており、住民の帰還や産業の再建が道半ばである状況の中で、今後、復興まちづくりを進めつつ、脱炭素社会の実現を目指す際には大きな困難を伴う。このため、福島での自立・分散型エネルギーシステム等の導入等に関して、地方公共団体、民間事業者等の「調査」「計画」「整備」の各段階で重点的な支援を行い、これらの両立を後押しする。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> CO2削減効果のある再生可能エネルギー等の実装の実現可能性調査(FS)や、FSを元に導入される自立・分散型エネルギーシステムにより、復興とともに脱炭素まちづくりが進むことにより、エネルギー起源二酸化炭素の排出量削減に寄与する。</p>	073
(61)	ゼロカーボンシティ実現に向けた地域の気候変動対策基盤整備事業（令和3年度）	-	-	800 (810)	800	1,2,3,4,5	<p>令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)</p>	074

(62)	工場・事業場における先進的な脱炭素化取組推進事業 (令和3年度)	-	-	3,663 (3,467)	3,700	1.2	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	075
(63)	脱炭素化・先導的廃棄物処理システム実証事業 (令和3年度)	-	-	400 (382)	400	1.2	<p><達成手段の概要> ・廃棄物エネルギーを活用した地域循環共生圏の構築が進まない技術的な課題を解決するため、レジリエンス強化にも資する熱利用の高度化、未利用バイオマス活用や大規模メタン化施設等の実証事業や検証等を行う。また、廃棄物エネルギー等を地域資源として活用した地域循環共生圏の構築が進まない課題を調査し、その課題の解決方策の検討や地域モデルとなり得るポテンシャルの調査・検討を行う。 ・廃棄物処理システム全体の脱炭素化・省CO2対策を促進するため各種検討調査を行い、地域の特性に応じて最適な循環資源の活用方策の検討を行い、実証等で得られた知見とともにとりまとめてガイダンスを策定し、循環分野からの「気候変動×レジリエンス」や地域循環共生圏の構築を推進していく。</p> <p><達成手段の目標> 一般廃棄物の焼却や埋立処分に伴う直接的な温室効果ガス排出のほか、収集運搬過程における燃料使用や、中間処理施設等の稼働に伴う電力使用等によるエネルギー起源CO2等の排出等を総合的に抑える。廃棄物から回収されるエネルギーの利活用にあたっては、化石燃料代替によるCO2削減効果と併せて、地域の課題や地域活性化への貢献に向けた新たな価値を創出する。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 廃棄物処理システム全体の低炭素化によりCO2削減が図られる。</p>	077
(64)	脱炭素社会の構築に向けたESGリース促進事業 (令和3年度)	-	-	1400 (745)	1,325	1.2	<p><達成手段の概要> 中小企業等がリースで脱炭素機器を導入する際、指定リース事業者によるESG要素を考慮した取組やサプライチェーン上の脱炭素化に資する取組が基準を満たしている場合、脱炭素機器の種類に応じて総リース料の1～6%を指定リース事業者に対して助成を行い、補助率に応じた総リース料の減免を行うことで機器利用者の負担するリース料を低減させる。</p> <p><達成手段の目標> ○リース会社によるESG要素を考慮した取組を促進し、リース業界におけるESGの取組拡大に繋げる。 ○サプライチェーン全体での脱炭素化に貢献する中小企業等をサポートする。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 脱炭素機器の導入を促進し、CO2排出量削減を加速化させる。補助事業者の事務費を除く予算額13.3億円に対し、脱炭素機器導入のリース料に対する平均補助率は約3.7%であることから、脱炭素機器の設備投資額約206億円の効果があると見込む。</p>	078
(65)	離島における再エネ主力化・レジリエンス強化実証事業 (令和3年度)	-	-	150 (0)	350	1.2	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	079
(66)	グリーンリカバリーの実現に向けた中小企業等のCO2削減比例型設備導入支援事業	-	-	0 (0)	-	1.2	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	080
(67)	再エネ×電動車の同時導入による脱炭素型カーシェア・防災拠点化促進事業			2,900 (2,900)	-	1.2	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	081
(68)	食とくらしの「グリーンライフ・ポイント」推進事業	-	-	8.22 (8.20)	-	1.2	<p><達成手段の概要> 国民による環境配慮型製品・サービスの選択等の環境配慮行動の実践に対するポイントを新たに発行しようとする企業や地域等に対し、必要な企画・開発・調整等の費用の補助及び効果検証を行う。</p> <p><達成手段の目標> 環境配慮行動の実践に対するポイントが新たに発行される製品・サービス等の件数において60件を目指す。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 日常の環境配慮がポイントとして還元される仕組みの持続的な推進を通じて、国民が地域や社会の環境課題を自分事化して環境配慮行動を持続的に実践するとともに、地域の環境課題の解決と成長を実現する。</p>	082
(69)	住宅のZEH・省CO2化促進事業	-	4,383 (3,925)	13,786 (10,738)	11,000	1.2	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	083
(70)	空港・港湾・海事分野における脱炭素化促進事業	-	-	0(0)	1,315	1.2	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	084

(71)	地域脱炭素移行・再エネ推進交付金	-	-	-	20,000	1.2	<p><達成手段の概要> 「地域脱炭素ロードマップ」及び地球温暖化対策計画に基づき、脱炭素事業に意欲的に取り組む地方公共団体等に対し、交付金により複数年度にわたり継続的かつ包括的に支援する。</p> <p><達成手段の目標> 2025年度までに先行的な取組実施の道筋を立て、2030年度までに実行する脱炭素先行地域を少なくとも100箇所を創出するとともに、脱炭素の基盤となる重点対策を全国で実施し、各地の創意工夫を横展開する。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 脱炭素先行地域づくり事業により脱炭素ドミノを起こすための全国のモデルとなる脱炭素先行地域を創出するとともに、重点対策加速化事業により全国的な再エネ導入の底上げを図ることにより、2030年度温室効果ガス排出削減目標や2050年カーボンニュートラルの実現に寄与する。</p>	新22-0001
(72)	地域共生型地熱利活用に向けた方策等検討事業	-	-	-	250	1.2	<p>令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)</p>	新22-0002
(73)	洋上風力発電の導入促進に向けた環境保全手法の最適化実証等事業	-	-	-	450	1.2	<p><達成手段の概要> 今後洋上風力発電の導入が見込まれる海域において環境調査を実施し、取りまとめた情報をデータベースから事業者や地方公共団体に提供することで、現在設置が検討されている着床式洋上風力発電における環境影響評価等の合理化を図る。 また、2050年CNIに向け導入ポテンシャルが大きい洋上風力発電について、環境影響の把握・予測が難しいという課題がある。事業者による適正な環境配慮を確保しつつ、円滑な洋上風力発電の導入を実現するため、海外事例も参考にしつつ、洋上風力発電の特性を踏まえた環境保全措置の考え方として、稼働に伴う環境影響を継続的に把握し、低減できる手法(順応的管理)等を実証する。</p> <p><達成手段の目標> ①海域特有の環境情報を少なくとも年間1海域ずつ、計3海域以上を目標に整備する。 ②鳥類への影響を継続的に把握し、低減できる手法を、少なくとも3手法を目標に実証する。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 導入ポテンシャルの大きい洋上風力発電について、適正な環境配慮を確保しつつ、環境影響評価の合理化・迅速化を図り、導入を促進することで、脱炭素社会の実現に寄与する。</p>	新22-0003
(74)	浄化槽システムの脱炭素化推進事業	-	-	-	1,800	1.2	<p><達成手段の概要> 中大型浄化槽について、最新型の高効率機器への改修、先進的省エネ型浄化槽への交換、再エネ設備の導入を行うことにより大幅なCO2削減を図る事業を支援する。</p> <p><達成手段の目標> 浄化槽分野における脱炭素化の推進に向けて、エネルギー効率の低い既設の中大型浄化槽について、最新型の高効率機器(高効率ブローワ等)への改修、先進的省エネ型浄化槽への交換、再生可能エネルギーを活用した浄化槽システムの導入を推進することにより、大幅なCO2削減を図る。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 既設合併処理浄化槽の省CO2化や再エネ導入を推進することでエネルギー起源CO2の排出量を削減する。</p>	新22-0004
(75)	地域共創・セクター横断型カーボンニュートラル技術開発・実証事業(一部国土交通省、農林水産省連携事業)	-	-	-	5,000	1.2	<p>令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)</p>	新22-0005
(76)	ナッジ×デジタルによる脱炭素型ライフスタイル転換促進事業	-	-	-	1,800	1.2	<p><達成手段の概要> デジタルを活用した行動履歴の客観的な記録手法の検討・開発、脱炭素型製品・サービスの消費者選好や参加体験型の行動変容モデルの実証並びに地域内及び地域間の実地における行動変容の持続性の本格実証を行う。</p> <p><達成手段の目標> ナッジ等を活用し実証した地域数において5地域を目指す。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 脱炭素型の行動変容モデルを構築し、地域連携により社会課題の解決・地域循環共生圏の具体化を図るとともに、脱炭素型のライフスタイルへの転換に向けて、ナッジやブースト等の行動科学の知見とAI/IoT等の先端技術の組合せ(BI-Tech)により、国民の前向きで主体的な意識変革や行動変容を促し、国民が地域の脱炭素や成長を自分事化できるようにする。</p>	新22-0006
(77)	地域資源循環を通じた脱炭素化に向けた革新的触媒技術の開発・実証事業	-	-	-	1,900	1.2	<p>令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)</p>	新22-0007
(78)	潮流発電による地域の脱炭素化モデル構築事業	-	-	-	650	1.2	<p>令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)</p>	新22-0008
(79)	ESG金融実践促進事業	-	-	-	300	1.2	<p>令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)</p>	新22-0009
施策の予算額・執行額		149,575 (114,707)	162,540 (133,377)	181,903 (144,737)	146,224		<p>施策に関係する内閣の重要政策(施政方針演説等のうち主なもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化対策計画(令和3年10月22日閣議決定) ・新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画(令和4年6月7日閣議決定) ・経済財政運営と改革の基本方針2022(令和4年6月7日閣議決定) ・パリ協定に基づく成長戦略としての長期戦略(令和3年10月22日閣議決定) ・日本のNDC(国が決定する貢献)(令和3年10月22日閣議決定) 	

令和4年度実施施策に係る政策評価の事前分析表

(環境省R4-2)

別紙1

<p>施策名</p>	<p>目標1-2 世界全体での抜本的な排出削減への貢献</p>				<p>担当部局名</p>		<p>地球環境局 国際連携課 気候変動国際交渉室 国際脱炭素移行推進・環境インフラ担当 参事官室 脱炭素社会移行推進室 気候変動観測研究戦略室 地球温暖化対策課</p>	<p>作成責任者名 (※記入は任意)</p>	<p>川又孝太郎(国際連携課長) 青竹寛子(気候変動国際交渉室長) 水谷好洋(国際脱炭素移行推進・環境インフラ担当参事官) 伊藤忠雄(脱炭素社会移行推進室長) 山田浩司(気候変動観測研究戦略室長) 井上和也(地球温暖化対策課長)</p>				
<p>施策の概要</p>	<p>パリ協定の実施に向けて国際的な詳細ルールの構築に貢献する。また、2°C目標及び1.5°Cに制限するための努力を継続することが世界の共通目標となったこと等を踏まえ、世界全体での排出削減に貢献するため、二国間クレジット制度(JCM)等を通じ、途上国等への脱炭素技術等の普及を推進する。</p>				<p>政策体系上の位置付け</p>		<p>1. 地球温暖化対策の推進</p>						
<p>達成すべき目標</p>	<p>パリ協定の実施に向けた国際交渉に我が国としてリーダーシップを発揮するとともに、JCMを一層強力で推進するなど、世界全体での抜本的な排出削減に貢献する。カーボンニュートラルに向けて、世界中でビジネスチャンスが拡大する中、日本の優れた技術を活用して世界の脱炭素化に貢献する。</p>				<p>目標設定の考え方・根拠</p>		<p>・パリ協定(平成28年11月発効) ・地球温暖化対策計画(令和3年10月22日閣議決定) ・パリ協定に基づく成長戦略としての長期戦略(令和3年10月22日閣議決定) ・日本の国が決定する貢献(NDC)(令和3年10月22日地球温暖化対策推進本部決定) ・新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画(令和4年6月7日閣議決定) ・経済財政運営と改革の基本方針2022(令和4年6月7日閣議決定) ・インフラシステム海外展開戦略2025(令和2年12月10日決定、令和3年6月改訂) ・海外展開戦略(環境)(平成30年6月策定) ・COP26後の6条実施方針(令和3年10月環境省発表) ・環境省脱炭素インフライニシアティブ(令和3年6月策定)</p>	<p>政策評価実施予定時期</p>	<p>令和5年8月</p>				
<p>測定指標</p>	<p>基準</p>		<p>目標</p>		<p>施策の進捗状況(目標) 施策の進捗状況(実績)</p>							<p>測定指標の選定理由及び目標(水準・目標年度)の設定の根拠</p>	
<p>1 JCMを通じた令和12(2030)年度までの累積の国際的な排出削減・吸収量(単位:万t-CO2)(案件採択時の数値に基づく)</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>10,000</p>	<p>R12</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>地球温暖化対策計画(令和3年10月22日閣議決定)に基づき設定。</p>	
<p>測定指標</p>	<p>目標</p>		<p>目標年度</p>		<p>測定指標の選定理由及び目標(水準・目標年度)の設定の根拠</p>								
<p>2 パリ協定の実施に向けた貢献</p>	<p>-</p>		<p>R4年度</p>		<p>パリ協定が2020年から本格実施となり、途上国の削減目標(NDC)の支援等に積極的に取り組むことが不可欠であるため。</p>								
<p>3 IPCCへの貢献</p>	<p>第6次評価報告書、特別報告書等の作成</p>		<p>R4年度</p>		<p>IPCCの科学的知見は気候変動交渉や国内外の政策の科学的基盤として重要であるため。</p>								

達成手段 (開始年度)	予算額計(執行額) (百万円)			当初予算額 (百万円)	関連する 指標	達成手段の概要等	行政事業レビュー 事業番号
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度			
(1) 国際再生可能エネルギー機関分担金 (平成22年度)	39 (36)	39 (35)	39 (31)	39	2	<p><達成手段の概要> 再生可能エネルギーの開発とグローバルな普及促進を目的とする国際機関である国際再生可能エネルギー機関(IRENA)の活動に対して分担金を拠出する。</p> <p><達成手段の目標> 環境保全、気候保護、経済成長、持続可能な開発、エネルギーの安定供給等を図りつつ再生可能エネルギー(太陽光、風力、バイオ、地熱、水力及び海洋エネルギー)の導入と持続可能な利用を促進する。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> IRENAへの拠出を通じ、国際的な再生可能エネルギーの普及・促進に貢献する。</p>	017
(2) 気候変動枠組条約拠出金 (平成16年度)	179 (179)	168 (168)	165 (165)	175	2	<p><達成手段の概要> 気候変動枠組条約に参加する先進国の一員としての責任を果たすため、各国の削減目標・行動の着実な実施に資するMRV(測定・報告・検証)や、気候変動への適応対策を効果的に進めるための費用の一部を拠出する。</p> <p><達成手段の目標> 気候変動枠組条約、パリ協定等に基づく取組の効果的な実施。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> パリ協定の着実な実施のため、条約事務局が行っている取組の必要費用の一部を負担することにより貢献する。</p>	048
(3) パリ協定の実施に向けた検討経費 (平成19年度)	157 (146)	154 (134)	154 (142)	154	2	<p><達成手段の概要> パリ協定の実施に向けた詳細ルールの構築に係る交渉を進めるため、我が国の提案に関する検討を行うとともに、主要国の理解を得られるよう積極的に働きかける。また、途上国での排出削減を着実に実施するための能力向上や体制の構築等の政策に資する取組を行う。</p> <p><達成手段の目標> パリ協定の実施に向けた詳細ルールの交渉及び政策の進展。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> パリ協定の詳細ルールに関する検討を行い提案するとともに、中国やインド等の主要国に対して積極的に働きかけることにより、パリ協定の実施に向けた国際的な議論に貢献する。</p>	049
(4) 国別登録簿運営経費 (平成14年度)	77 (77)	77 (76)	77 (75)	75	-	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	050
(5) 二国間クレジット制度(JCM)資金支援事業(ADB拠出金) (平成26年度)	1,000 (1,000)	1,000 (1,000)	1000 (1000)	1,000	1, 2	<p><達成手段の概要> これまで導入コスト高から導入が進んでこなかった優れた脱炭素・低炭素技術の採用をADBの信託基金により追加コストを支援することで、各国の脱炭素社会への移行につなげ、削減分についてJCMクレジット化を図る。また、調達プロセスにおいてライフサイクルコスト等による評価手法を開発・導入することで、各国の能力構築によるさらなるJCMプロジェクトの形成、炭素市場メカニズムの形成を図り、アジア地域における市場拡大・普及展開につなげる。</p> <p><達成手段の目標> 民間企業等による優れた脱炭素技術等を活用した事業投資を促進し、途上国における温室効果ガスを削減するとともに、二国間クレジット制度を通じて我が国の温室効果ガス排出削減目標の達成に貢献する。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 世界的な温室効果ガスの排出削減に貢献するとともに、JCMのクレジットを獲得し、我が国の削減目標の達成に活用する。</p>	052
(6) 気候技術センター・ネットワーク(CTCN)を活用した脱炭素技術の移転支援 (平成26年度)	83 (79)	51 (51)	50 (50)	50	2	<p><達成手段の概要> 途上国に向けて気候変動に係る技術の開発・移転を実施・促進するために設置された気候技術センター・ネットワーク(CTCN)に対して資金拠出を行い、低炭素技術の実用化や普及を促進する。</p> <p><達成手段の目標> CTCNの実施を支援することにより、途上国における低炭素化の推進や温室効果ガスの排出削減に貢献し、気候変動交渉における日本のプレゼンスを向上させ、日本が世界に誇る脱炭素技術の海外展開を促進する。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> CTCNに対して資金拠出を行い、UNFCCC/京都議定書及びパリ協定のための気候変動交渉における我が国の立場を有利にし、且つCTCNを通じた途上国への技術支援において、我が国のネットワーク機関及び民間企業によるプロジェクト実施を通じた事業実施に貢献する。</p>	053

(7)	温室効果ガス観測技術衛星等による排出量検証に向けた技術高度化事業 (平成26年度)	1,890 (1,711)	1,611 (1,514)	3,528 (3,384)	2,500	2	<p><達成手段の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・温室効果ガス観測技術衛星「いぶき」(GOSAT)の後継機として平成30年10月に打ち上げた「いぶき2号」(GOSAT-2)の運用を行う。 ・GOSAT-2観測データからGHG濃度を算出するアルゴリズムの高度化を図ると共に地上観測等のデータを用いた校正・検証を行う。 ・GOSATシリーズの観測データ等で推計した人為起源の温室効果ガス(GHG)排出量とGHG排出インベントリを比較・評価のための実証実験を行う。 ・宇宙基本計画及び工程表に則り、2023年度打ち上げを目指し3号機(GOSAT-GW)の開発を進める。 <p><達成手段の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・GOSATに引き続きGOSAT-2を継続運用することで、二酸化炭素とメタンの地球全体の濃度分布を継続的に取得する。 ・濃度算出アルゴリズムの高度化及び地上観測等のデータを用いた校正・検証により、GOSAT-2観測データの精度向上を図る ・GOSATシリーズの観測データを利用したGHG排出インベントリの比較・評価手法を確立し、パリ協定に基づき2023年から行われるグローバルストックテイクにおける世界各国からのGHG排出量の検証・精度向上、並びにそれに基づいた効果的なGHG排出削減策の実施に貢献する。 ・GOSATシリーズによる継続的な全球観測体制を構築し、信頼性を維持するため3号機(GOSAT-GW)の開発を進める。 <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容></p> <p>GOSATシリーズの観測データを利用したGHG排出インベントリの比較・評価手法によって、特に途上国における正確なGHG排出量の把握と削減目標(NDC)の達成確認に寄与する。</p>	054
(8)	国連環境計画及びクリーン・エア・アジアへの拠出金 (平成20年度)	65 (65)	65 (65)	51 (51)	51	1.2	<p>令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)</p>	055
(9)	2050年カーボンニュートラルの実現に向けた中長期的温室効果ガス排出削減対策検討調査費 (平成29年度)	702 (619)	697 (676)	697 (633)	697	2	<p><達成手段の概要></p> <p>「国が決定する貢献」(削減目標等)の提出・更新等に関するパリ協定の規定を踏まえ、地球温暖化対策計画、パリ協定に基づく成長戦略としての長期戦略(以下「長期戦略」という。)の見直しを進めるべく、再生可能エネルギーの導入拡大や交通・社会システムの脱炭素化をはじめとする我が国の中期目標の達成及び2050年カーボンニュートラルの実現に向けて必要な施策・対策の検討や評価を定量的な分析ツールを用いて実施する。さらに、定期的(次回は2025年)及び随時のNDCの策定・提出、地球温暖化対策計画、長期戦略の次回見直しに資する基礎情報の収集・調査・検討を実施し、脱炭素社会への移行に向けて取組を加速するべく、中長期の課題に総合的に対応するための対策・施策を検討する。</p> <p><達成手段の目標></p> <p>温室効果ガス排出削減に向けた我が国の姿勢を世界に示すとともに、世界全体での抜本的な排出削減に貢献する。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容></p> <p>地球温暖化対策計画、長期戦略の見直しを進める。また、長期的な視点も考慮して、地球温暖化対策計画に定める対策・施策が着実に実施されていることを確認し、進捗が芳しくない場合には追加的に必要な対策・施策を企画・立案・実施する。</p>	056
(10)	気候変動に関する政府間パネル(IPCC)評価報告書作成支援事業 (平成18年度)	99 (99)	59 (36)	51 (48)	59	3	<p>令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)</p>	302
(11)	排出・吸収量世界標準算定方式確立事業拠出金等 (平成9年度)	177 (177)	177 (177)	177 (177)	179	3	<p>令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)</p>	088
(12)	世界銀行市場メカニズム実施基金への拠出金 (令和2年度)	-	330 (324)	49	-	1	<p>令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)</p>	066
(13)	UNIDO(国際連合工業開発機関)への拠出金 (令和3年度)	-	-	100	100	1	<p>令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)</p>	076

(14) 脱炭素移行支援基盤整備事業	2200 (1915)	2229 (1790)	2279 (1953)	2058	1, 2	<p><達成手段の概要> 「パリ協定」及び「地球温暖化対策計画」の目標達成のため、我が国はパリ協定6条に基づくJCMの構築・実施を通じて、途上国等における優れた脱炭素技術等の普及とCO2排出削減を推進。効果的・効率的なJCMの実施には、適切な制度構築・運用、信頼性確保に重要なMRVの促進等が重要であり、本事業では当該基盤整備事業、JCMにつながる事業を推進。</p> <p><達成手段の目標> 優れた脱炭素技術等による温室効果ガス排出削減への貢献が適切に評価されるJCMを多くの国で実施し、透明性向上、技術移転・普及に貢献するとともに脱炭素社会への実現を支援していく。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 世界的な温室効果ガスの排出削減に貢献するとともに、JCMのクレジットを獲得し、我が国の削減目標の達成に活用する。</p>	085
施策の予算額・執行額	6,668 (6,103)	6,657 (6,046)	8,417 (7,858)	7,137	施策に関する内閣の重要政策 (施政方針演説等のうち主なもの)	<ul style="list-style-type: none"> ・地球温暖化対策計画(令和3年10月22日閣議決定) ・パリ協定に基づく成長戦略としての長期戦略(令和3年10月22日閣議決定) ・日本のNDC(国が決定する貢献)(令和3年10月22日地球温暖化対策推進本部決定) ・新しい資本主義実行計画フォローアップ(令和4年6月7日閣議決定) ・インフラシステム海外展開戦略2025(令和2年12月10日決定、令和3年6月改訂) ・海外展開戦略(環境)(平成30年6月策定) ・パリ協定(平成28年11月発効) 	

令和4年度実施施策に係る政策評価の事前分析表

(環境省R4-3)

別紙1

施策名	目標1-3 気候変動の影響への適応策の推進				担当部局名	地球環境局 気候変動適応室	作成責任者名 (※記入は任意)	塚田源一郎(気候変動適応室長)					
施策の概要	気候変動適応法(平成30年法律第50号。以下「法」という。)及び気候変動適応計画(令和3年10月22日閣議決定)に基づき、関係省庁と連携しながら施策を推進するとともに、観測・監視や予測を行い気候変動影響評価を実施し、施策の進捗状況を把握し、必要に応じ見直すという順応的なアプローチによる適応を進める。また、日本国内に限らず、適応にかかる国際協力・貢献の推進も実施する。				政策体系上の位置付け	1. 地球温暖化対策の推進							
達成すべき目標	気候変動影響による被害の防止又は軽減その他生活の安定、社会若しくは経済の健全な発展又は自然環境の保全を図る気候変動適応を推進し、もって現在及び将来の国民の健康で文化的な生活の確保に寄与する。				目標設定の考え方・根拠	・気候変動適応法(平成30年法律第50号) ・気候変動適応計画(令和3年10月22日閣議決定)		政策評価実施予定時期 令和5年8月					
測定指標	基準値		目標値		年度ごとの目標値 年度ごとの実績値							測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠	
	基準年度	目標年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度				
1	気候変動適応法第12条に基づく地域気候変動適応計画を策定した都道府県・政令指定都市数	-	-	67	R5年度	-	-	-	-	67	-	-	法第12条において、都道府県及び市町村は、その区域における自然的経済的社会的状況に応じた気候変動適応に関する施策の推進を図るため、単独で又は共同して、気候変動適応計画を立案し、地域気候変動適応計画(その区域における自然的経済的社会的状況に応じた気候変動適応に関する計画という。)を策定するよう努めるものとして規定されているため。また、法附則第5条「適応法の施行後5年を経過した場合において、この法律の施行状況について検討を加え、必要があると認めるときは、その結果に基づいて所要の措置を講ずる」に則って、目標年度を5年後の令和5年度とした。
2	気候変動適応法第13条に基づく地域気候変動適応センターを確保した都道府県数	-	-	47	R5年度	-	-	-	-	47	-	-	法第13条において、都道府県及び市町村は、その区域における気候変動適応を推進するため、気候変動影響及び気候変動適応に関する情報の収集、整理、分析及び提供並びに技術的助言を行う拠点(地域気候変動適応センター)としての機能を担う体制を、単独で又は共同して、確保するよう努めるものとして規定されているため。また、法附則第5条「適応法の施行後5年を経過した場合において、この法律の施行状況について検討を加え、必要があると認めるときは、その結果に基づいて所要の措置を講ずる」に則って、目標年度を5年後の令和5年度とした。
測定指標	基準		目標		施策の進捗状況(目標) 施策の進捗状況(実績)							測定指標の選定理由及び目標(水準・目標年度)の設定の根拠	
	基準年度	目標年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度				
3	気候変動影響評価報告書の作成と、気候変動適応計画の策定・見直し	-	-	-	-	気候変動影響評価報告書の素案作成	適応法に基づく気候変動影響評価報告書の作成	気候変動適応計画の策定	次期気候変動影響評価報告書作成に向けた情報収集の開始	次期気候変動影響評価報告書作成に向けた情報収集	気候変動影響評価報告書の素案作成	適応法に基づく気候変動影響評価報告書の作成	法第7条において、政府は気候変動適応に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、気候変動適応に関する計画を定めなければならないものと規定されている。また、法第9条において、環境大臣は、おおむね5年ごとに、中央環境審議会の意見を聴いて、気候変動影響の総合的な評価についての報告書を作成しなければならないものとされている。そして、法第8条において、気候変動適応計画は、最新の当該報告書等を勘案して見直していくこととされているため。
4	気候変動影響評価・適応計画策定の協力プロジェクトを行った国の数	2	平成26年度	15	R5年度	10	12	13	14	15	-	-	法第18条において、政府は気候変動等に関する情報の国際間における共有体制を整備するとともに、開発途上地域に対する気候変動適応に関する技術協力その他の国際協力を推進するよう努めるものと規定されている。また気候変動適応計画(令和3年10月22日閣議決定)において、開発途上国への支援は基本戦略の一つとして定められており、アジア太平洋地域の脆弱国において適応計画策定や人材育成に貢献することとしているため。

達成手段 (開始年度)	予算額計(執行額) (百万円)			当初予算額 (百万円)	関連する 指標	達成手段の概要等	行政事業レビュー 事業番号
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度			
(1) 気候変動影響評価・適応 推進事業 (平成18年度)	865 (787)	850 (767)	810 (719)	810	1.2.3.4	<p>国内における気候変動適応の推進</p> <p><達成手段の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> 地方公共団体の区域を越えた広域の気候変動影響等に対する適応策の検討を行うとともに、関係者の連携体制を強化する。 適応e-ラーニングや各種ガイド、マニュアル等の活用を促し、地方公共団体や民間事業者、国民等、各主体の適応取組を推進する。 地域気候変動適応センターを支援し、地域における気候変動に関する情報収集等を推進する。 国の適応計画のフォローアップを行い、その過程で明らかになった課題等の整理を行う。 「気候変動適応計画」(令和3年10月22日閣議決定)で設定したKPIIによる計画の進展状況を把握するとともに、適応策による気候変動影響の低減効果の評価手法を開発検討する。 次期気候変動影響評価報告書(令和7年度予定)に向けて評価手法の検討を行う。 <p><達成手段の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> 地方公共団体による気候変動影響評価及び地域気候変動適応計画策定、地域気候変動適応センターの設置を促進する。 次期気候変動影響評価や施策の進捗、気候変動の進展を踏まえ、気候変動適応計画を改定する。 <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> 広域協議会や気候変動適応全国大会を通じた情報共有、適応e-ラーニングや各種ガイド、マニュアル等の活用促進を通じて、地方公共団体における地域気候変動適応計画の策定及び効果的な適応策の実施を促す。 適応計画のフォローアップにより、適応施策の進捗を適切に把握し、気候変動の影響評価及び適応計画の必要に応じた見直しに反映させることができる。 第2次気候変動影響評価報告書を周知することで、各主体の適応に関する取り組みの充実に寄与する。 地域気候変動適応センターの地域における気候変動影響等の情報収集を支援することで、センター活動の確立及び地方公共団体の地域気候変動適応計画の充実に寄与する。 地方公共団体の区域を越えた広域の気候変動影響等に対する関係者の連携体制を強化し、適応策の検討を行うことで、地域の気候変動に対する強靱性を向上する。 <p>適応にかかる開発途上国の支援</p> <p><達成手段の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> 10カ国において実施してきたNAPプロセス実施(ニーズ調査、適応計画策定、影響評価、適応事業化、モニタリング等)に係る技術協力成果の展開を図る。 アジア太平洋気候変動適応プラットフォーム(AP-PLAT)を活用する。 <p><達成手段の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> NAPプロセス実施(ニーズ調査、適応計画策定、影響評価、適応事業化、モニタリング等)に係る二国間協力事業成果をパッケージ化し、気候変動への脆弱性の高い地域に技術協力を展開する。 AP-PLATのコンテンツを充実させ、パートナー機関とのネットワーキングを通じて適応人材の能力強化を図る。 <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> 二国間協力事業により得られた成果を水平展開することにより、協力プロジェクト実施数の増加に寄与する。 	057
施策の予算額・執行額	865 (787)	850 (767)	810 (719)	810	<p>施策に関係する内閣の重要政策 (施政方針演説等のうち主なもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> 気候変動適応法(平成30年法律第50号) 気候変動適応計画(令和3年10月22日閣議決定) 新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画(令和4年6月7日閣議決定) 経済財政運営と改革の基本方針2022(令和4年6月7日閣議決定) 気候変動影響評価報告書(令和2年12月公表) 		

令和4年度実施施策に係る政策評価の事前分析表

(環境省R4-4)

別紙1

施策名	目標2-1 オゾン層の保護・回復				担当部局名	地球環境局 フロン対策室	作成責任者名 (※記入は任意)	豊住朝子 (フロン対策室長)				
施策の概要	オゾン層の状況の監視を行い、オゾン層破壊物質の生産・消費規制、排出抑制対策を実施し、さらにフロン類の回収・破壊を推進する。				政策体系上の 位置付け	2. 地球環境の保全						
達成すべき目標	オゾン層破壊物質の生産・消費量の削減、既に使用されているオゾン層破壊物質の大気への放出を抑制することにより、オゾン層の保護・回復を図り、有害紫外線による人の健康や生態系への悪影響を軽減する。				目標設定の 考え方・根拠	モントリオール議定書	政策評価実施予定時期	令和5年8月				
測定指標	基準値	基準年度	目標値	目標年度	年度ごとの目標値 年度ごとの実績値							測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠
					R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
1 PRTRによるオゾン層破壊物質の排出量のODP換算値(ODPtン)	-	-	減少傾向を維持	-	-	-	-	-	-	-	-	オゾン層破壊物質の排出量をできるだけ削減する必要があるため。
2 業務用冷凍空調機器からの廃棄時等のフロン類回収率(%)	-	-	75%	R12年度	-	-	-	-	-	-	-	地球温暖化対策計画に基づき、廃棄時等のHFCの回収率を令和12年度までに7割にする必要があるため(現在は回収率が3割程度で推移している)。
達成手段 (開始年度)	予算額計(執行額) (百万円)			当初予算額 (百万円)	関連する 指標	達成手段の概要等					行政事業レビュー 事業番号	
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度								
(1) フロン等対策推進調査費 (平成元年度)	258 (240)	312 (276)	367 (265)	298	1.2.3	令和4年度行政事業レビューページURL (https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)					086	
施策の予算額・執行額	258 (240)	312 (276)	367 (265)	298	施策に関係する内閣の重要政策 (施政方針演説等のうち主なもの)	地球温暖化対策計画(令和3年10月22日閣議決定)						

令和4年度実施施策に係る政策評価の事前分析表

(環境省R4-5)

別紙1

施策名	目標2-2 地球環境保全に関する国際連携・協力				担当部局名	地球環境局 気候変動適応室 国際連携課 気候変動国際交渉室 国際脱炭素移行推進・環境インフラ担当 参事官室	作成責任者名 (※記入は任意)	塚田源一郎(気候変動適応室長) 川又孝太郎(国際連携課長) 青竹寛子(気候変動国際交渉室長) 水谷好洋(国際脱炭素移行推進・環境インフラ担当参事官)			
施策の概要	環境保全に関する主要国際会議への対応をはじめ、二国間、地域、多国間の全てのフェーズで、あらゆるチャネルでの対話を通じた重層的な環境外交を展開する。				政策体系上の位置付け	2. 地球環境の保全					
達成すべき目標	環境保全に関する世界的な枠組みづくりやルール形成等に積極的に貢献するとともに、アジアを始めとする各国及び国際機関との連携協力を進め、世界の環境政策を牽引する。				目標設定の考え方・根拠	環境基本法第5条(国際的協調による地球環境保全の積極的推進)	政策評価実施予定時期	令和5年8月			
測定指標	基準値	目標値		年度ごとの目標値 年度ごとの実績値							測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠
		基準年度	目標年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
1 多国間協力案件数(上段)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	多国間協力案件数及び二国間協力案件数は、アジアを始めとする各国及び国際機関との連携協力がどれほど進んでいるのかを測定できる一つの指標であるため。
二国間協力案件数(下段)	-	-	-	66	78	82	-	-	-	-	
達成手段(開始年度)	予算額計(執行額) (百万円)			当初予算額 (百万円)	関連する指標	達成手段の概要等					行政事業レビュー 事業番号
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度							
(1) 経済協力開発機構拠出金(平成7年度)	68 (68)	101 (101)	99 (99)	126	1	<p><達成手段の概要・目標> OECDの環境プログラムのうち、気候変動分野における各種分析、気候変動枠組条約の実施を助けるために実施している作業、加盟国等の環境保全成果について相互に審査を行う作業や化学品の有害性評価手法(基準)の策定に関する作業など、環境省で積極的に関与し活用しているものに対し、プログラムごとの金額分配を指定した上で拠出を行う。 また、令和4年度においては、ドイツ議長下G7の議論を踏まえ、日本が議長国となる令和5年度のG7への上述の分野及び環境インフラ、生物多様性、資源効率性等の分野でのインプットを求めつつ、ひいては環境分野での取組が経済発展に繋がることを世界に示し、環境の主流化を図ることを目標とする。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 環境分野、とりわけ経済的側面からの環境問題の分析において数々の業績を残している国際機関であるOECDと協働することによって、国際的な枠組みづくり・ルール形成等への積極的な貢献を行うとともに、各国や主要国際機関との連携・協力を推進することができる。</p>					087
(2) 排出・吸収量世界標準算定方式確立事業拠出金等(再掲)(平成9年度)	177 (177)	177 (177)	177 (177)	179	1	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)					088

<p>(3) 国際連合環境計画拠出金等 (平成16年度)</p>	<p>320 (320)</p>	<p>287 (287)</p>	<p>233 (233)</p>	<p>388</p>	<p>1</p>	<p><達成手段の概要・目標> ・UNEP拠出金(平成16年度～) 国際連合システム内外における環境関連活動の唯一の総合調整機関であるUNEPへ拠出金を拠出することにより、今後のUNEPにおける我が国のプレゼンスを高め、我が国に蓄積された知識、経験、技術等を国際環境政策にインプットし、世界共通の課題に国際的な貢献を行う。 ・UNEP国際環境技術センター(IETC)拠出金(平成16年度～) 廃棄物管理分野等における専門的技術やノウハウを開発途上国へ移転する事業を実施するIETCへ拠出金を拠出することにより、その継続的な活動やプログラムの実施を支援することで、その機能を発揮させ我が国の環境分野における大きな国際貢献を実現する。また、IETCを通じて我が国が有する環境分野の制度、技術、ノウハウを世界に提供する。 ・アジア太平洋適応ネットワーク事務局等への拠出(平成26年度～) アジア太平洋を中心としたアジア太平洋適応ネットワーク事務局を担うUNEP-ROAP等へ拠出を行うことにより、同事務局運営を中心に世界適応ネットワークの活動を支援する。 ・CCAC拠出金(平成25年度～) UNEPに事務局を置く「短寿命気候汚染物質削減のための気候と大気浄化の国際パートナーシップ(CCAC)」に対し、平成24年4月に日本国は参加を表明し、参加国として相応の貢献を行うことが必要不可欠であるため、気候変動対策と大気汚染防止の双方を所管する環境省から、当枠組みに対し資金拠出を行う。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 国際連合環境計画(UNEP)は国連の下に設置された環境に関する問題を国際的かつ横断的に扱う唯一の組織であり、当該組織の活動を支援することにより、世界全体での環境保全の推進に貢献するとともに、我が国の有する環境分野の知見・経験・技術等を各国と共有する。また、アジア地域などの途上国における短寿命気候汚染物質及びエネルギー起源CO2の一体的削減に寄与し、気候変動及び大気汚染の防止に貢献する。</p>	<p>089</p>
<p>(4) 国際連合気候変動枠組条約事務局拠出金 (平成21年度)</p>	<p>21 (16)</p>	<p>21 (13)</p>	<p>20 (13)</p>	<p>19</p>	<p>1</p>	<p><達成手段の概要・目標> 同事務局に我が国から専門家を派遣し、同事務局と意思疎通を促進することにより求める主な成果は以下のとおり。 ・政府間プロセスを支援し、実施に関する補助機関(SBI)に報告される内容の準備 ・資金、緩和、持続可能な開発にかかる政策及び措置に関する情報のまとめ及び分析支援 ・非付属書1国が国別報告書を作成するに当たっての技術及び能力に関するニーズを把握し、これを改善する提言等</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 同事務局に拠出金を拠出することにより、地球環境保全に関する国際協力に寄与する。</p>	<p>090</p>
<p>(5) 国際連携戦略推進費 (平成23年度)</p>	<p>122 (104)</p>	<p>197 (131)</p>	<p>187 (95)</p>	<p>190</p>	<p>1</p>	<p><達成手段の概要> 「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の採択を受け、各国においてSDGsの実施が進んでいる。我が国としても各国・関連国際機関の状況等を調査・分析しながら、SDGsの環境側面の実施が不可欠である。また環境と貿易の観点からは、TPP協定や、EU、英等との経済連携協定(EPA)・自由貿易交渉(FTA)について、締結後の体制整備等を円滑に行うとともに、貿易と環境保全・環境改善を両立させるために貿易交渉や関連する国際会議に戦略的に臨むため、関係国への調査及び協議を行い、実施に関する検討を進める。さらに近年、環境・気候変動が国際社会の主要課題の一つとなっていることから、G7、G20を始めとする種々の多国間枠組において国際的な議論を牽引していくために、これに対する戦略的な調査、検討を推進する。</p> <p><達成手段の目標> ・各国や関連国際機関のポジション及び国際的な議論の動向を調査し、各種交渉に活用するとともに、政策レベルの協議の結果等も踏まえ、国際社会に対し積極的な貢献を行うことにより、持続可能な開発や環境保全の国際的議論をリードする。 ・環境保全に関わる国際的議論を牽引するため、戦略的国際広報を推進する。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 各国政府や国際機関における環境分野のポジションや取組状況等について調査・分析を行い、環境保全に係る国際連携戦略の検討を実施し、国際取決めを着実に実施するとともに、国際社会に対し積極的な貢献を行うことにより、各国や主要国際機関との連携・協力を推進するとともに、持続可能な開発や環境保全の国際的議論をリードすることができる。</p>	<p>091</p>
<p>(6) 環境国際協力・インフラ戦略推進費 (平成10年度)</p>	<p>275 (233)</p>	<p>465 (393)</p>	<p>512 (410)</p>	<p>498</p>	<p>1</p>	<p><達成手段の概要・目標> ・持続可能な開発目標(SDGs)のもと、具体的な技術協力等を進めるとともに、日中韓、ASEAN等の枠組みを活用し、途上国の環境問題解決と我が国の外交の戦略的推進に貢献する。インフラシステム海外展開戦略2025に基づき、コロナ禍でのインフラの需要増・生活様式の変容を踏まえて環境インフラ海外展開を促進する。 ・東アジア・東南アジア地域において、SDGsの達成を支援すべく、日ASEAN環境協力対話や環境的に持続可能な都市ハイレベルセミナー等の機会を捉え、我が国の技術及び経験を広め、途上国における持続可能な発展を促す。また、2018年11月の「ASEAN+3海洋プラスチックごみ協力アクション・イニシアティブ」に基づき、ASEAN各国の海洋プラスチックごみ対策を推進する。(平成21年度～) ・東アジアの中核国である日中韓3カ国において、日中韓3カ国環境大臣会合(TEM)を継続的に開催するとともに、各種TEMプロジェクトの実施を推進する。(平成10年度～) ・日中の環境協力を見越した環境動向調査を行うとともに、日モンゴル、日インドネシア、日ベトナム、日シンガポール、日タイ、日ミャンマー、日サウジアラビア等においても政策対話等を通じて環境協力を推進する</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 途上国において増大する環境負荷を低減し、脱炭素社会への移行に寄与するため、東アジア首脳会議環境大臣会合、ASEAN+3環境大臣会合及び日中韓3カ国環境大臣会合等において環境協力を進めると同時に、二国間環境政策対話の実施や各個別環境協力プロジェクトの形成及び推進を行うことにより、SDGsの理念に基づいた国際的な枠組みづくり・ルール形成等への積極的な貢献を行うとともに、各国や主要国際機関との連携・協力を推進することができる。</p>	<p>092</p>

(7)	モントリオール議定書多数国間基金拠出金（HFC分）（ODA） （令和元年度）	24 (24)	24 (24)	24 (24)	24	1	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	093
(8)	気候変動に関する政府間パネル（IPCC）評価報告書作成支援事業（再掲） （平成18年度）	99 (99)	59 (36)	51 (48)	59	1	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	301
施策の予算額・執行額		1,106 (1,041)	1,331 (1,162)	1,303 (1,099)	1,348	施策に関する内閣の重要政策 （施政方針演説等のうち主なもの）	・第五次環境基本計画（平成30年4月17日閣議決定） ・地球温暖化対策計画（令和3年10月22日閣議決定） ・地球温暖化対策の推進に関する法律（平成10年度法律第117号）	

令和4年度実施施策に係る政策評価の事前分析表

(環境省R4-6)

別紙1

施策名	目標2-3 地球環境保全に関する研究調査				担当部局名	地球環境局 気候変動適応室 気候変動観測研究戦略室		作成責任者名 (※記入は任意)	塚田源一郎(気候変動適応室長) 山田浩司(気候変動観測研究戦略室長)			
施策の概要	国内外の研究機関とのネットワーク構築等を通じ、地球環境分野のモニタリングや調査研究を推進する。				政策体系上の位置付け	2. 地球環境の保全						
達成すべき目標	地球環境保全の基盤となる知見、技術、データ、情報を獲得し、途上国等へその知見等を展開・共有し、地球環境問題の解決に貢献する。				目標設定の考え方・根拠	<ul style="list-style-type: none"> ・気候変動適応法(平成30年法律第50号) ・気候変動適応計画(令和3年10月22日閣議決定) ・革新的環境イノベーション戦略(令和2年1月21日統合イノベーション戦略推進会議決定) ・2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略(令和3年6月18日策定) ・第6期科学技術・イノベーション基本計画(令和3年3月26日閣議決定) ・地球温暖化対策計画(令和3年10月22日閣議決定) ・国の研究開発評価に関する大綱的指針(平成28年12月21日内閣総理大臣決定) 			政策評価実施予定時期	令和5年8月		
測定指標	基準値		目標値		年度ごとの目標値 年度ごとの実績値							測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠
	基準年度		目標年度		R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
1 地球環境保全試験研究費による業務終了翌年度に実施する事後評価(5点満点)で4点以上を獲得した課題数(4点以上の課題数/全評価対象課題数)の過去5年間の平均	-	-	60%以上	-	60%	60%	60%	60%	-	-	-	地球環境保全試験研究費は、研究開発成果の「社会的・経済的・行政的価値」、「科学的・技術的価値」等の必要性・有効性・効率性に関する指標を用い、事業終了後に「事後評価」を外部評価委員会により実施している。指標と目標の設定については、優れた研究であったと説明できる4点以上の研究開発課題が全体の60%を占めることが概ね国民理解を得られるラインと考えられ、また単年度ごとの評価では課題数が少なく適切な評価ができないため、過去5年間の平均とする。
測定指標	基準		目標		施策の進捗状況(目標) 施策の進捗状況(実績)							測定指標の選定理由及び目標(水準・目標年度)の設定の根拠
	基準年度		目標年度		R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
2 各種成果の政府計画、施策、国際協力、普及啓発等への活用	-	-	-	-	成果の施策への活用	成果の施策への活用	成果の施策への活用	-	-	-	-	地球温暖化対策として、温室効果ガスの削減や気候変動による影響への適応は必要不可欠であることから、地球環境分野のモニタリングや調査研究を推進し、地球環境保全の基盤となる知見、技術、データ、情報を獲得して施策等に活用するとともに、途上国等へその知見等を展開・共有するなど、各種成果を政府計画、施策、国際協力、普及啓発等へ活用することが重要であるため。

達成手段 (開始年度)	予算額計(執行額) (百万円)			当初予算額 (百万円)	関連する 指標	達成手段の概要等	行政事業レビュー 事業番号
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度			
(1) 地球環境戦略研究機関拠 出金 (平成10年度)	500 (500)	500 (500)	500 (500)	500	2	<p><達成手段の概要・目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な開発目標(SDGs)のもと、具体的な技術協力等を進めるとともに、日中韓、ASEAN等の枠組みを活用し、途上国の環境問題解決と我が国の外交の戦略的推進に貢献する。インフラシステム海外展開2025に基づき、コロナ禍でのインフラの需要増・生活様式の変容を踏まえて環境インフラ海外展開を促進する。 ・東アジア・東南アジア地域において、SDGsの達成を支援すべく、日ASEAN環境協力対話や環境的に持続可能な都市ハイレベルセミナー等の機会を捉え我が国の技術及び経験を広め、途上国における持続可能な発展を促す。また、2018年11月の「ASEAN+3海洋プラスチックごみ協力アクション・イニシアティブ」に基づき、ASEAN各国の海洋プラスチックごみ対策を推進する。(平成21年度～) ・東アジアの中核国である日中韓3カ国において、日中韓三カ国環境大臣会合(TEM)を継続的に開催するとともに、各種TEMプロジェクトの実施を推進する。(平成10年度～) ・日中の環境協力を見越した環境動向調査を行うとともに、日モンゴル、日インドネシア、日ベトナム、日シンガポール、日タイ、日ミャンマー、日サウジアラビア等においても政策対話等を通じて環境協力を推進する <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容></p> <p>途上国において増大する環境負荷を低減し、脱炭素社会への移行に寄与するため、東アジア首脳会議環境大臣会合、ASEAN+3環境大臣会合及び日中韓三カ国環境大臣会合等において環境協力を進めると同時に、二国間環境政策対話の実施や各個別環境協力プロジェクトの形成及び推進を行うことにより、SDGsの理念に基づいた国際的な枠組みづくり・ルール形成等への積極的な貢献を行うとともに、各国や主要国際機関との連携・協力を推進することができる。</p>	102
(2) 地球環境に関するアジア 太平洋地域共同研究・観 測事業拠出金 (平成16年度)	210 (210)	210 (210)	206 (206)	206	2	<p><達成手段の概要></p> <p>アジア太平洋地球変動研究ネットワーク(APN)は公募型の先進国・途上国共同研究の推進やセミナー等の開催による能力開発事業の推進を行う組織であり、わが国環境省は継続して拠出金による支援を実施しており、当省の政策目的に沿った活動を行うよう随時活動方針を参加国と協議している。研究対象案件は、国際公募した上で厳密な審査を経て運営委員会が承認し、その成果は政府間会合に報告される。また、本ネットワークによるセミナーや政策対話を通じて、参加国間の連携を強化するとともに、ウェブ、ニュースレター、研究報告書を通じた情報発信等を行う。</p> <p><達成手段の目標></p> <p>競争的資金を活用した効率的な採択を行い、途上国のニーズに応える形で、我が国の科学的知見を共有する。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容></p> <p>競争的資金により地球環境に関する研究の促進、セミナーの開催、ウェブやニュースレター等による成果の情報提供が促進される。途上国による積極的参加によりアジア太平洋地域全体の研究能力の向上に寄与する。</p>	103
(3) 地球環境保全試験研究費 (平成13年度)	214 (192)	214 (184)	213 (205)	214	1.2	<p><達成手段の概要></p> <p>地球環境保全試験研究費(平成13年度～)</p> <p>関係行政機関及び関係行政機関の試験研究機関が実施する地球環境の保全に関する試験研究について、効率的かつ総合的な試験研究計画等の推進を図るため、環境省設置法第4条第3号の規定に基づき関係予算を一括計上して、予算成立後関係行政機関へ移し替えることにより、試験研究の一元的推進を図る。</p> <p><達成手段の目標></p> <p>気候変動等の地球環境問題について、中・長期的視点に立った問題解決に向けた基盤となる科学的知見の蓄積を図る。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容></p> <p>本事業における研究は、中・長期的視点も踏まえ、計画的・着実に進めるべきものであり、観測結果等の成果は、気候変動対策を始め地球環境政策の立案・実施に科学的基盤を与えるものである。</p>	104

<p>GOSATシリーズによる地球環境観測事業 (平成18年度)</p>	<p>85 (77)</p>	<p>749 (677)</p>	<p>4,951 (4,889)</p>	<p>205</p>	<p>2</p>	<p><達成手段の概要> ・主要な温室効果ガス(GHG)である二酸化炭素やメタンの全球濃度分布とその時間的変動等、GOSATおよびGOSAT-2の継続した観測データを解析することで得られた知見を簡潔にまとめ、関係機関に限らず広く国内外に発信する。 ・パリ協定に基づき各国が報告する温室効果ガス排出量との透明性の高い比較・検証手法として、GOSATシリーズの観測データを今後世界各国が自ら利活用できるよう、世界各国のGHG排出インベントリへの利活用を促進する。 ・宇宙基本計画及び工程表に基づき、GOSAT-GW衛星観測システム設計・試作を行い、令和5年度の打上げを目指す。</p> <p><達成手段の目標> ・平成21年のGOSAT打ち上げからこれまでの観測結果と成果を国内外に向け発信することで、データの利用促進と気候変動に関する政策の立案・実施に貢献する。 ・他国が自らGOSATシリーズのデータを政策決定に利活用できるようにすることで、排出量削減目標に関する政策などに貢献する。 ・GOSATシリーズによる継続的な全球のGHG観測体制を構築する。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> GOSAT及びGOSAT-2によって得られた二酸化炭素やメタンの全球濃度分布とその時間的変動等、並びにそこから得られた知見を広く国内外に発信することで、世界各国の温室効果ガス排出削減の施策の普及啓発に寄与する。 GOSATシリーズの観測データを利用したGHG排出インベントリの比較・検証手法を世界各国が利活用・促進により、世界各国における正確なGHG排出量の把握とそれに基づいた効果的な削減の施策に寄与する。</p>	<p>315</p>
<p>施策の予算額・執行額</p>	<p>1,874 (1,676)</p>	<p>1,673 (1,571)</p>	<p>5,870 (5,690)</p>	<p>1,125</p>	<p>施策に関する内閣の重要政策 (施政方針演説等のうち主なもの)</p>	<p>・気候変動適応法(平成30年法律第50号) ・革新的環境イノベーション戦略(令和2年1月21日統合イノベーション戦略推進会議決定) ・宇宙基本計画(令和2年6月30日閣議決定) ・宇宙基本計画工程表(令和2年6月29日日本部決定) ・2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略(令和3年6月18日策定)</p>	

令和4年度実施施策に係る政策評価の事前分析表

別紙1

(環境省R4-7)

施策名	目標3-1 大気環境の保全(酸性雨・黄砂対策を含む)				担当部局名	水・大気環境局 総務課 大気環境課 環境管理技術室 自動車環境対策課 水・大気環境国際協力推進室		作成責任者名 (※記入は任意)	福島健彦(総務課長 /自動車環境対策課長) 鈴木延昌(環境管理 技術室長) 太田志津子(大気環 境課長) 堤 達平(国際協力推 進室長)			
施策の概要	固定発生源及び自動車等からの排出ガスによる大気汚染に関し、大気汚染に係る環境基準等の達成状況の改善を図り、大気環境を保全する。また、酸性雨や黄砂等の広域大気汚染の影響を含む大気環境の状況をより的確に把握するため、人の健康の保護と生活環境の保全の基礎となる評価・監視体制の整備、科学的知見の充実等を進める。				政策体系上の 位置付け	3. 大気・水・土壌環境等の保全						
達成すべき目標	大気汚染に係る環境基準達成率の向上、降水酸性度の減少等を図り、大気環境の保全を図る。				目標設定の 考え方・根拠	環境基本法第16条に定める環境基準 越境大気汚染・酸性雨長期モニタリング計画		政策評価実施予定時期	令和5年8月			
測定指標	基準値		目標値		年度ごとの目標値 年度ごとの実績値							測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠
	基準年度	基準年度	目標年度	目標年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
1 全国の一般環境大気測定局における大気汚染に係る環境基準達成率(%)	—	—	100	—	別紙の通り							環境基本法第16条に基づく環境基準は、「人の健康を保護し、及び生活環境を保全する上で維持されることが望ましい基準」として定められたものであり、その達成率は、人の健康の保護と生活環境の保全を図るうえで、大気環境の状況を最も的確に把握できる数値であるため、測定指標として選定した。
2 全国の自動車排出ガス測定局における大気汚染に係る環境基準達成率(%)	—	—	100	—	別紙の通り							環境基本法第16条に基づく環境基準は、「人の健康を保護し、及び生活環境を保全する上で維持されることが望ましい基準」として定められたものであり、その達成率は、人の健康の保護と生活環境の保全を図るうえで、大気環境の状況を最も的確に把握できる数値であるため、測定指標として選定した。
3 大都市地域における自動車排出ガス測定局における大気汚染に係る環境基準達成率(%)	—	—	100	—	別紙の通り							自動車NOx・PM法は、自動車交通量が多く、自動車単体の排出ガス規制などの措置のみによっては大気環境基準の確保が困難な地域を指定し、特別の対策を行う法律であり、その対策地域に設置された自動車排出ガス測定局における環境基準達成率は、当該地域における対策の効果を把握するのに適した数値であるため、測定指標として選定した。
4 我が国の降水中pHの加重平均値(pH)	—	—	5.6pH	—	—	—	—	—	—	—	—	全国の酸性雨調査モニタリングデータのうち、国民にとって身近な値を公表することにより、国民の不安解消と現状認識の向上を図り、かつ効果を把握することにも適した数値であるため、測定指標として選定した。
5 アスベスト大気濃度調査において、10本/L未満で石綿が検出された地点数の割合(%)	—	—	100	—	100	100	100	100	100	100	100	大気汚染防止法において、特定粉じん発生施設の敷地境界基準は10本/Lとされており、当該測定指標は、アスベストの飛散防止対策を図るうえで、大気環境の状況を最も的確に把握できる数値であるため、測定指標として選定した。
6 解体等工事に係る事前調査結果の報告件数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	大気汚染防止法において、解体等工事に当たり、適切なアスベスト飛散防止対策を講じるため、事前に特定建設材料の有無等を調査することとされており、当該報告件数は、その進捗を把握するのに的確であるため、測定指標として選定した。
7 全国の継続測定地点における水銀の指針値達成率(%)	—	—	100	—	100	100	100	100	100	100	100	中央環境審議会「今後の有害大気汚染物質対策のあり方について」(第七次答申)より、水銀の指針値は年平均値が0.04μg Hg/m ³ 以下と設定されており、全国の大気中の水銀濃度が指針値を継続的に達成していることを図るうえで、大気環境の状況を最も的確に把握できる数値であるため、測定指標として設定した。

測定指標	目標		測定指標の選定理由及び目標(水準・目標年度)の設定の根拠				
	目標	目標年度					
8 国内及び東アジア地域における酸性雨・黄砂に係るモニタリングデータの把握・共有	—	—	全国の酸性雨調査及び黄砂飛散状況のモニタリングデータを公表することにより、国民の不安解消及び調査研究への活用を図るほか、モニタリングデータを関係諸国間で共有し、酸性雨及び黄砂の対策を国際的に議論するための基礎データとすることにより、東アジアの大気環境の改善に資することを目標とした。				
9 諸外国等の放射性物質に係る取組み状況等の情報の把握	—	—	我が国における一般環境中の放射性物質による環境の汚染の防止のための措置等及びその在り方に関する検討等に資するものとして、諸外国等の放射性物質に係る取組状況等や放射性物質による健康影響に関する最新情報等の把握を行うため、測定指標として選定した。また、当該検討結果に基づき、必要に応じた放射性物質に係る環境汚染の防止を図ることを目標とした。				
10 放射性物質に係る環境汚染の防止	—	—	諸外国等の放射性物質に係る取組状況等や放射性物質による健康影響に関する最新情報等の把握により、我が国における一般環境中の放射性物質による環境の汚染の防止のための措置等及びその在り方に関する検討等を行い、必要に応じた放射性物質に係る環境汚染の防止のための措置をとるため、測定指標として選定した。また、当該措置をとることにより、大気環境の改善・保全を図ることを目標とした。				
達成手段 (開始年度)	予算額計(執行額) (百万円)				関連する 指標	達成手段の概要等	行政事業レビュー 事業番号
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度			
(1) 大気環境基準等設定業務費 (昭和49年度)	43	42	46	49	1	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0097
(2) 大気環境監視測定網整備 推進費 (昭和46年度)	78	75	69	66	1	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0098
(3) 大気汚染防止規制等対策 推進費 (昭和47年度)	24	20	99	24	1	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0099
(4) 有害大気汚染物質等対策 推進費 (平成23年度組替)	131	130	124	120	1	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0100
(5) アスベスト飛散防止総合対 策費 (平成23年度組替)	72	162	200	87	5	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0101
(6) 在日米軍施設・区域周辺 環境保全対策費 (昭和53年度)	11	11	11	10	1	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0102
(7) コベネフィット・アプローチ 推進事業費 (平成22年度)	111	104	103	103	7	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0103
(8) ICT等を活用した公害防止 管理のスマート化検討費 〔「公害防止管理推進調査 対策検討費」を名称変更〕 (平成19年度)	2	2	2	24	1	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0104
(9) 微小粒子状物質(PM2.5) 等総合対策費 (平成20年度)	521	492	452	442	1	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0105
(10) 大気環境監視システム整 備経費 (昭和47年度)	160	134	109	—	1	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0106
(11) 越境大気汚染対策推進費 (平成23年度組替)	358	343	311	280	4	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0107

(12) 自動車大気汚染対策等推進費 (平成23年度組替)	166	166	157	169	1,2,3	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0108
(13) オフロード特殊自動車排出ガス対策事業費 (平成18年度)	32	32	48	31	1,2,3	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0109
(14) 船舶・航空機排出ガス対策検討調査 (平成19年度)	9	9	9	10	1	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0110
(15) 自動車排出ガス・騒音規制強化等の推進 (平成12年度) 【関連R4-8】	348	348	341	308	1,2,3	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0111
(16) 自動車交通環境監視測定費 (昭和38年度)	67	54	40	41	1,2,3	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0112
(17) EST普及推進・エコモビリティ技術海外展開推進費 (「国際連合地域開発センター拠出金」を統合) (令和2年度)	-	26	30	29	-	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0141
(18) 東アジア酸性雨モニタリングネットワーク拠出金 (平成14年度)	84	84	84	84	6	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0113
(19) 環境測定等に関する調査費 (昭和50年度) 【関連R4-9、関連R4-10】	21	21	21	20	1	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0114
(20) 水銀大気排出対策推進事業費 (平成27年度)	38	36	33	31	6	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0115
施策の予算額・執行額	2,301 (2,196)	2,451 (2,293)	2,392 (2,340)	1,928	施策に係る内閣の重要政策 (施政方針演説等のうち主なもの)	○第五次環境基本計画(平成30年4月17日閣議決定) ○自動車NOx・PM総量削減基本方針(平成23年3月25日閣議決定)	

別紙

①全国の一般環境大気測定局における大気汚染に係る環境基準達成率[%]

ア. 二酸化いおう(SO₂) エ. 二酸化窒素(NO₂) キ. トリクロロエチレン コ. 微小粒子状物質(PM_{2.5})
 イ. 一酸化炭素(CO) オ. 光化学オキシダント(Ox) ク. テトラクロロエチレン
 ウ. 浮遊粒子状物質(SPM) カ. ベンゼン ケ. ジクロロメタン

②全国の自動車排出ガス測定局における大気汚染に係る環境基準達成率[%]

ア. 二酸化窒素(NO₂) ウ. 光化学オキシダント オ. 一酸化炭素(CO)
 イ. 浮遊粒子状物質(SPM) エ. 二酸化いおう(SO₂) カ. 微小粒子状物質(PM_{2.5})

③大都市地域における自動車排出ガス測定局における大気汚染に係る環境基準達成率[%]

ア. 二酸化窒素(NO₂) イ. 浮遊粒子状物質(SPM)

年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	目標年	目標値
①ア	99.7	99.6	99.9	100	99.8	99.9	99.8	99.7	-	100
イ	100	100	100	100	100	100	100	100	-	100
ウ	97.3	99.7	99.6	100	99.8	99.8	100	99.9	-	100
エ	100	100	100	100	100	100	100	100	-	100
オ	0.3	0	0	0.1	0	0.1	0.2	0.2	-	100
カ	99.8	100	100	99.8	100	100	100	100	-	100
キ	100	100	100	100	100	100	100	100	-	100
ク	100	100	100	100	100	100	100	100	-	100
ケ	100	100	100	100	100	100	100	100	-	100
コ	16.1	37.8	74.5	88.7	89.9	93.5	98.7	98.3	-	100
②ア	99	99.5	99.8	99.7	99.7	99.7	100	100	-	100
イ	94.7	100	99.7	100	100	100	100	100	-	100
ウ	0	3.6	0	0	0	0	0	0	-	100
エ	100	100	100	100	100	100	100	100	-	100
オ	100	100	100	100	100	100	100	100	-	100
カ	13.3	25.8	58.4	88.3	86.2	93.1	98.3	98.3	-	100
③ア	98.6	99.1	99.5	99.5	99.5	99.5	100	100	-	100
イ	92.3	100	99.5	100	100	100	100	100	-	100

令和4年度実施施策に係る政策評価の事前分析表

(環境省R4-8)

別紙1

施策名	目標3-2 大気生活環境の保全				担当部局名	水・大気環境局 大気生活環境室 環境管理技術室 自動車環境対策課		作成責任者名 (※記入は任意)	鈴木克彦(大気生活環境室長) 鈴木延昌(環境管理技術室長) 福島健彦(自動車環境対策課長)			
施策の概要	騒音・振動・悪臭の防止対策やヒートアイランド対策による大気生活環境の保全				政策体系上の位置付け	3. 大気・水・土壌環境等の保全						
達成すべき目標	騒音・振動・悪臭の発生防止や、ヒートアイランド問題の改善により、良好な大気生活環境を保全する。				目標設定の考え方・根拠	環境基本法第16条に定める環境基準		政策評価実施予定時期		令和5年8月		
測定指標	基準値	目標値	年度ごとの目標値 年度ごとの実績値									測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠
			基準年度	目標年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
1 騒音に係る環境基準達成状況(%)	-	100	-	100	-	-	-	-	-	-	-	環境基本法第16条に基づく環境基準は、「人の健康を保護し、及び生活環境を保全する上で維持されることが望ましい基準」として定められたものであり、その達成率は、人の健康の保護と生活環境の保全を図るうえで、全国の騒音の状況の度合いを把握するものとしての的確であるため、測定指標として選定した。
2 自動車騒音に係る環境基準達成状況(道路に面する地域)(%)	-	100	-	-	-	-	-	-	-	-	-	環境基本法第16条に基づく環境基準は、「人の健康を保護し、及び生活環境を保全する上で維持されることが望ましい基準」として定められたものであり、その達成率は、人の健康の保護と生活環境の保全を図るうえで、全国の自動車騒音状況の度合いを把握するものとしての的確であるため、測定指標として選定した。
3 航空機騒音に係る環境基準達成状況(測定地点ベース)(%)	-	100	-	100	-	-	-	-	-	-	-	環境基本法第16条に基づく環境基準は、「人の健康を保護し、及び生活環境を保全する上で維持されることが望ましい基準」として定められたものであり、その達成率は、人の健康の保護と生活環境の保全を図るうえで、全国の航空機騒音状況の度合いを把握するものとしての的確であるため、測定指標として選定した。
4 新幹線鉄道騒音に係る環境基準達成状況(測定地点ベース)(%)	-	100	-	100	-	-	-	-	-	-	-	環境基本法第16条に基づく環境基準は、「人の健康を保護し、及び生活環境を保全する上で維持されることが望ましい基準」として定められたものであり、その達成率は、人の健康の保護と生活環境の保全を図るうえで、全国の新幹線騒音状況の度合いを把握するものとしての的確であるため、測定指標として選定した。
5 振動に係る全国の苦情件数(件)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	振動に係る全国の苦情件数は、人の健康の保護と生活環境の保全を図るうえで、全国の振動の状況の度合いを把握するものとしての的確であるため、測定指標として選定した。
6 悪臭に係る全国の苦情件数(件)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	悪臭に係る全国の苦情件数は、人の健康の保護と生活環境の保全を図るうえで、全国の悪臭の状況の度合いを把握するものとしての的確であるため、測定指標として選定した。
7 熱中症予防サイトの閲覧数(アクセス件数:万件)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	熱中症予防サイトの閲覧数は、人の健康の保護と生活環境の保全を図るうえで、全国の熱中症予防の状況の度合いを把握するものとしての的確であるため、測定指標として選定した。
8 暑さ指数(WBGT)の認知度(Webアンケートベース)(%)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	暑さ指数(WBGT)は熱中症の救急搬送人員数と高い相関が示されており、その認知度は、人の健康の保護と生活環境の保全を図るうえで、全国の熱中症予防の状況の度合いを把握するものとしての的確であるため、測定指標として選定した。熱中症警戒アラートが全国運用になることに伴い、同アラートの発表基準である暑さ指数(WBGT)認知度への影響が見込まれることや、サイトのアクセス数は酷暑により大きく増減することから令和3年度より測定指標として選定した。

達成手段 (開始年度)	予算額計(執行額) (百万円)			当初予算額 (百万円)	関連する 指標	達成手段の概要等	行政事業レビュー 事業番号
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度			
(1) 騒音・振動・悪臭等公害防 止強化対策費 (昭和63年度)	44	47	44	43	1,5,6	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0116
(2) クールシティ推進事業 (平成18年度)	57	57	50	13	7,8	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0117
(3) 交通騒音振動対策調査検 討費 (平成13年度)	43	43	38	33	2,3,4	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0118
(4) 自動車排出ガス・騒音規制 強化等の推進 (平成12年度) 【関連R4-7】	-	-	-	-	1,2	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0111
施策の予算額・執行額	182 (178)	186 (176)	170 (163)	89	施策に関する内閣の重要政策 (施政方針演説等のうち主なもの)	○第五次環境基本計画(平成30年4月17日閣議決定) ○気候変動適応計画(平成30年11月27日閣議決定)	

令和4年度実施施策に係る政策評価の事前分析表

(環境省R4-9)

別紙1

<p>施策名</p>	<p>目標3-3 水環境の保全(海洋環境の保全を含む。)</p>				<p>担当部局名</p>				<p>水・大気環境局 水環境課 閉鎖性海域対策室 海洋環境室 地下水・地盤環境室 海洋プラスチック汚染対策室 環境管理技術室</p>	<p>作成責任者名 (※記入は任意)</p>	<p>大井通博(水環境課長) 木村正伸(閉鎖性海域対策室長) 杉本留三(海洋環境室長) 大井通博(地下水・地盤環境室長) 中島慶次(海洋プラスチック汚染対策室) 鈴木延昌(環境管理技術室長)</p>									
<p>施策の概要</p>	<p>水質汚濁に係る環境基準等の目標を設定して、その達成状況の改善を図るとともに、適切な地下水管理を推進し、健全な水循環の確保に向けた取組を推進する。また、海洋環境の保全に向けて国際的な連携の下、国内における廃棄物の海洋投棄の規制等による海洋汚染の防止を図る。更に、海洋ごみ対策について、海岸漂着物処理推進法に基づく回収・処理、国内での廃棄物の適正処理等の推進による陸域等からの海洋ごみの発生抑制、海洋ごみの実態把握のための調査研究、国際的連携等に取り組む。</p>				<p>政策体系上の位置付け</p>				<p>3. 大気・水・土壌環境等の保全</p>											
<p>達成すべき目標</p>	<p>水質汚濁に係る環境基準等達成率の向上等により、健全な水循環の確保を目指す。また、廃棄物の海洋投棄の規制等により、海洋環境の保全を図る。</p>				<p>目標設定の考え方・根拠</p>				<p>環境基本法第16条に定める環境基準 湖沼水質保全特別措置法に基づく各指定湖沼の湖沼水質保全計画 水質汚濁防止法及び瀬戸内海環境保全特別措置法に基づく総量削減基本方針 海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律 水循環基本計画 琵琶湖の保全及び再生に関する法律</p>		<p>政策評価実施予定時期</p>	<p>令和5年8月</p>								
<p>測定指標</p>	<p>基準値</p>	<p>基準年度</p>	<p>目標値</p>	<p>目標年度</p>	<p>年度ごとの目標値 年度ごとの実績値</p>							<p>測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠</p>								
<p>1 公共用水域における水質環境基準の達成率(健康項目)(%)</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>100</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>環境基本法第16条に基づく環境基準は、「人の健康を保護し及び生活環境を保全する上で維持されることが望ましい基準」として定められたものであり、人の健康の保護を図るうえで、環境基準達成率は水環境の状況を把握するものとしての的確であるため、測定指標として選定したものの。</p>
<p>2 公共用水域における水質環境基準の達成率(生活環境項目BOD/COD)(%)</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>100</p>	<p>(河川) -</p>	<p>94.1</p>	<p>93.5</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>環境基本法第16条に基づく環境基準は、「人の健康を保護し及び生活環境を保全する上で維持されることが望ましい基準」として定められたものであり、生活環境の保全を図る上で、環境基準達成率は水環境の状況を把握するものとしての的確であるため、測定指標として選定したものの。</p>
<p>3 地下水における水質環境基準の達成率(%)</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>100</p>	<p>-</p>	<p>94.0</p>	<p>94.0</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>環境基本法第16条に基づく環境基準は、「人の健康を保護し及び生活環境を保全する上で維持されることが望ましい基準」として定められたものであり、その達成率は人の健康の保護を図るうえで、地下水環境の状況を把握するものとしての的確であるため、測定指標として選定したものの。</p>
<p>4 閉鎖性海域における水質環境基準の達成率(COD、全窒素、全りん)等(%)</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>別紙の通り</p>												<p>閉鎖性海域については、水質汚濁防止法及び瀬戸内海環境保全特別措置法に基づく総量削減基本方針等のもと、各海域の水質改善の状況を的確に把握し、水質保全を図ってきたところであり、当該水域の環境基準達成率は、対策の効果を把握するのに適した数値であるため、測定指標として選定したものの。</p>			
<p>5 地盤沈下監視を実施した地域の内、2cm/年を超える地盤沈下が発生していない地域の割合(%)</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>100</p>	<p>-</p>	<p>93.5</p>	<p>92.9</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>-</p>	<p>環境基本法第2条第3項で「地盤の沈下」は公害の一つとして位置付けられている。建築物等の基礎杭の許容応力度計算において年間2cmを超える地盤沈下については負の摩擦力を考慮することが推奨された経緯から(旧建設省による通達、昭和50年住指発第2号)、測定指標として選定したものの。</p>

測定指標	目標	目標年度		測定指標の選定理由及び目標(水準・目標年度)の設定の根拠			
		目標年度	目標年度	関連する指標	達成手段の概要等		行政事業レビュー事業番号
6 陸上で発生した廃棄物の海洋投入処分量(万トﾝ)	0	—	—			赤泥は平成26年度末に海洋投入処分が終了し、平成27年度以降、海洋投入処分が行われる見込みはない。建設汚泥についても平成28年度末に海洋投入処分の許可期間が終了したため、平成30年度以降は、陸上で発生した廃棄物の海洋投入処分量を0万トﾝとすることを目標とする。	
7 アジア地域等における水環境ガバナンスの強化と我が国企業の水処理技術の海外展開の促進	—	—	—			水循環基本計画(令和2年6月閣議決定)等に基づき、水環境の悪化が顕著なアジア地域等において、我が国の水環境行政に係る経験や技術の共有等を図ることで、当該地域における水環境ガバナンスの強化に資するとともに、我が国企業が有する優れた水処理技術の海外展開を促進するなど、国際的な水環境問題の解決に寄与することを目標とする。	
8 水環境中の放射性物質濃度測定実施都道府県数	—	—	—			放射性物質の常時監視に関する検討会報告書(平成25年12月)において、公共用水域及び地下水の測定地点は日本全国をバランスよく監視できるよう選定することとされており、全都道府県において放射性物質濃度を測定することが必要であることから、測定指標として選定したものの。	
9 海洋ごみ(漂流・漂着・海底ごみ)に関する調査・研究結果の把握・共有	—	—	—			海岸漂着物等処理推進法等に基づき、海洋ごみの実態を把握し、その情報を国民に提供することは、海洋環境の保全に資する。	
達成手段(開始年度)	予算額計(執行額)(百万円)				関連する指標	達成手段の概要等	行政事業レビュー事業番号
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度			
(1) 水質環境基準検討費(平成22年度)	172	172	161	176	1.2	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0120
(2) 排水対策推進費(平成23年度組替)	67	56	61	61	1.2	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0121
(3) 水質関連情報利用基盤整備費(平成23年度組替)	30	65	37	9	1.2	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0122
(4) 総量削減及び閉鎖性海域管理推進費(昭和53年度)	129	129	106	126	4	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0123
(5) 有明海・八代海等再生評価支援事業費(有明海・八代海総合調査評価委員会経費を含む)(平成19年度)	134	134	134	124	4	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0124
(6) 豊かさを実感できる海の再生事業(平成22年度)	118	130	154	171	4	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0125
(7) 湖沼環境対策等推進費(平成23年度組替)	38	33	33	26	2	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0126
(8) 地下水・地盤環境対策費(平成30年度)	78	76	72	67	3.5	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0127
(9) 国際的な水環境改善活動推進等経費(平成22年度組替)	70	76	70	64	7	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0128
(10) 海洋環境関連条約対応事業(昭和61年度)	84	87	83	61	7	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0129
(11) 海洋環境モニタリング推進事業(平成10年度)	81	80	80	76	6	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0130

(12) ロンドン議定書実施のための不発 弾陸上処理事業 (平成19年度)	801	707	675	920	6	令和4年度行政事業レビューページURL (https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0131
(13) 漂流・漂着・海底ごみに係る削減方 策総合検討事業(平成19年度)	668	3910	364	377	9	令和4年度行政事業レビューページURL (https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0132
(14) 我が国の優れた水処理技術の海外 展開支援 (平成25年度組替)	86	86	86	77	7	令和4年度行政事業レビューページURL (https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0133
(15) 国連大学拠出金(持続可能な社会 を実現する汚水処理システムの確 立に関する調査研究事業)(アジア 水環境分野におけるSDGs達成施 策モデル構築事業を名称変更) (平成26年度)	90	90	90	60	7	令和4年度行政事業レビューページURL (https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0134
(16) 放射性物質による水質汚濁状況の 常時監視 (平成26年度)	76	76	76	72	8	令和4年度行政事業レビューページURL (https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0135
(17) 健全な水循環に係る総合対策推進 費 (平成27年度)	46	28	17	18	1.2	令和4年度行政事業レビューページURL (https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0136
(18) 琵琶湖保全再生等推進費 (平成29年度)	39	39	39	38	2	令和4年度行政事業レビューページURL (https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0137
(20) 環境測定等に関する調査費 (昭和50年度) 【関連R4-7、関連R4-10】	21	21	21	20	1	令和4年度行政事業レビューページURL (https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0114
(21) 海洋プラスチックごみ総合対策費 (令和2年度)	-	210	234	213	9	令和4年度行政事業レビューページURL (https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0142
施策の予算額・執行額	5,558 (4,576)	6,209 (5,669)	6,427 (6,039)	2,756	施策に関する内閣の重要政策 (施政方針演説等のうち主なもの)	第五次環境基本計画(平成30年4月17日閣議決定) 水循環基本計画(平成27年7月10日閣議決定) 瀬戸内海環境保全基本計画(令和4年2月25日閣議決定) 海岸漂着物処理推進法に基づく基本的な方針(令和元年5月31日閣議決定)	

4 閉鎖性海域における水質環境基準の達成率(COD、全窒素、全りん)

別紙

測定指標	基準値		目標値		年度ごとの目標値						
	基準年度	基準年度	目標年度	目標年度	年度ごとの実績値						
					29年度	30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度
瀬戸内海(大阪湾を除く)における水質環境基準の達成率(%)(上段:COD、下段:全窒素・全りん)	-	-	100	-	-	-	-	-	-	-	-
			100		74.3 96.5	72.3 96.5	77.0 96.5	77.0 91.4	/	/	/
大阪湾における水質環境基準の達成率(%)(上段:COD、下段:全窒素・全りん)	-	-	100	-	-	-	-	-	-	-	-
			100		66.7 100	66.7 100	66.7 100	66.7 100	/	/	/
東京湾における水質環境基準の達成率(%)(上段:COD、下段:全窒素・全りん)	-	-	100	-	-	-	-	-	-	-	-
			100		63.2 66.7	63.2 100	68.4 100	63.2 100	/	/	/
伊勢湾における水質環境基準の達成率(%)(上段:COD、下段:全窒素・全りん)	-	-	100	-	-	-	-	-	-	-	-
			100		43.8 85.7	50.0 85.7	62.5 85.7	62.5 85.7	/	/	/
赤潮の発生件数[件](瀬戸内海/有明海/八代海)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
			-		71/38/13	82/33/13	58/32/10	83/41/15	/	/	/

令和4年度実施施策に係る政策評価の事前分析表

(環境省R4-10)

別紙1

施策名	目標3-4 土壤環境の保全				担当部局名	水・大気環境局 土壤環境課 環境管理技術室	作成責任者名 (※記入は任意)	大井通博(土壤環境 室長) 鈴木延昌(環境管理 技術室長)	
施策の概要	<p>○市街地等土壤汚染対策については、土壤汚染による人の健康被害の防止のために、土壤汚染対策法に基づき、土壤汚染による環境リスクの適切な管理を推進する。</p> <p>○ダイオキシン類については、ダイオキシン類土壤汚染対策地域において対策事業を実施する。</p> <p>○土壤汚染対策法の目的の対象となっていない生活環境、農作物を含めた植物、生態系の保全について、実態把握を進め、土壤汚染対策での対応について検討する。</p>				政策体系上の 位置付け	3. 大気・水・土壤環境等の保全			
達成すべき目標	土壤汚染による環境リスクを適切に管理し、土壤環境を保全する。				目標設定の 考え方・根拠	土壤汚染対策法 ダイオキシン類対策特別措置法 農用地の土壤の汚染防止等に関する法律	政策評価実施予定時期	令和5年8月	
測定指標	目標	目標年度		測定指標の選定理由及び目標(水準・目標年度)の設定の根拠					
1	土壤汚染対策法第6条に規定する要措置区域における措置の実施率(%) (成果実績=措置実施区域数/要措置区域数)	100	-		土壤汚染対策法では、土壤汚染がある土地を健康被害のおそれに応じて区域指定しており、土壤汚染による健康被害のおそれがある土地は、要措置区域として指定されることになる。このため、要措置区域において汚染の除去等の措置が講じられることが、土壤汚染による健康被害の防止という観点から重要であり、要措置区域における汚染の除去等の措置を実施し区域指定を解除された区域の実施率を指標として選定した。				
2	ダイオキシン類土壤汚染対策地域の対策完了率(%)	100	-		ダイオキシン類対策特別措置法では、汚染が確認されたところであって、人が立ち入ることができる地域を都道府県知事が指定し、対策事業を実施することになる。このため、ダイオキシン類土壤汚染対策地域の対策完了率は、対策の進捗状況を示すのに適した数値であるため、測定指標として設定した。				
達成手段 (開始年度)	予算額計(執行額) (百万円)			当初予算額 (百万円)	関連する 指標	達成手段の概要等	行政事業レビュー 事業番号		
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度					
(1) 土壤汚染対策費 (平成28年度)	315	298	304	305	1,2	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0138		
(2) 環境測定等に関する調査費 (昭和50年度) 【関連R4-7、関連R4-9】	-	-	-	-	1	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0114		
施策の予算額・執行額	315 (283)	298 (283)	304 (275)	305	施策に関係する内閣の重要政策 (施政方針演説等のうち主なもの) 第五次環境基本計画(平成30年4月17日閣議決定) 第2部環境政策の具体的な展開 第3章重点戦略を支える環境政策の展開 第4節環境リスクの管理 第4部環境保全施策の体系 第1章環境問題の各分野に係る施策 第4節水環境、土壤環境、地盤環境、海洋環境の保全に関する取組及び第6節包括的な化学物質対策に関する取組				

令和4年度実施施策に係る政策評価の事前分析表

(環境省R4-11)

別紙1

施策名	目標3-5 ダイオキシン類・農薬対策				担当部局名	水・大気環境局 総務課 農薬環境管理室	作成責任者名 (※記入は任意)	福島健彦(総務課長) 伊澤航(農薬環境管理室長)					
施策の概要	ダイオキシン類について、排出総量を削減し、環境基準の達成率をできる限り100%に近づける。また、農薬について、農薬の使用に伴い水域の生活環境動植物に著しい被害が生じることのないよう魚類等の毒性試験データに基づき、速やかに水域の生活環境動植物の被害防止に係る農薬登録基準(水産基準)を設定する。				政策体系上の位置付け	3. 大気・水・土壤環境等の保全							
達成すべき目標	ダイオキシン類について、我が国における事業活動に伴い排出されるダイオキシン類の量を削減するための計画に基づき、全ての地点で環境基準を達成する。 新たに登録申請があった農薬含め水産基準が未設定である農薬について、リスク評価を行い、必要な農薬について水産基準を設定する。				目標設定の考え方・根拠	ダイオキシン類対策特別措置法に基づく環境基準 ダイオキシン類対策特別措置法に基づく国の削減計画(平成24年8月) 環境基本計画(平成30年4月17日閣議決定)	政策評価実施予定時期	令和5年8月					
測定指標	基準値	基準年度	目標値	目標年度	年度ごとの目標値 年度ごとの実績値							測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠	
					R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		
1	ダイオキシン類排出総量 (g-TEQ/年)	-	-	176	-	176	176	176	176	176	176	176	ダイオキシン類対策特別措置法に基づく国の削減計画に定められる目標値(※)の達成状況は対策の効果を把握するのに適した数値であるため、測定指標として選定した。 (※当面の間、改善した環境を悪化させないことを原則に、可能な限り排出量を削減する努力を継続する(削減目標量:176g-TEQ/年))
2	ダイオキシン類に係る環境基準達成率(%)	100%	-	-	-	ダイオキシン類対策特別措置法第7条に基づく環境基準は、「人の健康を保護する上で維持されることが望ましい基準」として定められたものであり、その達成率は、人の健康の保護と生活環境の保全を図るうえで、ダイオキシン類による汚染の状況を最も的確に把握できる数値であるため、測定指標として選定した。							
3	水域の生活環境動植物の被害防止に係る登録基準の設定及び設定不要と評価した農薬数(累計)	基準	基準年度	目標	目標年度	施策の進捗状況(目標) 施策の進捗状況(実績)							測定指標の選定理由及び目標(水準・目標年度)の設定の根拠
						R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
		-	-	601	R4年度	569	594	597	601	-	-	農薬取締法に基づき、最新の科学的な知見等に基づく農薬のリスク評価を適切に行い、水域の生活環境動植物の被害防止に係る農薬登録基準(水産基準)を迅速かつ的確に設定することにより、農薬の生態系へのリスク低減に資することができるため、水産基準の設定及び設定不要と評価した農薬有効成分数を測定指標として設定した。	
達成手段 (開始年度)	予算額計(執行額) (百万円)				当初予算額 (百万円)	関連する 指標	達成手段の概要等					行政事業レビュー 事業番号	
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度									
(1) 策費 (平成12年度)	44	23	23	22	1.2	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)					0140		
(2) 農薬登録基準等設定費 (平成17年度)	118	121	143	171	3	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)					0139		
施策の予算額・執行額	162 (150)	144 (105)	166 (156)	193	施策に関係する内閣の重要政策 (施政方針演説等のうち主なもの)		第五次環境基本計画(平成30年4月17日閣議決定)						

令和4年度実施施策に係る政策評価の事前分析表

(環境省R4-12)

別紙1

施策名	目標3-6 東日本大震災への対応(環境モニタリング調査)				担当部局名	水・大気環境局 水環境課 海洋環境室 地下水・地盤環境室 環境保健部 環境安全課	作成責任者名 (※記入は任意)	大井通博(水環境課長) 杉本留三(海洋環境室長) 大井通博(地下水・地盤環境室長) 高澤哲也(環境安全課長)
施策の概要	被災地及び周辺地域の基礎的な情報等を的確に把握、提供するための環境モニタリング調査等を実施する。				政策体系上の位置付け	3. 大気・水・土壌環境等の保全		
達成すべき目標	被災地及び周辺地域の環境に関する基礎的な情報等を的確に把握し、情報を国民に提供することで、国民の不安解消と復旧・復興に資する。			目標設定の考え方・根拠	総合モニタリング計画	政策評価実施予定時期	令和5年8月	
測定指標	目標	目標年度		測定指標の選定理由及び目標(水準・目標年度)の設定の根拠				
1 公共用水域放射性物質モニタリング調査結果の速報回数(回)	55回	-		福島県及び周辺都県の公共用水域の放射性物質モニタリングにより、被災地及び周辺地域の水環境中の放射性物質に関する基礎的な情報を的確に把握し、それらの情報を速やかに国民に提供することは、国民の不安解消と復旧・復興に資する。				
2 地下水放射性物質モニタリング調査結果の公表回数(回)	4回	-		福島県及び周辺都県の地下水の放射性物質モニタリングにより、被災地及び周辺地域の水環境中の放射性物質に関する基礎的な情報を的確に把握し、それらの情報を速やかに国民に提供することは、国民の不安解消と復旧・復興に資する。				
3 被災影響海域における海洋環境関連モニタリング調査結果の公表回数(回)	1回	-		福島県及び周辺都県の公共用水域の放射性物質モニタリングにより、被災地及び周辺地域の水環境中の放射性物質に関する基礎的な情報を的確に把握し、それらの情報を速やかに国民に提供することは、国民の不安解消と復旧・復興に資する。				
達成手段(開始年度)	予算額計(執行額)(百万円)				関連する指標	達成手段の概要等	行政事業レビュー事業番号	
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度				
(1) 公共用水域放射性物質モニタリング調査(平成23年度)	388	381	381	370	1	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0130	
(2) 地下水放射性物質モニタリング調査(平成23年度)	26	26	26	26	2	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0130	
(3) 被災影響海域における海洋環境関連モニタリング調査(平成23年度)	85	85	85	359	3	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0130	
施策の予算額・執行額	509(440)	492(399)	492(468)	755	施策に関係する内閣の重要政策(施政方針演説等のうち主なもの)	○第五次環境基本計画(平成30年4月17日閣議決定)		

令和4年度実施施策に係る政策評価の事前分析表

(環境省R4-13)

別紙1

施策名	目標4-1 国内及び国際的な循環型社会の構築				担当部局名	環境再生・資源循環局総務課 循環型社会推進室		作成責任者名 (※記入は任意)	水谷努(循環型社会推進室長)			
施策の概要	「第四次循環型社会形成推進基本計画」等を着実に実行して国内における循環型社会の構築を図るとともに、3Rイニシアティブに基づいて国際的な循環型社会構築を図る。				政策体系上の位置付け	4. 環境再生・資源循環対策の推進						
達成すべき目標	「第四次循環型社会形成推進基本計画」に基づき定められた、資源生産性の向上、循環利用率の向上、廃棄物最終処分量の削減等の目標を達成するとともに、3Rイニシアティブに基づき国際的に3Rを推進することにより、循環型社会の形成を目指す。				目標設定の考え方・根拠	循環型社会形成推進基本法に基づき、我が国の経済社会を、大量生産・大量消費・大量廃棄型から持続可能な循環型社会へ変革する。		政策評価実施予定時期	令和5年8月			
測定指標	基準値	基準年度	目標値	目標年度	年度ごとの目標値 年度ごとの実績値							測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠
					R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
1 資源生産性(GDP/天然資源等投入量)(万円/トン)	25.3	H12年度	49.0	R7年度	-	-	-	-	-	-	-	循環型社会形成推進基本法に基づく第四次循環型社会形成推進基本計画(H30年6月閣議決定)において、物質フロー指標として目標が設定されている。
2 入口側の循環利用率(循環利用量/総物質投入量)(%)	10.0	H12年度	18.0	R7年度	-	-	-	-	-	-	-	循環型社会形成推進基本法に基づく第四次循環型社会形成推進基本計画(H30年6月閣議決定)において、物質フロー指標として目標が設定されている。
3 出口側の循環利用率(循環利用量/廃棄物発生量)(%)	35.8	H12年度	47.0	R7年度	-	-	-	-	-	-	-	循環型社会形成推進基本法に基づく第四次循環型社会形成推進基本計画(H30年6月閣議決定)において、物質フロー指標として目標が設定されている。
4 廃棄物最終処分量(百万トン)	56.0	H12年度	13.0	R7年度	-	-	-	-	-	-	-	循環型社会形成推進基本法に基づく第四次循環型社会形成推進基本計画(H30年6月閣議決定)において、物質フロー指標として目標が設定されている。
5 循環型社会ビジネス市場規模(兆円)	40.0	H12年度	80.0	R7年度	-	-	-	-	-	-	-	循環型社会形成推進基本法に基づく第四次循環型社会形成推進基本計画(H30年6月閣議決定)において、目標が設定されている。
6 廃棄物処理、リサイクル分野の輸出額推移(億円)	-	-	2,800(仮)	R7年度	-	-	-	-	-	-	-	成長戦略において、「焼却設備、リサイクル設備、浄化槽等の輸出額を2020年度実績から2025年度までに3割程度増加させることを目指す」とKPIが設定されている。
7 二国間及び多国間の協力の実施	-	-	-	-	測定指標の選定理由及び目標(水準・目標年度)の設定の根拠							廃棄物分野における我が国の経験、先進的な技術や法制度等をアジアを中心とする発展途上国に移転することは、途上国の持続的な発展に資するとともに、我が国の静脈産業の発展にも寄与する、極めて意義深い政策。そのため、循環型社会形成推進基本計画に基づき、国際的な対話・協力関係を促進することとされているため。
達成手段 (開始年度)	予算額計(執行額) (百万円)			当初予算額 (百万円)	関連する 指標	達成手段の概要等	行政事業レビュー 事業番号					
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度								
(1) 循環型社会形成推進等経費(平成13年度)	99 (96)	99 (78)	148 (164.7)	264	1,2,3,4	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0143					
(2) 循環経済移行促進事業(平成23年度)	-	-	441 (382.2)	521	5	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0146					
(3) 我が国循環産業の戦略的国際展開・育成事業(国際展開支援)(平成23年度)	404 (320)	370 (269)	-	-	5	(2)循環経済移行促進事業に統合	-					

(4)	国際資源循環体制構築強化プログラム事業(平成21年度)	28 (28)	64 (35)	-	-	6	(2)循環経済移行促進事業に統合	-
(5)	アジア・アフリカ諸国における3Rの戦略的実施支援事業拠出金(平成21年度)	64 (64)	94 (94)	93 (93)	93	6	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0145
(6)	UNEP「持続可能な資源管理に関する国際パネル」支援(平成20年度)	19 (19)	19 (19)	18 (18)	18	6	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0144
(7)	富山物質循環フレームワーク等国際動向を踏まえた次期循環型社会形成推進基本計画等検討事業(平成28年度)	125 (103)	80 (65)	-	-	-	(1)循環型社会形成推進等経費、(2)循環経済移行促進事業に統合	-
施策の予算額・執行額		739 (630)	726 (560)	700 (658)	896	施策に関する内閣の重要政策(施政方針演説等のうち主なもの) <ul style="list-style-type: none"> ・第四次循環型社会形成推進基本計画(平成30年6月閣議決定) ・インフラシステム海外展開戦略2025(令和3年6月改訂版) 		

令和4年度実施施策に係る政策評価の事前分析表

(環境省R4-14)

別紙1

施策名	目標4-2 各種リサイクル法等の円滑な施行によるリサイクル等の推進							担当部局名	環境再生・資源循環局 総務課 リサイクル推進室	作成責任者名 (※記入は任意)	水谷努(リサイクル推進室長)	
施策の概要	各種リサイクル法等の円滑な施行等により、リサイクル等を推進する。							政策体系上の位置付け	4. 環境再生・資源循環対策の推進			
達成すべき目標	定められた計画値・目標値の達成に向けて、各種リサイクル法等の円滑な施行等により、リサイクル等を推進する。						目標設定の考え方・根拠	各リサイクル法、施行令、省令、施行規則、基本方針	政策評価実施予定時期	令和5年8月		
測定指標	基準値		目標値		年度ごとの目標値 年度ごとの実績値							測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠
	基準年度	目標年度	目標年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		
1 容器包装リサイクル法に基づく容器包装分別収集量[千ト]	-	-			別添の通り							第8期、第9期市町村分別収集計画における分別収集見込量に基づき設定
2 家電リサイクル法における特定家庭用機器廃棄物の回収率(%)	-	-			別添の通り							特定家庭用機器再商品化法基本方針に基づき設定
3 食品リサイクル法における食品関連事業者による食品循環資源の再生利用等の実施率(%)	-	-			別添の通り							食品循環資源の再生利用等の促進に関する基本方針に基づき設定
4 建設リサイクル法における特定建設資材の再資源化等の実施率(建設発生木材、%)	-	-			別添の通り							建設リサイクル推進計画2020に基づき設定
5 自動車リサイクル法における自動車破砕残さ(ASR)及びガス発生器(エアバッグ類:AB)の再資源化率(%)	-	-			別添の通り							使用済自動車の再資源化等に関する法律施行規則に基づき設定
6 小型家電リサイクル法における使用済電気電子機器等の回収量[万ト]	-	-			別添の通り							使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する基本方針に基づき設定
7 使用済プラスチックのリサイクル等による有効利用率[%]	-	-			別添の通り							令和元年に策定した「プラスチック資源循環戦略」を踏まえて設定
達成手段 (開始年度)	予算額計(執行額) (百万円)				当初予算額 (百万円)	関連する 指標	達成手段の概要等	行政事業レビュー 事業番号				
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度								
(1) プラスチック資源循環等推進事業費(平成18年度)	635 (220)	614 (639)	194 (204)	260	1	<達成手段の概要> プラスチック資源循環法の施行状況及び容器包装リサイクル法の円滑な運用や高度化のために必要な調査検討、普及啓発等を行う。 <達成手段の目標> プラスチックの資源循環を推進するため自治体を実施する実証事業の支援、及び容器包装リサイクル法に基づく容器包装分別収集量を増加させる。 <施設の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> プラスチック資源の一括回収を行う自治体の増加、及び容器包装リサイクル法の適正な運用を通じて市町村の適切な事務の遂行・住民の参加意識の向上等を促進することにより、分別収集量の増加に寄与する。	0148					
(2) 家電リサイクル推進事業費(平成19年度)	29 (23)	29 (24)	29 (26)	26	2	<達成手段の概要> 家電リサイクル法の高度化及び適正な施行に資する調査検討等を行う。 <達成手段の目標> 特定家庭用機器の回収率を向上させる。 <施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 家電リサイクル法の高度化および適正な施行を推進することで、特定家庭用機器の回収率の向上に寄与する。	0149					

(3) 食品廃棄物リデュース・リサイクル推進事業費 (平成19年度)	93 (93)	123 (123)	127 (117)	127	3	<p><達成手段の概要> 食品リサイクル法の円滑な施行のための調査検討や、食品ロス削減や食品リサイクルループ形成を促進するための事業を行う。</p> <p><達成手段の目標> 食品循環資源の再生利用等実施率を向上させる。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 食品リサイクル法の円滑な施行を図り、また、食品ロス削減や食品リサイクルループ形成を促進することにより、再生利用等実施率の向上に寄与する。</p>	0150
(4) 建設リサイクル推進事業費 (平成19年度)	15 (8)	15 (9)	23 (9)	21	4	<p><達成手段の概要> 適切な分別解体による再資源化方策の検討を行う。</p> <p><達成手段の目標> 特定建設資材の再資源化等率を向上させる。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 建設リサイクル法の円滑な施行を図ることにより、特定建設資材の再資源化等の実施率の向上に寄与する。</p>	0151
(5) 自動車リサイクル推進事業費 (平成22年度)	22 (18)	26 (36)	26 (32)	33	5	<p><達成手段の概要> 自動車リサイクル法の円滑な施行や高度化を図るための調査検討等を行う。</p> <p><達成手段の目標> 自動車破砕残さやガス発生器の再資源化率を向上させる。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 自動車リサイクル法の円滑な施行及び高度化を図り、再資源化率の向上に寄与する。</p>	0152
(6) 小型家電リサイクル推進事業費 (平成24年度)	150 (132)	150 (128)	149 (144)	135	6	<p><達成手段の概要> 小型家電リサイクル法の円滑な運用や高度化のために必要な調査検討、普及啓発等を行う。</p> <p><達成手段の目標> 使用済み小型家電の回収・再資源化量を向上させる。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 小型家電リサイクル法の円滑な施行及び高度化を図り、回収・再資源化量の向上に寄与する。</p>	0153
(7) リサイクルプロセスの横断的 高度化・効率化事業 (平成29年度)	46 (43)	55 (25)	46 (37)	42	7	<p><達成手段の概要> 横断的リサイクルの高度化として、リサイクル対象物の組成情報のデータベース化、規格化として取り組むべき素材についての調査等を行う。</p> <p><達成手段の目標> 多角的にリサイクルプロセスの横断的・高度化・効率化を進めることで、優良なリサイクル産業を育成に係る支援等を行い、我が国の資源の有効利用の最大化を図る。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> リサイクルプロセスの横断的・高度化・効率化を図ることにより、循環利用率の向上に寄与する。</p>	0154
施策の予算額・執行額	569 (525)	1,012 (984)	594 (569)	644	<p>施策に関する内閣の重要政策 (施政方針演説等のうち主なもの)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第四次循環型社会形成推進基本計画 ・成長戦略実行計画 ・成長戦略フォローアップ 		

指標

測定指標		指標								目標年度	目標値
年度ごとの目標値		R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	目標年度	目標値	
指標1	ア	年度ごとの計画値	769	768	702	-	-	-	-	R6年度	689 (計画値)
		実績値	696	707	/	/	/	/	/		
	イ	年度ごとの計画値	115	117	101	-	-	-	-		102 (計画値)
		実績値	74	76	/	/	/	/	/		
	ウ	年度ごとの計画値	290	289	313	-	-	-	-		317 (計画値)
		実績値	323	335	/	/	/	/	/		
	エ	年度ごとの計画値	759	763	726	-	-	-	-		726 (計画値)
		実績値	750	779	/	/	/	/	/		
指標2	-	年度ごとの目標値	-	-	-	-	-	-	-	H30年度	56
		実績値	64.1	64.8	/	/	/	/	/		
指標3	ア	年度ごとの目標値	95	95	95	95	95	95	-	R6年度	95
		実績値	96	96	/	/	/	/	/		
	イ	年度ごとの目標値	70	75	75	75	75	75	-		75
		実績値	64	68	/	/	/	/	/		
	ウ	年度ごとの目標値	55	60	60	60	60	60	-		60
		実績値	51	56	/	/	/	/	/		
	エ	年度ごとの目標値	50	50	50	50	50	50	-		50
		実績値	32	31	/	/	/	/	/		
指標4	-	年度ごとの目標値	-	-	-	-	-	-	-	R6年度	97
		実績値	-	-	/	/	/	/	/		
指標5	ア	年度ごとの目標値	70	70	70	70	70	70	-	各年度	70
		実績値	95.6~97.2	95~97.5	/	/	/	/	/		
	イ	年度ごとの目標値	85	85	85	85	85	85	-		85
		実績値	94~95	95~96	/	/	/	/	/		
指標6	-	年度ごとの目標値	14	14	14	14	14	14	-	R5年度	14
		実績値	-	-	/	/	/	/	/		
指標7	-	年度ごとの目標値	-	-	-	-	-	-	-	R17年 (2035年)	100%
		リサイクル+熱回収 [%]	85.4%	86.4%	/	/	/	/	/		
		(リサイクル率)	25.1%	24.3%	/	/	/	/	/		

令和4年度実施施策に係る政策評価の事前分析表

(環境省R4-15)

別紙1

施策名	目標4-3 一般廃棄物対策(排出抑制・リサイクル・適正処理等)				担当部局名	環境再生・資源循環局廃棄物適正処理推進課	作成責任者名 (※記入は任意)	筒井誠二(廃棄物適正処理推進課長)				
施策の概要	一般廃棄物の排出抑制、リサイクル、適正処理等を推進する。				政策体系上の位置付け	4. 環境再生・資源循環対策の推進						
達成すべき目標	一般廃棄物の排出抑制、リサイクル、適正処理等について施策の総合的かつ計画的な推進を図る。				目標設定の考え方・根拠	第四次循環型社会形成推進基本計画等	政策評価実施予定時期	令和5年8月				
測定指標	基準値		目標値		年度ごとの目標値 年度ごとの実績値							測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠
	基準年度	目標年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度			
1 (1)一般廃棄物の排出量(百万トン)	55	H12年度	38	R7年度	-	-	-	-	-	-	-	第四次循環型社会形成推進基本計画
					43	42	/	/	/	/	/	
1 (2)一般廃棄物の排出量(kg/人)	433	H12年度	310	R7年度	-	-	-	-	-	-	-	第四次循環型社会形成推進基本計画
					336	329	/	/	/	/	/	
2 一般廃棄物のリサイクル率(%)	21	H24年度	28	R7年度	-	-	-	-	-	-	-	第四次循環型社会形成推進基本計画
					20	20	/	/	/	/	/	
3 (1)一般廃棄物の最終処分量(百万トン)	4.7	H24年度	3.2	R7年度	-	-	-	-	-	-	-	第四次循環型社会形成推進基本計画
					3.8	3.6	/	/	/	/	/	
3 (2)一般廃棄物の最終処分量(kg/人)	36	H24年度	25	R7年度	-	-	-	-	-	-	-	第四次循環型社会形成推進基本計画
					30	29	/	/	/	/	/	
4 一般廃棄物焼却炉からのダイオキシン類の排出量(g-TEQ/年)	33	H22年度	33	当面の間	-	-	-	-	-	-	-	我が国における事業活動に伴い排出されるダイオキシン類の量を削減するための計画
					20	22	/	/	/	/	/	
達成手段 (開始年度)	予算額計(執行額) (百万円)			当初予算額 (百万円)	関連する 指標	達成手段の概要等						行政事業レビュー 事業番号
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度								
循環型社会形成推進交付金(公共) (平成17年度)	77,793 (74,986)	88,263 (79,765)	81,351 (78,429)	35,880	1,2,3	<達成手段の概要> ・市町村等が広域的な地域について作成する循環型社会形成推進地域計画に基づき実施される事業の費用に交付金を交付する。 ・効率的かつ的確な施設整備事業の実施のため必要な調査を実施する。 <達成手段の目標> ・市町村等の自主性と創意工夫を活かした総合的な廃棄物処理・リサイクル施設の整備を支援することにより、地域における循環型社会の形成を推進する。 <施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> ・一般廃棄物の排出抑制、リサイクル、適正処理の推進						0158

<p>廃棄物処理等に係る情報提供経費等 (平成11年度)</p>	13 (14)	13 (13)	14 (13.4)	14	1.3.4	<p><達成手段の概要> ・PRTR(化学物質排出移動量届出制度)に基づき、届出があった内容について指定する電算機器への入力を行い、その結果を集計する(令和3年度実績:33,636件)。 ・一般廃棄物処理施設を対象に、ダイオキシン類排出状況等について調査を行い、集計の上公表する(令和2年度排出量まで調査、公表済み:測定指標4のとおり)。 ・一般廃棄物処理施設の技術管理者等を対象に、廃棄物処理技術等に係る講習会を開催する。廃棄物処理に係る基礎的知識から最新の技術的知見まで幅広く提供する(令和3年度実績:1カ月程度のオンライン配信、再生回数1,992回)。 <達成手段の目標> ・化学物質等の排出状況把握及びその適切な管理 ・ダイオキシン類の排出状況把握及びその対策検討 ・廃棄物処理技術の向上 <施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> ・一般廃棄物の排出抑制、リサイクル、適正処理等の推進</p>	0155
<p>災害等廃棄物処理事業費補助金等 (昭和49年度)</p>	32,448 (28,730)	51,147 (30,731)	17,657 (13,556)	200	-	<p><達成手段の概要> ・市町村が実施した災害廃棄物及び漂着ごみの収集・運搬・処分に係る事業等に対し補助を行う。 <達成手段の目標> ・災害等により発生した廃棄物を安全かつ適正に処理することにより、地域住民の生活環境の保全を図る。 <施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> ・一般廃棄物の適正処理の推進</p>	0156
<p>廃棄物処理施設災害復旧事業 (平成23年度)</p>	2,723 (1,779)	7,702 (5,581)	1,865 (169)	30	-	<p><達成手段の概要> ・市町村が実施した災害により被災した一般廃棄物処理施設の復旧に係る事業に対し補助を行う。 <達成手段の目標> ・災害により被害を受けた一般廃棄物処理施設を復旧させることで、廃棄物処理体制の回復を図る。 <施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> ・一般廃棄物の適正処理の推進</p>	0159
<p>廃棄物処理施設整備費補助(平成12年度)</p>	3,232 (3,232)	6,253 (6,250)	5,627 (5,622)	1,725	-	<p><達成手段の概要> ・中間貯蔵・環境安全事業株式会社が行うPCB廃棄物処理のための拠点の広域処理施設の整備に対し事業費の一部を補助する。 ・大阪湾広域臨海環境整備センターが行う広域埋立処分場整備事業を行う。 <達成手段の目標> ・期限内にPCB廃棄物(大型変圧器等)を全量処理する。(全体累積処理量 高圧変圧器・コンデンサー等:393,000台(令和7年度)、安定器・汚染物等:22,200トン(令和7年度)) ・大阪湾広域臨海環境整備センターが行う広域埋立処分場において、廃棄物の性状及び造成される土地の利用形態に応じ適切な広域埋立処分場施設の整備を行う。 <施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> ・拠点の広域処理施設の長期設備保全計画の策定とこれに基づく設備の点検・補修・更新を行い、PCB廃棄物の処理を推進する。 ・大阪湾広域臨海環境整備センターが行う広域埋立処分場整備により、産業廃棄物最終処分場の残余容量を確保する。</p>	0157
<p>施策の予算額・執行額</p>	116,209 (108,741)	153,378 (122,340)	106,514 (97,789.4)	37,849	<p>施策に関する内閣の重要政策(施政方針演説等のうち主なもの)</p>	<p>・第四次循環型社会形成推進基本計画 ・廃棄物処理施設整備計画 ・国土強靱化基本計画</p>	

令和4年度実施施策に係る政策評価の事前分析表

(環境省R4-16)

別紙1

施策名	目標4-4 産業廃棄物対策(排出抑制・リサイクル・適正処理等)				担当部局名	環境再生・資源循環局廃棄物規制課	作成責任者名 (※記入は任意)	松田 尚之(廃棄物規制課長)				
施策の概要	産業廃棄物の排出抑制、リサイクル、適正処理等を推進する。				政策体系上の位置付け	4. 環境再生・資源循環対策の推進						
達成すべき目標	産業廃棄物の排出抑制、リサイクル、適正処理等について施策の総合的かつ計画的推進を図る。				目標設定の考え方・根拠	・廃棄物の処理及び清掃に関する法律 ・関係法令等		政策評価実施予定時期	令和5年8月			
測定指標	基準値		目標値		年度ごとの目標値 年度ごとの実績値							測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠
	基準年度	目標年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度			
1 産業廃棄物の排出量(百万トン)	379	H24年度	390	R7年度	-	-	-	-	-	-	-	第四次循環型社会形成推進基本計画
					386	-	-	-	-	-	-	
2 産業廃棄物の出口側の循環利用率(%)	36	H25年度	38	R7年度	-	-	-	-	-	-	-	第四次循環型社会形成推進基本計画
					36	-	-	-	-	-	-	
3 産業廃棄物の最終処分量(百万トン)	13	H24年度	10	R7年度	-	-	-	-	-	-	-	第四次循環型社会形成推進基本計画
					9	-	-	-	-	-	-	
4 PCB廃棄物(変圧器類・コンデンサー類)の処理(台)	-	-	393,000	R7年度	-	-	(速報値)	-	-	-	-	ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法及びPCB廃棄物処理基本計画に沿って、令和7年度までにPCB廃棄物を全量処理する。
					356,519	371,534	385,621	-	-	-	-	
5 PCB廃棄物(安定器・汚染物)の処理(t)	-	-	22,200	R7年度	-	-	(速報値)	-	-	-	-	ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法及びPCB廃棄物処理基本計画に沿って、令和7年度までにPCB廃棄物を全量処理する。
					12,272	14,866	17,333	-	-	-	-	
6 電子マニフェストの普及率(%)	-	-	70	R4年度	-	-	-	70	-	-	-	第四次循環型社会形成推進基本計画(目標値は見直しを検討中)
					63	65	72	-	-	-	-	
7 最終処分場の残余年数(年)	-	-	10	R2年度	-	10	-	-	-	-	-	第四次循環型社会形成推進基本計画(目標値は見直しを実施中)
					17	-	-	-	-	-	-	
達成手段 (開始年度)	予算額計(執行額) (百万円)			当初予算額 (百万円)	関連する 指標	達成手段の概要等					行政事業レビュー 事業番号	
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度								
(1) 廃棄物処理施設整備費補助(平成12年度)	3,232 (3,232)	6,253 (6,250)	5,627 (5,622)	1,725	4.5,7	<達成手段の概要> ・中間貯蔵・環境安全事業株式会社が行うPCB廃棄物処理のための拠点的広域処理施設の整備に対し事業費の一部を補助する。 ・大阪湾広域臨海環境整備センターが行う広域埋立処分場整備事業を行う。 <達成手段の目標> ・期限内にPCB廃棄物(大型変圧器等)を全量処理する。(全体累積処理量 高圧変圧器・コンデンサー等:393,000台(令和7年度)、安定器・汚染物等:22,200トン(令和7年度)) ・大阪湾広域臨海環境整備センターが行う広域埋立処分場において、廃棄物の性状及び造成される土地の利用形態に応じ適切な広域埋立処分場施設の整備を行う。 <施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> ・拠点的広域処理施設の長期設備保全計画の策定とこれに基づく設備の点検・補修・更新を行い、PCB廃棄物の処理を推進する。 ・大阪湾広域臨海環境整備センターが行う広域埋立処分場整備により、産業廃棄物最終処分場の残余容量を確保する。					0157	

(2)	PCB廃棄物適正処理対策推進事業(平成13年度)	342 (337)	342 (320)	377 (373)	120	4.5	<p><達成手段の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> PCB廃棄物の適正処理推進に向けて、地方自治体が実施する高濃度PCB廃棄物等の掘り起こし調査や行政代執行等の取組を効率的に実施するため、掘り起こし調査等の実施に係る相談窓口設置や専門家派遣、保管事業者に対するあらゆる広報活動及び重点的な周知徹底、調査結果も踏まえた全国のPCB廃棄物の保管量等の集計等を行う。 低濃度PCB廃棄物の処理促進に向け、処理技術評価や施設認定・実態把握を行う。 <p><達成手段の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> 期限内にPCB廃棄物(大型変圧器等)を全量処理する。(全体累積処理量 高圧変圧器・コンデンサー等:393,000台(令和7年度)、安定器・汚染物等:22,200トン(令和7年度)) <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> 地方自治体実施する掘り起こし調査や行政代執行等への技術的支援、PCB廃棄物処理にかかる広報活動を行い、PCB廃棄物の適正な処理を推進する。 低濃度PCB廃棄物の処理技術の評価・無害化処理施設の認定等を行い、低濃度PCB廃棄物の処理を促進する。 	0166
(3)	PCB廃棄物対策推進費補助金(平成13年度)	4,800 (4,800)	3,500 (3,500)	5,116 (5,115)	2,568	4.5	<p><達成手段の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> 処理費用負担能力の小さい中小企業者等のPCB廃棄物処理に係る費用負担を軽減するための助成を行う。 処理期限内に処理できないおそれがある高濃度PCB廃棄物等に対する行政代執行に係る自治体の負担を軽減するための助成を行う。 中間貯蔵・環境安全事業株式会社に対し、PCB処理設備のPCB除去及び原状回復のための費用を出資する。 <p><達成手段の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> 中小企業者等のPCB廃棄物処理に係る費用負担軽減のための助成額合計:約30億円(令和3年度) (全体累積処理量 高圧変圧器・コンデンサー等:393,000台(令和7年度)、安定器・汚染物等:22,200トン(令和7年度)) <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> 中小企業者等が保有するPCB廃棄物等の適正な処理を確保する。 	0167
(4)	廃棄物処理システム開発費(平成13年度)	5 (4)	80 (64)	9 (9)	5	1,2,3	<p><達成手段の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> 国による統一番号付与及び自治体の許可情報等を共有する活用基盤として適正かつ効率的な運用に必要な保守、更改等の拡充整備を行う。 <p><達成手段の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> 国及び自治体事務の効率化及び適正な行政処分を実施する。 <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> 産業廃棄物処理業者による産業廃棄物の適正処理を確保・推進する。 	0161
(5)	電子マニフェスト普及拡大事業(平成16年度)	93 (92)	87 (70)	148 (95)	5	1,2,3,6	<p><達成手段の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> 電子マニフェストシステムの機能強化及び電子マニフェストの普及のための説明会等を実施する。 <p><達成手段の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> 電子マニフェストの普及を促進する。 <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> 電子マニフェストの普及率を向上させる。 電子マニフェストの普及に伴い、排出事業者・処理業者の情報管理の合理化、廃棄物処理システムの透明化、都道府県等の監視業務の合理化、不適正処理の原因究明の迅速化が推進され、もって産業廃棄物の適正処理を図ることが可能となる。 	0164
(6)	水俣条約に基づく水銀廃棄物の環境上適正な管理推進事業(平成26年度)	93 (58)	70 (62)	70 (58)	61	-	<p><達成手段の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> 水銀使用廃製品等の回収スキームの調査検討、廃金属水銀の長期的な管理技術・体制の調査検討等を実施し、水銀廃棄物の環境上適正な処理方法について検討を行う。また、我が国が有する水銀廃棄物処理に関する知見を基に、途上国を始めとする諸外国の水銀廃棄物の環境上適正な管理の能力向上に貢献する。 <p><達成手段の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> 水銀廃棄物の処理方策等について調査検討を行い、国内外における環境上適正な水銀廃棄物の処理体制を確保する施策を推進する。 <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> 有害物質等を含む廃棄物の適正な管理を確保する。 	0168
(7)	産業廃棄物処理業のグリーン成長・地域魅力創出促進支援事業(平成27年度)	145 (84)	138 (75)	-	-	2.3	<p><達成手段の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> 産業廃棄物処理ビジネスの振興、業界の優良化、高付加価値型環境産業への転換促進、海外展開の推進、担い手確保・技術労働者支援などを行う。 <p><達成手段の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> 産業廃棄物処理業がグリーン成長や地域の魅力を創出する産業へと変革していくことを支援する。 <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> 産業廃棄物処理業のグリーン成長を通じた産業廃棄物処理体制の維持・向上により、産業廃棄物のリサイクル率の向上及び最終処分量の低減を推進する。 	-

(8)	産業廃棄物処理業におけるイノベーション創出促進支援事業(令和3年度)	-	-	82 (77)	82	2.3	<p><達成手段の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> 産業廃棄物処理業の高度化・最適化を図るため、産業廃棄物処理業の脱炭素化の促進等のための調査を行う。また、健全で優良な事業者の育成及び意欲ある事業者の成長の後押しのため、優良な事業者の情報発信及び海外展開の支援、並びに業界のクリーンな成長のため支援事業を行う。 <p><達成手段の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> 産業廃棄物処理業がいかなる状況下でも安定に事業を継続できるよう、効率化、強靱化、優良化の促進を図る。 施策の達成すべき目標(測定目標)への寄与の内容> 産業廃棄物処理業の効率化・強靱化・優良化を通じた産業廃棄物処理体制の維持・向上により、産業廃棄物のリサイクル率の向上及び最終処分量の低減を推進する。 	0181
(9)	課題対応型産業廃棄物処理施設運用支援事業(平成29年度)	830 (519)	163 (163)	1,190 (1,189)	501	7	<p><達成手段の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> 産業廃棄物最終処分場の維持管理に係る課題の解消に資する公共関与産業廃棄物最終処分場の施設整備及び維持管理の適正化を支援する。 <p><達成手段の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> 課題対応型公共関与産業廃棄物最終処分場の施設整備及び維持管理の適正化を支援することにより、国における産業廃棄物最終処分場の維持管理の適正化等に向けた検討に活用し、もって住民による産業廃棄物最終処分場に対する信頼の醸成を図る。 <p><施策の達成すべき目標(測定目標)への寄与の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> 産業廃棄物最終処分場の整備促進により、残余容量を確保する。 	0175
(10)	不法投棄等未然防止・事案対応事業(平成10年度)	37 (25)	32 (23)	25 (21)	24	2.3	<p><達成手段の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> 都道府県等に対して不法投棄等の行為者等への責任追及や支障除去等の手法に関する助言等を行う専門家チームを現地へ派遣するなど、不法投棄等事案に係る支障除去等対策の円滑かつ適正な実施を支援するとともに、担当職員の現場対応等について資質向上を図る。 都道府県等における不法投棄等の残存事案の実態調査等を行う。 <p><達成手段の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> 都道府県等に対する技術的支援により不法投棄等の拡大防止や支障の除去等の徹底を図る。 各地域における不法投棄等の実態を把握することにより、産業廃棄物の不法投棄等対策に係る政策形成を図る。 不法投棄等を早期発見・早期対応できる体制を整備することにより未然防止・拡大防止を図るほか、地方環境事務所を核とした関係機関によるネットワークの強化を図る。 <p><施策の達成すべき目標(測定目標)への寄与の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> 産業廃棄物の不法投棄・不適正処理を防止し、適正処理を推進することにより、産業廃棄物のリサイクル率の向上及び最終処分量の低減を推進する。 	0169
(11)	廃棄物処分基準等設定等調査費(平成4年度)	163 (127)	182 (151)	186 (151)	186	2.3	<p><達成手段の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> 既存産業廃棄物処理施設等に係る維持管理等の実態調査、産業廃棄物処理施設における処理基準等の調査検討及び有害廃棄物の適正処理方策に係る調査検討を実施する。 <p><達成手段の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> 産業廃棄物処理施設周辺の大気・水質等の定点調査を実施し、周辺環境への影響が生じていないことを確認する。 調査検討の結果を踏まえ、必要に応じて産業廃棄物の処理に係る各種基準を見直す。 <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> 産業廃棄物処理施設周辺の生活環境を保全し、産業廃棄物の適正な処理を確保することにより、産業廃棄物のリサイクル率の向上及び最終処分量の低減を推進する。 	0162
(12)	石綿含有廃棄物無害化処理技術認定事業(平成19年度)	5 (5)	5 (5)	5 (5)	5	3	<p><達成手段の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> 石綿含有廃棄物等の処理について、高度な無害化技術を有する事業者を国が認定する。 <p><達成手段の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> 高度な技術を有する認定事業者数の増を図る。 <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> 石綿含有廃棄物等の適正かつ円滑な処理を実現することにより、最終処分量の低減を推進する。 	0165
(13)	産業廃棄物等処理対策推進費(平成2年度)	13 (15)	13 (14)	13 (10)	21	1,2,3	<p><達成手段の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> 産業廃棄物の排出実態の調査及び産業廃棄物の検定方法の改正についての検討を行う。 環境大臣認定制度(広域、再生利用、無害化処理)の現地調査を行うとともに、大臣認定対象外の廃棄物で今後対象とすることが有効であると考えられる廃棄物の再生利用を行う者及び再生利用の用に供する施設の調査、検討を行う。 <p><達成手段の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> 産業廃棄物の排出・処理状況を取りまとめるとともに、検討結果を踏まえ、必要に応じて産業廃棄物の検定方法の改正等を行う。 大臣認定事業者等の認定基準の適合を担保するとともに、大臣認定対象外の廃棄物で今後対象とすることが有効であると考えられる廃棄物があれば、その認定基準を策定する。 <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> 産業廃棄物の排出・処理に関する基礎情報や産業廃棄物の検定方法の整備や、大臣認定制度の適正運用、対象の拡充等を通じて、産業廃棄物の排出抑制及び適正な処理を確保することにより、産業廃棄物の排出抑制、リサイクル率の向上及び最終処分量の低減を推進する。 	0163
施策の予算額・執行額		9,758 (9,298)	10,865 (10,697)	12,848 (12,725)	5,303	施策に関係する内閣の重要政策 (施政方針演説等のうち主なもの)		第四次循環型社会形成推進基本計画

令和4年度実施施策に係る政策評価の事前分析表

(環境省R4-17)

別紙1

施策名	目標4-5 廃棄物の不法投棄の防止等				担当部局名	環境再生・資源循環局 廃棄物規制課	作成責任者名 (※記入は任意)	松田 尚之(廃棄物規制課長)					
施策の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物の処理に伴い環境保全上の支障が生じた場合における当該支障の除去の推進 ・爆発性、毒性、感染性その他の人の健康又は生活環境に係る被害を生ずるおそれがある性状を有する廃棄物の適正な処理の推進 ・特定有害廃棄物等の輸出、輸入、運搬及び処分の規制の推進 				政策体系上の位置付け	4. 環境再生・資源循環対策の推進							
達成すべき目標	<ul style="list-style-type: none"> ・不法投棄等による生活環境保全上の支障等のない社会の実現 ・有害物質等を含む廃棄物の適正管理の実現 ・廃棄物等の不適正な越境移動の防止の実現 				目標設定の考え方・根拠	<ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物の処理及び清掃に関する法律 ・特定産業廃棄物に起因する支障の除去等に関する特別措置法 ・特定有害廃棄物等の輸出入等の規制に関する法律 		政策評価実施予定時期	令和5年8月				
測定指標	基準値		目標値		年度ごとの目標値 年度ごとの実績値							測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠	
	基準年度	目標年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度				
1 支障等がある産業廃棄物の不法投棄等の残存件数(件)	90	H26年度	50	R7年度	56	50	50	50	50	50	50	50	廃棄物処理法の厳格な執行等により、不法投棄等の拡大防止策や支障の除去等を推進しているため。目標値については、26年度時点で前倒して目標を達成したことから、更に高い目標を設定(令和2年度:100件→50件)したが、未達のため、目標年度を令和7年度に延長。
2 年度末における未完了の特定支障除去等事業の件数(件)	-	-	10	R4年度	12	11	10	0	-	-	-	-	産廃特措法に基づく特定支障除去等事業の各計画期間に基づき設定。
3 産業廃棄物の不法投棄の新規発生件数(件)	143	H27年度	100	R7年度	104	100	100	100	100	100	100	100	廃棄物処理法の厳格な執行等により、不法投棄の未然防止策を推進しているため。目標値については、27年度時点で前倒して目標を達成したことから、更に高い目標を設定(令和2年度:150件→100件)したが、未達のため、目標年度を令和7年度に延長。
4 目標期間内にバーゼル条約締約国会議(COP)で採択される、拠出プロジェクト関連のガイドライン等数(件)	2	H28~R2年度	3	R4年度からR9年度の6年度間	4 (H28~R2合計)	-	-	-	-	-	-	-	締約国等が各国の規制等の重要な指針とする各種ガイドラインに、我が国の経験や知見を適切に盛り込むことで、先進国としての責務を果たすことにつながるため。目標値は、近年の締約国会議での成果を踏まえ、最大水準に設定。(以前の目標は、平成28~令和2年度の5年度間に4件以上に対し、実績2件)
5 バーゼル条約違反の輸出について我が国が輸入国から通報を受領した件数(件)	9	H26年度	3	毎年度	3	4	3	3	3	3	3	3	当該通報件数は、事業者への制度に係る普及啓発や水際対策の効果を測る指標となるため。目標値は、所要の措置に必要な期間を勘案し、直近実績(平成26年度、9件)を基準値とした上で、当面半数よりも低くなる目標にしたもの。
6 クリアランス物のトレーサビリティが確保できていない事案(件)	-	-	0	毎年度	0	0	0	0	0	0	0	0	クリアランス物が適正に取り扱われるためには、そのトレーサビリティを確保することが必要不可欠であるため、全てのクリアランス物に関しトレーサビリティを確保することを目標として設定。
達成手段 (開始年度)	予算額計(執行額) (百万円)			当初予算額 (百万円)	関連する 指標	達成手段の概要等						行政事業レビュー 事業番号	
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度									
(1) 不法投棄等未然防止・事案対応事業(平成10年度)	37 (25)	32 (23)	25 (21)	24	1,3	<p><達成手段の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・都道府県等に対して不法投棄等の行為者等への責任追及や支障除去等の手法に関する助言等を行う専門家チームを現地へ派遣するなど、不法投棄等事案に係る支障除去等対策の円滑かつ適正な実施を支援するとともに、担当職員の現場対応等について資質向上を図る。 ・都道府県等における不法投棄等の残存事案の実態調査等を行う。 <p><達成手段の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・都道府県等に対する技術的支援により不法投棄等の拡大防止や支障の除去等の徹底を図る。 ・各地域における不法投棄等の実態を把握することにより、産業廃棄物の不法投棄等対策に係る政策形成を図る。 ・不法投棄等を早期発見・早期対応できる体制を整備することにより未然防止・拡大防止を図るほか、地方環境事務所を核とした関係機関によるネットワークの強化を図る。 <p><施策の達成すべき目標(測定目標)への寄与の内容></p> <p>産業廃棄物の不法投棄・不適正処理の支障除去等を進めるとともに、未然防止・拡大防止を図る。</p>						0169	

(2) 有害廃棄物の環境上適正な管理事業等拠出金(平成18年度)	76 (76)	87 (87)	46 (46)	46	4.5	<p><達成手段の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> 有害廃棄物の環境上適正な管理促進に関する活動のうち、パーゼル条約締約国会議(COP)で議論されている国際的なガイドライン等に係る議論等に関連するものであって、我が国のパーゼル条約実施上重要性の高い活動について、支援を行う。 我が国が主体となって行ってきた有害廃棄物等の不法輸出入防止に関する事業に関して、ワークショップの開催経費等の支援を行う。 平成25年1月に採択された水銀に関する水俣条約は、水銀廃棄物についてパーゼル条約との連携を求めており、これを受けてパーゼル条約の下で更新されたガイドラインに基づく水銀廃棄物の環境上適正な管理が一層重要となっていることから、関連するプロジェクトへの支援を行う。 <p><達成手段の目標></p> <p>パーゼル条約実施上重要性の高い国際的なガイドライン等の作成に関する活動について支援を行うとともに、アジア地域におけるワークショップの開催について支援を行うことで、国際社会における我が国の信頼強化やプレゼンスの拡大につなげ、有害廃棄物等の越境移動に関する環境上適正な管理に貢献する。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容></p> <p>パーゼル条約COPで我が国が拠出したプロジェクトに関連するガイドライン等が採択される。また、有害廃棄物等の不適正な越境移動の防止を推進する。</p>	0170
(3) クリアランス物管理システム運用費(平成18年度)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	1	6	<p><達成手段の概要></p> <p>原子炉等規制法及び放射線障害防止法に基づき排出されるクリアランス物(放射能濃度が国の定める基準値以下であることを確認されたもの)のトレーサビリティを確保するためのシステムを整備するとともに、地方環境事務所による立入検査の実施及びそれに伴う知識の習得、放射線測定機器の点検整備を行う。</p> <p><達成手段の目標></p> <p>クリアランス制度(核燃料物質によって汚染された物のうち、放射能濃度が国の定める基準値以下であるものを、有価物と同様に資源として有効に再利用、あるいは一般の産業廃棄物として適正な処分を行うことを可能とする制度)の導入にあたり、本制度の厳格な運用を行うとともに、万一の事態にも対応できるようクリアランスされた廃棄物等のトレーサビリティ(履歴、所在地等が追跡できること)を確保する。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容></p> <p>全てのクリアランス物に関しトレーサビリティを確保する。</p>	0171
(4) パーゼル条約実施等経費(平成8年度)	36 (34)	51 (44)	61 (58)	47	5	<p><達成手段の概要></p> <p>パーゼル条約に基づく、特定有害廃棄物等の輸出入等の規制に関する法律(パーゼル法)及び廃棄物の処理及び清掃に関する法律(廃棄物処理法)を厳格に施行するため、輸出入事業者等に対し、これらの法規制に関する周知徹底を行うとともに、アジア各国等との情報交換や連携強化を図るため、有害廃棄物等の不法輸出入防止に関するアジアネットワークワークショップを開催する等、パーゼル条約の適切な運用に関する取組を行う。</p> <p><達成手段の目標></p> <p>国内外のパーゼル条約の実施体制を強化し、有害廃棄物等の不法輸出入の防止及び環境上適正な管理を徹底する。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容></p> <p>廃棄物処理法及びパーゼル法に基づく廃棄物等の輸出入の適正管理により、パーゼル条約違反の輸出を防止する。</p>	0172
(5) 産業廃棄物不法投棄等原状回復措置推進費補助金(平成10年度)	1,309 (1,031)	652 (477)	1,245 (937)	60	1.2	<p><達成手段の概要></p> <p>生活環境保全上の支障又はそのおそれがある不法投棄等事案であって、かつ、行為者が不明等であるために都道府県等がやむを得ず行政代執行により支障の除去等を行う場合に、当該事業に必要な経費の一部を補助する。</p> <p><達成手段の目標></p> <p>都道府県等が行政代執行で実施する支障除去等事業を推進することにより、不法投棄等に起因する生活環境保全上の支障等の除去を促進する。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容></p> <p>産廃特措法に基づく特定支障除去等事業の実施を支援する。当該事業及び廃棄物処理法に基づく支障除去等事業を支援することにより、産業廃棄物の不法投棄等の支障除去等を進める。</p>	0173
(6) 廃棄物等の輸出入の適正化推進費(平成25年度)	57 (49)	67 (59)	58 (47)	58	5	<p><達成手段の概要></p> <p>廃棄物処理法及びパーゼル法に基づく廃棄物等の輸出入の適正な管理のため、規制対象物の明確化に係る調査・検討や地方環境事務所における水際対策の強化等を行う。</p> <p><達成手段の目標></p> <p>廃棄物処理法及びパーゼル法に基づき、廃棄物等の輸出入を適正に管理することにより、廃棄物や有害物質を含む使用済電気電子機器等が不法に輸出され、不適正に処理された結果として、輸出先国において環境汚染や健康被害が発生することを防止する。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容></p> <p>廃棄物処理法及びパーゼル法に基づく廃棄物等の輸出入の適正管理により、パーゼル条約違反の輸出を防止する。</p>	0174
(7) 廃棄物処分基準等設定等調査費(平成4年度)	163 (127)	182 (151)	186 (151)	186	3	<p><達成手段の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> 既存産業廃棄物処理施設等に係る維持管理等の実態調査、産業廃棄物処理施設における処理基準等の調査検討及び有害廃棄物の適正処理方策に係る調査検討を実施する。 <p><達成手段の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> 産業廃棄物処理施設周辺の大気・水質等の定点調査を実施し、周辺環境への影響が生じていないことを確認する。 調査検討の結果を踏まえ、必要に応じて産業廃棄物の処理に係る各種基準を見直す。 <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容></p> <p>産業廃棄物処理施設周辺の生活環境を保全し、産業廃棄物の適正な処理を確保することにより、不法投棄の未然防止を推進する。</p>	0162
施策の予算額・執行額	1,680 (1,344)	1,072 (842)	1,622 (1,261)	422		<p>施策に関する内閣の重要政策(施政方針演説等のうち主なもの)</p> <p>第四次循環型社会形成推進基本計画</p>	

令和4年度実施施策に係る政策評価の事前分析表

(環境省R4-18)

別紙1

施策名	目標4-6 浄化槽の整備によるし尿及び雑排水の適正な処理				担当部局名	環境再生・資源循環局 廃棄物適正処理推進課 浄化槽推進室	作成責任者名 (※記入は任意)	沼田正樹(浄化槽推進室長)				
施策の概要	環境保全上効果的である浄化槽の整備による生活排水対策を講ずる。				政策体系上の位置付け	4. 環境再生・資源循環対策の推進						
達成すべき目標	人口分散地域等に最適な汚水処理施設整備である浄化槽の普及を行い、生活排水の適正な処理によって健全な水環境を確保する。				目標設定の考え方・根拠	浄化槽法	政策評価実施予定時期	令和5年8月				
測定指標	基準値		目標値		年度ごとの目標値 年度ごとの実績値						測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠	
		基準年度		目標年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度		R7年度
1 浄化槽整備区域内の浄化槽人口普及率(%)=浄化槽整備区域内の合併浄化槽使用人口/浄化槽整備区域内の全人口	53%	H29年度	70%	R4年度	60%	63%	66%	70%	-	-	-	浄化槽による水環境の保全を図るにあたっての指標として、浄化槽整備区域内の浄化槽人口普及率を設定した。 残存する単独処理浄化槽について、合併処理浄化槽への転換を推進するため、平成30年に閣議設定された廃棄物処理施設整備計画においても同様の目標が定められている。
2 浄化槽整備区域内の合併処理浄化槽の基数割合(%)=浄化槽整備区域内の合併処理浄化槽基数/浄化槽整備区域内の浄化槽の全基数	62%	H29年度	76%	R4年度	69%	71%	73%	76%	-	-	-	浄化槽による水環境の保全を図るにあたっての指標として、浄化槽整備区域内の合併処理浄化槽の基数割合を設定した。 残存する単独処理浄化槽について、合併処理浄化槽への転換を推進するため、平成30年に閣議設定された廃棄物処理施設整備計画においても同様の目標が定められている。
達成手段 (開始年度)	予算額計(執行額) (百万円)			当初予算額 (百万円)	関連する 指標	達成手段の概要等					行政事業レビュー 事業番号	
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度								
(1) 浄化槽指導普及事業費等 (昭和59年度)	131 (131)	147 (137)	68 (68)	68	1,2	<ul style="list-style-type: none"> ・浄化槽の設置及び維持管理について各自治体の実態調査や事例収集を通じ、浄化槽の適正普及管理に係る制度・手法に関する検討を行う。 ・平成12年の浄化槽法改正により原則新設禁止となった単独処理浄化槽について、合併処理浄化槽への転換を推進するための効果的な手法の検討を行う。 ・浄化槽の整備に係るコストや効果に関する情報を収集・提供するとともに、民間活用による整備手法の検討等を行い、自治体による効率的な事業計画の策定支援を行う。 ・浄化槽システム全体の強靱化を図る。 ・試験合格者、講習修了者からの免状交付申請に応じ、免状を作成・発送する。また、免状の記載事項に変更があった場合の書換等に対応するため、これまでに交付した浄化槽管理士の情報を台帳として整備・更新する。 ・都道府県・市町村の浄化槽行政担当者に対し、浄化槽の具体的な整備内容・方法や課題への取り組み等に関して、環境省が調査した情報の還元や自治体との情報交換等の実施を通じ、国及び自治体間での連携を図り、国及びブロック毎の自治体間のネットワークを構築・情報交換を活性化させる。 ・NPOとの連携により浄化槽に関する情報を提供・共有することによりネットワークの形成を促進する。 ・セミナー等において浄化槽のミニチュアモデルを用いた展示等による広報を行い、広く浄化槽の普及啓発を図る。 ・浄化槽の計画的・効率的な更新、修繕、管理の最適化を推進することで国土強靱化および災害対応力の強化を図る。また、ライフサイクルコストの最小化、予算の最適化を図り、浄化槽整備事業の持続可能な運営に資する。 					177	
施策の予算額・執行額	131 (131)	147 (137)	68 (68)	68	施策に関係する内閣の重要政策 (施政方針演説等のうち主なもの)	国土強靱化基本計画 廃棄物処理施設整備計画						

令和4年度実施施策に係る政策評価の事前分析表

(環境省R4-19)

別紙1

施策名	目標4-7 東日本大震災等の教訓を踏まえた災害廃棄物対策				担当部局名	環境再生・資源循環局環境再生事業担当参事官室災害廃棄物対策室		作成責任者名 (※記入は任意)	筒井誠二(災害廃棄物対策室長)			
施策の概要	災害廃棄物を適正かつ円滑・迅速に処理するための対策を推進する。				政策体系上の位置付け	4.環境再生・資源循環対策の推進						
達成すべき目標	東日本大震災等の教訓を踏まえ、災害廃棄物の適正かつ円滑・迅速な処理について、平時の備えから大規模災害発生時の対応も含めた対策の推進を図る。				目標設定の考え方・根拠	廃棄物処理法、廃棄物処理基本方針、廃棄物処理施設整備計画、国土強靱化基本計画等		政策評価実施予定時期	令和5年8月			
測定指標	基準値		目標値		年度ごとの目標値 年度ごとの実績値							測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠
	基準年度	目標年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度			
1 市町村における災害廃棄物処理に関する計画策定率(%)	8	H25年度	60	R7年度	30	35	40	45	-	-	-	第四次循環型社会形成推進基本計画
					51	65	72	-	-	-		
2 ごみ焼却施設における老朽化対策率(%)	77	H25年度	85	R7年度	85	85	-	-	-	-	-	廃棄物処理施設整備計画 国土強靱化基本計画
					86	85	-	-	-	-		
3 令和元年台風15号及び19号において発生した災害廃棄物処理進捗率(%)	20	R元年度	100	R3年度	20	80	100	-	-	-	-	各地方自治体の災害廃棄物処理実行計画
					20	89	100	-	-	-		
4 令和2年7月豪雨において発生した災害廃棄物処理進捗率(%)	32	R2年度	100	R4年度	-	30	100	100	-	-	-	各地方自治体の災害廃棄物処理実行計画
					-	32	99.6	-	-	-		
達成手段 (開始年度)	予算額計(執行額) (百万円)				当初予算額 (百万円)	関連する 指標	達成手段の概要等					行政事業レビュー 事業番号
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度								
(1) 大規模災害に備えた廃棄物処理体制検討・拠点整備事業 (平成26年度)	2,975 (2,792)	2,724 (2,679)	5,535 (5,051)	1,005	1.2	<達成手段の概要> ・災害廃棄物対策指針の改定。 ・地方自治体における災害廃棄物対策の支援(モデル事業の実施とフォローアップ)。 ・令和2年7月豪雨等における災害廃棄物処理に関する検証・ノウハウの蓄積と情報発信。 ・市町村等が地域の廃棄物処理システムを強靱化する観点から行う廃棄物処理施設整備事業に対し交付金を交付する。 <達成手段の目標> 災害発生時においても、適正かつ円滑・迅速な廃棄物の処理が実施可能となるよう、施設整備も含めた強靱な廃棄物処理システムの構築を目指す。 関連団体との連携強化や災害時の専門家の派遣体制の整備を進めるとともに、地方環境事務所と連携して、地域ブロック単位で、国・地方公共団体・民間事業者が参加する協議会等を設置して災害廃棄物対策の具体化を進める。 <施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 一般廃棄物の適正処理、国土強靱化					0160	
(2) 災害等廃棄物処理事業費補助金等 (昭和49年度)	32,448 (28,730)	51,147 (30,731)	17,657 (13,556)	200	3.4	<達成手段の概要> 市町村が実施した災害廃棄物及び漂着ごみの収集・運搬・処分に係る事業等に対し補助を行う。 <達成手段の目標> 災害等により発生した廃棄物を安全かつ適正に処理することにより、地域住民の生活環境の保全を図る。 <施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 一般廃棄物の適正処理の推進					156	
施策の予算額・執行額	35,423 (31,522)	53,871 (33,410)	23,192 (18,607)	1,205	施策に関係する内閣の重要政策 (施政方針演説等のうち主なもの)		・第四次循環型社会形成推進基本計画 ・廃棄物処理施設整備計画 ・国土強靱化基本計画					

令和4年度実施施策に係る政策評価の事前分析表

別紙1

(環境省R4-20)

施策名	目標5-1 基盤的施策の実施及び国際的取組				担当部局名	自然環境局 自然環境計画課 生物多様性センター	作成責任者名 (※記入は任意)	堀上勝(自然環境計画課長)				
施策の概要	生物多様性国家戦略を始めとする自然環境保全のための政策の策定、及びそのために必要な情報の収集・整備・提供を行う。また、国際的枠組への参加等を通じて地球規模の生物多様性の保全を図る。				政策体系上の位置付け	5.生物多様性の保全と自然との共生の推進						
達成すべき目標	生物多様性国家戦略2012-2020に基づき、各種施策に必要な情報の収集・整備・提供、国民への生物多様性に関する普及啓発などの取組を進める。また、国際的枠組への参加を通じて、自然資源の保全、地球規模の生物多様性の保全を図る。				目標設定の考え方・根拠	生物多様性国家戦略2012-2020	政策評価実施予定時期	令和5年8月				
測定指標	基準値	基準年度	目標値	目標年度	年度ごとの目標値 年度ごとの実績値							測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠
					R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
1 「生物多様性」の認識状況	30%	H16年度	75%	R3年度	75%	-	75%	-	-	-	-	生物多様性国家戦略2012-2020において、生物多様性の保全及び持続可能な利用に関する行動計画の横断的・基盤的施策の一つとして「生物多様性の主流化の促進」を掲げており、その数値目標として、同測定指標を用いているが、コロナ禍によってCOP15が延期された結果、次期国家戦略の策定が遅れており、同戦略が改定されるまで、現行目標を維持する。
2 全国の1/2.5万地形図面数に対する植生図整備図面数の割合[整備図面数/全国土図面数]	国土の35%	H18年度	100%	R5年度	89%	91%	95%	99%	100%	-	-	生物多様性国家戦略2012-2020等において、国土の自然環境の基本情報図である縮尺1/2.5万の植生図については、国土の可能な限り広い面積を整備するなど早期の全国整備を進めると記されており、再生可能エネルギーポテンシャル把握等の基礎データとして早期の整備が求められているなど、令和5年度までに全国での整備が完了するよう進める必要があるため。
測定指標	目標		目標年度		測定指標の選定理由及び目標(水準・目標年度)の設定の根拠							
3 生物多様性保全に係る必要な国際的取組の状況	生物多様性保全のための国際的な取組の推進		-		生物多様性及び生態系サービスに関する科学政策プラットフォーム(IPBES)の地球規模評価報告書に示されたとおり、生物多様性の損失に対処するには経済システムや貿易といった国際的に協調・連携した取組の推進が不可欠であり、こうした観点から新たな世界目標であるポスト2020生物多様性枠組とそのPDCA強化が議論されているため。							
4 生物多様性保全に係る国内施策の基盤的構築状況	生物多様性保全に係る国内施策の基盤的構築の強化		-		「生物多様性国家戦略 2012 2020 の実施状況の点検結果」(2021年1月、生物多様性国家戦略関係省庁連絡会議)やポスト2020枠組におけるPDCAの強化を踏まえ、効果的な目標・指標を備えた次期生物多様性国家戦略を策定するとともに、それらを地域における取組に落とし込むために必要な施策を実施し、国内施策の基盤的構築を強化する必要があるため。							
達成手段 (開始年度)	予算額計(執行額) (百万円)			当初予算額 (百万円)	関連する 指標	達成手段の概要等	行政事業レビュー 事業番号					
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度								
(1) 国際分担金等経費 (昭和54年度) (関連:28-②、28-③)	253 (251)	250 (249)	436 (435)	430	3	令和4年度行政事業レビューページURL (https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	182					
(2) 生物多様性センター維持 運営費 (平成10年度)	93 (64)	117 (72)	85 (95)	77	1	<達成手段の概要> 生物多様性条約第10回締約国会議で採択された愛知目標の達成に向け、平成24年9月に閣議決定された生物多様性国家戦略2012-2020に基づき生物多様性関連施策の着実な推進を図る。特に生物多様性の認知度をあげることが目標に以下の施策を行う。 ・生物多様性センターの維持運営に必要な施設維持管理を行う。 ・文献等の資料、動植物標本及び生物多様性情報を収集・管理・提供する。 ・生物多様性の保全に関する普及啓発を行う。 <達成手段の目標> 適切な施設の維持・運営、文献・標本・生物多様性情報等の収集・管理等、生物多様性の保全に関する普及啓発を行い生物多様性の認知度を上昇させる。 <施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> ・生物多様性に係る情報を発信する施設を適切に維持管理することで、生物多様性の保全に関する普及啓発に寄与する。 ・生物多様性に関する資料・情報を収集・管理し、積極的に情報発信することで、生物多様性の保全に関する普及啓発を促進する。 ・各種イベント等を通じて、生物多様性の保全に関する普及啓発に貢献することで生物多様性を社会に浸透させることにつながる。このことは、施策の達成すべき目標である、「各種施策に必要な情報の収集・整備・提供、国民への生物多様性に関する普及啓発などの取組を進める。」に寄与する。	183					

(3)	自然環境保全基礎調査費 (昭和48年度)	55 (53)	69 (68)	60 (62)	71	2.4	<p><達成手段の概要> 自然環境保全法第4条に基づき、全国的観点から我が国における自然環境の現状及び改変状況を把握し、自然環境保全等の施策を推進するための基礎資料を整備・提供する。</p> <p><達成手段の目標> 自然環境に関する全国的な基盤情報を、継続的に収集・提供する。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 全国的観点から我が国における自然環境の現状及び改変状況を把握し、自然環境保全の施策を推進するとともに基礎資料を整備することは、施策の達成すべき目標である、「各種施策に必要な情報の収集・整備・提供、国民への生物多様性に関する普及啓発などの取組を進める。」に寄与する。</p>	184
(4)	地球規模生物多様性モニタリング推進事業費 (平成15年度)	322 (322)	305 (289)	297 (278)	296	4	<p><達成手段の概要> 国内の各生態系を対象として、全国約1,000か所において継続的なモニタリングを実施し、その変化を把握する。 東・東南アジア地域の生物多様性情報の整備、CITES掲載種分類学能力構築のための研修を実施する。</p> <p><達成手段の目標> 生物多様性の保全や地球温暖化等による影響評価等に資する基礎情報を収集・提供する。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 我が国を代表とする生態系の現状と時系列・空間的变化をとらえ、科学的かつ客観的なデータを収集し、生物多様性保全施策に必要な科学的基盤情報の整備・提供を行うことは、施策の達成すべき目標である「各種施策に必要な情報の収集・整備・提供、国民への生物多様性に関する普及啓発などの取組を進める」ことに寄与する。また、東・東南アジア地域の生物多様性情報の整備や、同地域における能力構築等の国際的な取組を通じて、「自然資源の保全、地球規模の生物多様性の保全」に寄与する。</p>	185
(5)	地球規模生物多様性情報システム整備推進費 (平成6年度)	89 (84)	101 (99)	88 (81)	38	4	<p><達成手段の概要> 自然環境保全基礎調査をはじめとする生物多様性保全に関する情報を収集・管理し、一層の電子化・オープンデータ化を進めるとともに、インターネットを介して広く提供する。</p> <p><達成手段の目標> 生物多様性保全に関する情報が国内外に広く共有され、保全施策や研究等に活用される。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> ・生物多様性に関する情報を収集するとともにWebGISを用いた情報提供を行い、生物多様性保全に係る情報の利活用に貢献する。 ・J-IBISの機能及び生物多様性に関する情報の拡充、親しみやすいWebコンテンツの見直しを行い国民への生物多様性に関する普及啓発や研究の振興に寄与する。</p>	186
(6)	生物多様性国家戦略推進費(「生物多様性基本施策関係経費」からの名称変更) (平成20年度)	36 (29)	28 (27)	31 (集計中)	44	1.4	<p>令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)</p>	188
(7)	「国連生物多様性の10年」推進事業費 (平成23年度)	15 (14)	15 (17)	-	-	1	<p><達成手段の概要> 主要なセクターの参画を得て設立した「国連生物多様性の10年日本委員会」により、各セクターや地域における取組のサポート、セクター間の連携促進、国民的理解と参画の増進、生物多様性国家戦略改定へのインプット、他国の委員会とのネットワークを構築する。</p> <p><達成手段の目標> ・「国連生物多様性の10年日本委員会」における後半5年の目標と取組をまとめたロードマップに基づき、各取組を更に推進する。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> ・「国連生物多様性の10年日本委員会」の事業を実施・推進することで、「生物多様性」に関する国民的な認知度向上、理解増進につながる。このことは、施策の達成すべき目標である、「各種施策に必要な情報の収集・整備・提供、国民への生物多様性に関する普及啓発などの取組を進める。」に寄与する。 ・生物多様性に関する各セクターの取組を後押しすることで、生物多様性の保全と持続的な利用を促進し、生物多様性を社会に浸透させることにつながる。このことは、施策の達成すべき目標である、「各種施策に必要な情報の収集・整備・提供、国民への生物多様性に関する普及啓発などの取組を進める。」に寄与する。</p>	202(R2年度)

<p>(8) ポスト2020生物多様性枠組の経済的事項に関する実施及び交渉等支援費（令和2年度：ポスト2020目標検討等調査費）（平成31年度：中間評価をふまえた愛知目標達成方策検討調査費）（平成24年度：愛知目標の実現に向けたCOP10主要課題検討調査費）（平成23年度：ポスト2010年目標の実現に向けたCOP10主要課題検討調査費）</p>	<p>44 (37)</p>	<p>50 (18)</p>	<p>50 (33)</p>	<p>53</p>	<p>3.4</p>	<p><達成手段の概要> 生物多様性条約COP15において新たな世界目標である「ポスト2020生物多様性枠組」を策定し、迅速に実施につなげるため、事業者や消費者等の民間部門における生物多様性保全への参画推進、遺伝資源へのアクセスと利益配分に関する名古屋議定書の国内措置の着実な実施、生物多様性の経済価値評価、資源動員戦略の検討等が不可欠となっている。これらに関する課題を整理し、ポスト2020生物多様性枠組の議論に積極的に貢献するとともに、その実現に向けてステークホルダーの取組を促進していくことを目的とする。</p> <p><達成手段の目標> ・経済社会における生物多様性の保全と持続可能な利用の主流化を図るべく、生物多様性の保全と持続的利用に向けた事業者の取組に関する情報収集・発信を行い、経済社会における生物多様性の保全等の促進につなげる。 ・今後の課題について検討するために、生物多様性を対象とした経済的価値の評価に係る国内外の情報収集を行う。 ・名古屋議定書の国内措置の効率的かつ効果的な実施。 ・生物多様性に係る条約関連会合の議論への我が国の意見のインプット。</p> <p><施策の達成すべき目標（測定指標）への寄与の内容> ・説明会の実施、特設ウェブサイトの運用・保守、諸外国法令の翻訳等を行い、名古屋議定書の国内措置の普及啓発及び実施を支援する。 ・個々の事業者によるサプライチェーンも考慮した自主的な取組の促進を図るとともに、事業者間及び多様な主体間の連携・協働を促進することにより、民間部門における自発的な生物多様性の取組が推進され、自然環境の保全に寄与する。 ・生物多様性に関する国際規格（ISO）、自然関連財務情報開示タスクフォース（TNFD）等の議論に貢献するとともに、ガイドラインの策定等により国内の事業者の取組を支援する。 ・生物多様性が有する価値を経済的な評価により可視化し、評価結果等を活用して生物多様性の重要性についての普及広報等を推進することで、生物多様性の主流化に貢献する。 ・資源動員目標の達成の方策の検討を進めることにより、各種生物多様性保全施策の実施に寄与する。 ・生物多様性に係る条約関連会合への専門家の派遣により、議論の進展に貢献する。</p>	<p>189</p>
<p>(9) 生物多様性及び生態系サービスに関する科学政策プラットフォーム推進費（平成25年度）</p>	<p>39 (35)</p>	<p>39 (25)</p>	<p>35 (18)</p>	<p>35</p>	<p>3.4</p>	<p><達成手段の概要> ・生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学－政策プラットフォーム（IPBES）の活動に係る国内連絡会等を開催する。 ・既存の生物多様性に関する観測データ、調査結果の整備・収集を行い、GBIF等へ提供する。 ・日本人専門家をIPBESの総会、学際的専門家パネル会合、タスクフォース及び専門家グループ会合へ派遣し、評価報告書等の成果物への知見提供・情報収集等を行う。</p> <p><達成手段の目標> ・日本人専門家間での情報共有を推進する。 ・収集した観測データ、調査結果がIPBESの情報基盤となるとともに、生物多様性情報が国内外に広く共有され、保全施策や研究等に活用される。 ・IPBESやGBIFの成果物に日本の知見が反映される。</p> <p><施策の達成すべき目標（測定指標）への寄与の内容> ・評価及び予測結果について広く広報や啓発を行うことにより、生物多様性・生態系サービスと暮らしのつながりについての理解を深め、生態系等の重要性が認識され保全や持続可能な利用に向けた取組の一層の推進を図ることで、「各種施策に必要な情報の収集・整備・提供、国民への生物多様性に関する普及啓発」に寄与する。 ・IPBESやGBIFの成果物に日本の知見が反映され、地球規模及び我が国の施策検討の基礎となる科学的知見の深化等が進むことにより、「国際的枠組への参加を通じて、自然資源の保全、地球規模の生物多様性の保全を図る」ことに寄与する。 ・国内の生物多様性情報の収集を図り、GBIFへの継続的な情報提供に寄与する。</p>	<p>198</p>
<p>(10) サンゴ礁生態系保全対策推進費（(旧)アジア太平洋地域生物多様性保全推進費のうち、アジア・オセアニア重要サンゴ礁ネットワーク構築事業）（平成30年度）</p>	<p>31 (31)</p>	<p>23 (23)</p>	<p>41 (5)</p>	<p>32</p>	<p>3.4</p>	<p><達成手段の概要> ・東アジア地域のサンゴ礁生態系のモニタリングを推進し、保全事例に役立てる。 ・「サンゴ礁生態系保全行動計画2022-2030」に基づくモデル事業の検討と達成状況のフォローアップを行う。</p> <p><達成手段の目標> ・地球規模サンゴ礁モニタリングネットワーク（GCRMN）東アジア地域のモニタリング体制及び情報共有メカニズムを強化する。 ・「サンゴ礁生態系保全行動計画2022-2030」において選定した、2030年度までに集中的に取り組むべき重点課題への対策として、モデル事業の検討を行うとともに、各地域における取組達成状況についてのフォローアップを行うことで、「サンゴ礁生態系保全行動計画2022-2030」を着実に実施し、サンゴ礁生態系の効果的且つ効率的な保全を促進する。</p> <p><施策の達成すべき目標（測定指標）への寄与の内容> ・サンゴ礁生態系保全を促進し、生物多様性国家戦略及びポスト2020生物多様性枠組に掲げられているサンゴ礁生態系保全に関する目標の達成に寄与する。</p>	<p>193</p>
<p>(11) 森林・乾燥地・極地保全対策費（平成23年度）</p>	<p>31 (28)</p>	<p>30 (25)</p>	<p>26 (20)</p>	<p>26</p>	<p>3</p>	<p><達成手段の概要> ・世界の森林の生物多様性保全、砂漠化対処に関する普及啓発等を実施する。 ・南極地域の環境保全に関する国際的枠組みの遵守とその発展に向けた自然資源の総合的な保全・管理を担保する。</p> <p><達成手段の目標> ・世界の森林の生物多様性の保全を図るための普及啓発等を実施することで海外森林の生物多様性保全活動が継続的に促進される。また、砂漠化/土地劣化に対処するため、乾燥地において住民参加による灌木の保全・再生及び持続可能な利用・管理の促進を図り、先進締約国としての義務の遂行及び国民意識の向上に寄与する。 ・南極地域の環境実態把握モニタリングの実施により南極観測において環境配慮が促進される。南極環境保護法に基づく手続きやその変更の更なる周知徹底を行うことで法的手続きの遺漏を防止する。</p> <p><施策の達成すべき目標（測定指標）への寄与の内容> ・生物多様性条約、国連森林フォーラムや砂漠化対処条約等の国際的取組の進展への貢献をすることで、世界の森林及び乾燥地における生物多様性の保全等に寄与する。 ・南極地域の保全により国際的枠組への参加を通じた地球規模の生物多様性保全に寄与する。</p>	<p>195</p>

(12)	アジア保護地域イニシア ティブ構築推進事業 (平成25年度)	24 (20)	19 (8)	19	19	3	<p><達成手段の概要> 我が国を含むアジアにおける保護地域の管理水準の向上のため、第1回アジア国立公園会議(平成25年11月、仙台市)や第6回世界国立公園会議(平成26年11月、オーストラリア)の成果を踏まえ、我が国がリーダーシップを発揮してアジアにおける保護地域に係る連携のための枠組みを構築し、こうした枠組みに基づき国立公園等の保護地域の管理手法等に関する取組事例の共有や能力開発等の事業を実施する。</p> <p><達成手段の目標> アジアにおける愛知目標の達成を含めた生物多様性条約に基づく取組の推進に資するため、アジアにおける国立公園等の保護地域に係る連携のための枠組を通じた活動を通じ、ポスト2020目標も見据えつつ、アジアにおける保護地域の管理水準の向上を目指す。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 各国の愛知目標達成に向けた取組が推進されるとともに、我が国の生物多様性分野での国際的リーダーシップの発揮とパートナーシップの強化を図ることにより、施策の達成すべき目標「国際的枠組みへの参加を通じて、自然資源の保全、地球環境の生物多様性の保全を図る」に貢献する。</p>	190
(13)	地域における対策・活用推進のための要注意鳥獣等(クマ等)監視業務 (平成27年度)	0	0	0	0	4	<p><達成手段の概要> 生態系や農林水産業などへの被害が甚大化している要注意鳥獣(クマ等)などについて生息状況調査を行い、今後の生息分布を予測する。</p> <p>なお、平成30年度より、自然環境保全基礎調査費と一体的に実施することにより、より効率的・効果的な事業の実施を目指す。</p> <p><達成手段の目標> 要注意鳥獣(クマ等)7種の生息情報を収集し、分布状況を明らかにし、公開する。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 平成30年度より、「自然環境保全基礎調査費」と一体的に実施することにより、施策の達成すべき目標である、「各種施策に必要な情報の収集・整備・提供、国民への生物多様性に関する普及啓発などの取組を進める。」により効率的・効果的に寄与する。</p>	-
(14)	生物多様性保全推進支援事業 (平成20年度)(関連:29- 〇)	136 (129)	136 (128)	172 (160)	172	4	<p><達成手段の概要> 地域における生物多様性の保全・再生(特定外来生物防除対策、重要生物多様性保護地域保全再生、広域連携生態系ネットワーク構築、地域民間連携促進活動、国内希少野生動植物種生息域外保全、国内希少野生動植物種保全、特定外来生物早期防除計画策定、里山未来拠点形成支援事業)に資する先進的・効果的活動を支援する。</p> <p><達成手段の目標> 国の生物多様性の保全上重要な地域における保全活動を実施する。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 本達成手段は地域における生物多様性の保全・再生(特定外来生物防除対策、重要生物多様性保護地域保全再生、広域連携生態系ネットワーク構築、地域民間連携促進活動、国内希少野生動植物種生息域外保全、国内希少野生動植物種保全、特定外来生物早期防除計画策定、里山未来拠点形成支援事業)に資する活動を推進するものであり、施策の目標の達成に直接的に貢献する。</p>	199
(15)	気候変動適応計画推進のための浅海域生態系現況把握調査	13 (12)	13 (11)	12 (11)	0	4	<p><達成手段の概要> 浅海域生態系の現状把握調査を行い、沿岸域生態系における気候変動の影響評価等を行うことで、適応策の検討及び推進等に資する基盤的情報を整備・提供する。</p> <p><達成手段の目標> サンゴの分布状況について把握する。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 浅海域におけるサンゴ礁の分布面積等の生物多様性に係る基盤情報の整備・提供を行うことは、施策の達成すべき目標である「各種施策に必要な情報の収集・整備・提供、国民への生物多様性に関する普及啓発などの取組を進める」ことに寄与する。</p>	192
(16)	自然生態系を基盤とする防災減災推進費 (令和2年度)	-	80 (1)	126 (121)	94	4	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	239
(17)	生物多様性の主流化推進事業費 (令和3年度)	-	-	15 (集計中)	15	1	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	243
施策の予算額・執行額		1,181 (1,109)	1,275 (1,059)	1,438 (集計中)	1,402	施策に関係する内閣の重要政策(施政方針演説等のうち主なもの)		-

令和4年度実施施策に係る政策評価の事前分析表

(環境省R4-21)

別紙1

施策名	目標5-2 自然環境の保全・再生				担当部局名	自然環境局 自然環境計画課 国立公園課	作成責任者名 (※記入は任意)	堀上勝(自然環境計画課長) 則久雅司(国立公園課長)			
施策の概要	原生的な自然及び優れた自然の保全を図り、里地里山などの二次的な自然や藻場・干潟等についてその特性に応じた保全を図るとともに、過去に失われた自然を積極的に再生する事業を推進することで、自然環境の保全・再生を図る。				政策体系上の位置付け	5.生物多様性の保全と自然との共生の推進					
達成すべき目標	<ul style="list-style-type: none"> ・原生的な自然環境、里地里山などの二次的な自然、干潟などの生態系を地域の特性に応じて保全、維持管理する。 ・国内の世界自然遺産登録地について、世界遺産として認められた価値を将来にわたって保全するため順応的な保全管理を推進する。 ・過去に損なわれた自然について、地域の多様な主体による自然再生の取組を支援することで、自然環境の保全・再生を推進する。 ・生物多様性保全について先進的・効果的な取組を支援することで、今後の保全活動の推進に繋げる。 ・国立公園の保護と利用の好循環を図るとともに、自然状況や社会状況、風景評価の多様化等の変化をふまえ、国立・国定公園の区域及び公園計画について、着実に見直しを行い、適切な保護管理を行う。 				目標設定の考え方・根拠	生物多様性国家戦略2012-2020 自然再生推進法 自然公園法 生物多様性地域連携促進法 自然環境保全法	政策評価実施予定時期	令和5年8月			
測定指標	基準値	目標値	年度ごとの目標値							測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠	
			年度ごとの実績値								
			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		
1 自然再生協議会の数	26	R2年度	30	R7年度	-	-	-	-	-	生物多様性国家戦略2012-2020において、「自然再生の着実な実施」を掲げており、その数値目標として用いていた指標及びその後の状況を踏まえて設定しているため。	
2 当該年度を終期とする国立・国定公園の点検等見直し計画の達成率	-	-	100%	毎年度	9地区100%	7地区100%	6地区100%	10地区100%	100%	100%	国立・国定公園区域及び公園計画の見直しを着実に実施することが目標の達成に寄与するため、測定指標として選定した。なお、目標値は、各国立・国定公園の点検状況及び地域の実情を踏まえ、年度始めに見直しが必要な地区を見直し計画として定め、目標値を設定することとしている。
3 三陸復興国立公園(平成24年度までは陸中海岸国立公園)の利用者数(千人)	458	H23年度	6,994	R3年度	-	-	6,994	-	-	-	三陸復興国立公園の創設を始めとする様々な取組によって、当該公園を訪れる者が増加することは、観光拠点の復旧・復興が進んでいると考えられることから、測定指標として「三陸復興国立公園利用者数」を選定した。なお、目標値は、元々令和2年度における利用者数を震災以前の水準(6,994千人以上)にすることとしていたが、コロナ禍を踏まえ、令和3年度までとしている。
測定指標	目標		測定指標の選定理由及び目標(水準・目標年度)の設定の根拠								
		目標年度									
4 生物多様性の保全に係る各種取組の状況	生物多様性の保全のための必要な取組の推進		-	里地里山等の地域の特性に応じた保全を図るとともに、過去に損なわれた自然の再生、生物多様性保全の先進的・効果的な取組の支援を行うなど、生物多様性の保全のための必要な取組を推進することにより、生物多様性の保全と自然との共生の推進に資するため。							
5 保護区の管理状況	保護区の適切な保護・管理		-	原生自然環境保全地域や国内の世界遺産登録地、国立・国定公園地域において、適切な保護管理を行うことにより、生物多様性の保全と自然との共生の推進に資するため。							
達成手段(開始年度)	予算額計(執行額)(百万円)			当初予算額(百万円)	関連する指標	達成手段の概要等	行政事業レビュー事業番号				
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度							
(1) 原生的な自然環境の危機対策事業(平成22年度)	6(5)	6(6)	6(5)	6	5	<達成手段の概要> 自然環境保全地域等について、危機状況を把握するための調査を実施する。また、調査結果を分析・評価した上で、必要な対策を検討・実施する。 <達成手段の目標> 自然環境保全地域等の危機状況の把握及び対策等を実施する(自然環境保全地域等の適切な保全管理)。 <施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 自然環境保全地域等の危機状況の把握及び対策等を実施することにより、当該地域の適切な保全管理を実施することができ、これにより原生的な自然環境の保全、維持管理の一層の促進に寄与する。	197				

(2)	生物多様性保全推進支援事業 (平成20年度)(関連:29-⑳)	136 (129)	136 (128)	172 (160)	172	4, 5	<p><達成手段の概要> 地域における生物多様性の保全・再生(特定外来生物防除対策、重要生物多様性保護地域保全再生、広域連携生態系ネットワーク構築、地域民間連携促進活動、国内希少野生動植物種生息域外保全、国内希少野生動植物種保全、特定外来生物早期防除計画策定、里山未来拠点形成支援事業)に資する先進的・効果的活動を支援する。</p> <p><達成手段の目標> 国の生物多様性の保全上重要な地域における保全活動を実施する。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 本達成手段は地域における生物多様性の保全・再生(特定外来生物防除対策、重要生物多様性保護地域保全再生、広域連携生態系ネットワーク構築、地域民間連携促進活動、国内希少野生動植物種生息域外保全、国内希少野生動植物種保全、特定外来生物早期防除計画策定、里山未来拠点形成支援事業)に資する活動を推進するものであり、施策の目標の達成に直接的に貢献する。</p>	199
(3)	自然再生活動推進費 (平成15年度)	11 (10)	9 (9)	11 (10)	11	1, 4	<p><達成手段の概要> 自然再生推進法に基づく自然再生協議会の設立や自然再生を進めるための技術的課題の解決等の支援を行う。また、自然環境に関する専門的知識を有する学識経験者等による自然再生専門家会議を組織することにより、自然再生の技術課題の解決を図る。</p> <p><達成手段の目標> 地域の多様な主体による自然再生の取組を支援することによる、自然環境の保全・再生を推進する。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 自然再生の技術課題の解決等の支援を行うことにより、自然再生推進法に基づく自然再生協議会の設立及びその取組の推進を図るものであり、施策の目標の達成に直接的に貢献する。</p>	200
(4)	国立・国定公園新規指定等推進事業費 (平成25年度)	108 (90)	68 (57)	63 (集計中)	63	2.5	<p><達成手段の概要> 国立・国定公園の新規指定又は大規模拡張の候補地とされた地域について、利用計画を検討して土地所有者や地域の関係者等との調整に必要な調査を行うとともに、その他の国立・国定公園についても、海域公園地区の指定を含め見直しに必要な自然環境や利用関係のデータ収集等の調査を行う。</p> <p><達成手段の目標> 国立公園の新規指定又は大規模拡張を推進する。海域公園地区の指定を含む公園区域及び公園計画の見直しを推進する。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 国立公園の新規指定又は大規模拡張、海域公園地区の指定を含む公園区域及び公園計画の見直しの根拠となる自然環境や公園利用に関するデータを収集することにより、関係者の理解を得ながら調整を進めることにより、点検等の見直しが円滑に進み、「自然状況や社会状況、風景評価の多様化等の変化をふまえ、国立・国定公園の区域及び公園計画について、着実に見直しを行い、適切な保護管理」に寄与する。</p>	201
(5)	沖合海底自然環境保全地域管理事業費 (令和2年度)	-	180 (165)	60 (77)	38	5	<p><達成手段の概要> 海洋基本法・海洋基本計画・生物多様性国家戦略・海洋生物多様性保全戦略に基づき、海洋の生物多様性保全を推進するため、沖合海底自然環境保全地域の自然環境についてのモニタリングを行う。</p> <p><達成手段の目標> 沖合海底自然環境保全地域の自然環境の状況を把握し、今後の同地域の科学的・実効的な管理や特別地区の追加指定等の検討、継続的なモニタリングを行うことで、沖合海底域の生物多様性及び生物資源を保全する。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 沖合自然環境保全地域の自然環境の情報を継続的に把握することで、その情報を元にした適切な保護管理を行うことにより、生物多様性の保全と自然との共生の推進に寄与する。</p>	238
(6)	特定地域自然林保全整備事業費 (平成4年度)	6 (6)	6 (6)	6 (集計中)	6	5	<p><達成手段の概要> 世界自然遺産地域等において、モニタリングのための機材や保全のための標識の整備・更新等を行う。</p> <p><達成手段の目標> 遺産地域等の保全設備の整備・更新(遺産地域等の適切な保全管理)</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> モニタリングのための機材や保全のための標識の整備・更新等を行うことにより、世界自然遺産地域等の適切な保全管理を実施することができ、これにより地域の特性に応じた生態系の保全、維持管理の一層の促進に寄与する。</p>	209
(7)	生物多様性保全回復施設整備交付金事業 (平成25年度)	124 (214)	38 (32)	25 (23)	25	4	<p><達成手段の概要> 国の自然環境を代表する自然特性を有する地域と生態学的に密接な関連を有する地域で、条例等に基づき指定された保護地域その他重要な自然環境を有する地域として選定された里地里山、湿地等において、地方公共団体が行う地域の生態系の保全・回復を図るための生物の生息空間の整備事業のうち、先進的・効果的で全国的な観点から波及効果が期待される事業に対し、その工事に要する費用の一部を補助する。</p> <p><達成手段の目標> 国の自然環境を代表する自然的特性を有する地域に隣接するなど生態学的に密接な関連を有する地域において、地方公共団体が実施する生物多様性の保全・回復のための事業を促進することにより、地域の生物や生態系の有機的なつながりを確保する。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 地域の特性を踏まえて地方公共団体が行う生物多様性の保全・回復のための事業の支援を通じて地域の生物や生態系の有機的なつながりを確保することにより、施策の達成すべき目標である、「生物多様性保全について先進的・効果的な取組を支援することで、今後の保全活動の推進に繋げる。」に寄与する。</p>	211

(8)	日本の国立公園と世界遺産を活かした地域活性化推進費 (平成26年度)	436 (361)	450 (333)	410 (集計中)	392	5	<p><達成手段の概要> 世界自然遺産の屋久島、白神山地、知床、小笠原諸島については、植生の変化、シカの食害、外来種の影響など長期的なモニタリングを実施し、その結果を科学委員会を通じて対策に反映させる順応的な保全管理を一層充実させる。 また、令和3年7月に新たに世界自然遺産として登録された奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島については、ユネスコ及びIUCNからの勧告に対応すべく遺産地域の長期的な河川再生のための戦略づくりや、適正な観光管理の推進、観光利用や気候変動の影響に関するモニタリングの強化などの必要な保護措置を講じる。</p> <p><達成手段の目標> 順応的な保全管理体制の構築を図る(遺産地域等の適切な保全管理)。 <施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 最新の科学的知見に基づく保全管理体制の強化などにより、遺産地域等の保全管理の質を高めるとともに、生物多様性保全の先進地域としてのモデルを示し、これにより地域の特性に応じた生態系の保全、維持管理の一層の促進に寄与する。</p>	205
(10)	世界遺産保全管理拠点施設等整備 (平成24年度)	11 (11)	699 (59)	675 (集計中)	30	5	<p><達成手段の概要> 世界自然遺産地域を適切に保全管理し、遺産としての価値を維持することは、世界遺産条約国の責務である。新規に世界自然遺産に登録された奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島について、保全管理や普及啓発等を担う施設整備のための調査・設計を行う。</p> <p><達成手段の目標> 本施設を拠点として、世界遺産としての価値の維持を図る。 <施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 世界遺産としての価値の維持が図られていることで、世界遺産地域の適切な保全管理に大きく貢献する。</p>	210
(11)	国立公園内生物多様性保全対策費(平成15年度)	102 (80)	114 (99)	101 (集計中)	30	5	<p><達成手段の概要> 外来生物の侵入や里山の草刈り等の人為的な管理停止の影響により地域固有の生態系に影響が生じている地域において、生態系維持回復事業計画等に基づき、効果をモニタリングしながら順応的な生物多様性保全施策を実施する。また、島嶼といった外来種の影響を受けやすい脆弱な自然環境を有する地域において外来種の防除事業を継続する。さらに捕獲や採取等の規制対象となる動植物の見直し・選定を行い、国立公園等の保護地域に生息・生育する絶滅危惧種等の動植物の保全を強化するとともに、利用調整を実施する。</p> <p><達成手段の目標> 国立公園等の保護上重要な地域において、過剰利用や生態系攪乱を防止し、生物多様性を保全する。 <施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 自然環境及び個々の生物種の保護による生物多様性の保全や、人と自然との共生等に寄与する。</p>	202
(12)	日光国立公園「那須平成の森」管理運営事業(平成23年度)	34 (34)	36 (34)	34 (集計中)	34	5	<p><達成手段の概要> 平成23年5月の一般供用後の変化を継続的にモニタリングするとともに、有識者会議を開催し、自然環境の保全や利用のあり方、モニタリングの体制構築について検討を行う。また、那須平成の森フィールドセンターや那須高原ビジターセンターを拠点として、ガイドツアーや自然体験プログラムの実施、施設内展示、解説等を行うことにより、国民に対して、所管換の趣旨に沿った利用環境を国民に提供する。</p> <p><達成手段の目標> 国民が自然を体験し、自然を学び、自然と人間の共生の在り方を学ぶための利用環境を確保するとともに、多様な生物種が確認される豊かな自然を引き続き保全し、国民が自然に直接ふれあえる場として活用するための体制を構築する。 <施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 豊かな自然の中で国民が自然を体験し、自然と人間の共生のあり方を学ぶための場所にふさわしい利用環境を環境省において確保・維持していくことで、自然との共生の推進に資することに寄与する。</p>	203
(13)	特定民有地買上事業費 (平成17年度)	562 (528)	610 (602)	585 (集計中)	509	5	<p><達成手段の概要> 国立公園等のうち自然環境保全上特に重要な地域であって、民有地であるために当該土地を買い取らない限り私権との調整上厳正な保護管理を図ることができない地域を対象として、土地及びその上に所在する立木を含めて国が買上を行う。 本事業により取得した土地等については、国の行政財産として厳正な保護管理を図る。</p> <p><達成手段の目標> 国立公園等のうち自然環境保全上重要な地域内に所在し、生物多様性保全の観点等から保護の必要性が高い民有地の買上を行い、これらの地域の保護管理の強化を図る。 <施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 国立公園等のうち自然環境保全上重要な地域内に所在し、生物多様性保全の観点等から保護の必要性が高い民有地の買上を行い、適切な保護管理を行うことにより、生物多様性の保全と自然との共生の推進に寄与する。</p>	207
(14)	国立公園管理計画等策定調査費(平成18年度)	33 (27)	29 (19)	29 (集計中)	24	5	<p><達成手段の概要> 自然公園法に基づき、各国立公園における地域の自然的・社会的条件を踏まえて、地域の合意形成を通じて「管理方針」及び「管理運営計画」をとりまとめる。</p> <p><達成手段の目標> 各国立公園において、地域の特性に応じた適切な管理方針を作成し、適切できめ細やか、かつ円滑な国立公園の管理運営が実施されることで、自然との共生の推進に資することを目標とする。 <施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 各国立公園を管理計画区として地域区分し、多様な地域の実情に即した、地域の関係者の連携を推進するための具体的な取扱い方針等を定めた「管理運営計画」等を作成し、地域の関係者と国立公園のビジョン等について共通の認識を持ち、国立公園の管理運営を協働により進めていくことで、国立公園の適正な保護及び利用に寄与する。</p>	212

(15)	国立公園等民間活用特定 自然環境保全活動(グリーン ワーカー)事業費(平成 13年度)	269 (246)	263 (261)	251 (233)	251	4	<p><達成手段の概要> 国立公園等(国立公園、国指定鳥獣保護区、自然環境保全地域及びこれらと密接な関係にある周辺地域)の貴重な自然環境を有する地域において、自然や社会状況を熟知した地元住民等を活用し、以下の①～④の事業を中心としたきめ細かな自然環境保全活動等を実施する。</p> <p>①野生生物の保護・保全、②環境美化、③登山道の整備、④景観の維持</p> <p><達成手段の目標> 国立公園等の貴重な自然環境を有する地域において、当該地域の自然環境や社会状況を熟知した地元住民等によって構成される民間事業者等を活用し、国民ニーズや地域ニーズを把握した上で、野生生物の保護や歩道の維持・修繕等の活動を最も効率的かつ効果的に実施し、国立公園管理やサービスのグレードアップを図る。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 生物多様性保全、国立公園等の管理やサービスのグレードアップが図られ、国民のニーズにも寄与する。</p>	213
(16)	地方環境事務所電子政府 システム維持管理更新費 (平成15年度) ※令和4年度よりデジタル 庁一括要求予算	14 (13)	9 (9)	46 (44)	0	5	<p><達成手段の概要> 国立公園に係る各種申請等に対して効率的な処理を確保するため、「電子政府構築計画」に基づき、国立公園業務管理システムの適切な維持及び必要な更新を実施する。</p> <p><達成手段の目標> 国立公園に係る申請届出手続のスピードアップ、行政サービス及び業務効率の向上を図る。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 国立公園に係る申請届出手続のスピードアップ、行政サービス及び業務効率の向上を図ることにより、円滑な国立公園管理に寄与する。</p>	196
(17)	山岳環境保全対策事業 (平成23年度)	61 (14)	54 (53)	97 (4)	82	4	<p><達成手段の概要> 山岳環境の保全や、中高年、女性登山者、訪日外国人旅行者の利用増加に対し、環境に配慮したし尿処理施設が整備されていない山小屋等トイレを公衆トイレとして活用できるよう整備する。</p> <p><達成手段の目標> 公衆トイレとしても利用できる山小屋トイレの整備を行うとともに、国立公園等の山岳地域の優れた景観の保持及び自然環境の保全と適正利用を推進する。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 当該事業を通じ、国立公園等をより魅力あるものとするとともに、観光地域として再生・活性化することに寄与する。</p>	204
(18)	放射線による自然生態系 への影響調査費 (平成28年度)	14 (12)	14 (12)	14 (12)	14	4	<p><達成手段の概要> 東京電力福島第一原子力発電所の事故により放出された放射線による自然生態系への影響を把握するため、野生動植物への放射線の影響を調査するとともに、関係機関や専門家と連携しながら情報収集に努める。</p> <p><達成手段の目標> 放射線による自然生態系への影響を把握する。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 野生動植物への放射線影響に関する調査、関係機関等との連携や情報収集を実施することにより、放射線による自然生態系への影響を把握することができ、これにより生物多様性の保全のための必要な取組の一層の推進に寄与する。</p>	187
(19)	ロングトレイル体制強化等 推進事業(旧)三陸復興 国立公園再編成等推進事 業費) (令和3年度)	29 (26)	28 (23)	27	27	3	<p><達成手段の概要> 全国のロングトレイルについて、①地域の参画によるサービスの向上と交流人口の拡大や民間企業等との連携強化を図るための制度構築、②トレイル周辺のモニタリング、③ロングトレイルの普及啓発を実施する。</p> <p><達成手段の目標> 長距離自然歩道年間利用者数を増加させる。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、人々が身近な自然の価値を再認識し、健康志向が高まる中、二酸化炭素を排出せずに心身の健康にも通じるロングトレイルの利用を新たな価値として発信し、その活用を推進することで、公園利用者を増やし、地域観光の活性化に寄与する</p>	244
(20)	鳥獣保護管理強化総合対 策事業費 (平成24年度) (関連:30-㉓)	770 (659)	730 (596)	730 (集計中)	632	5	<p><達成手段の概要> シカ等の野生鳥獣による深刻な生態系被害を受けている国立公園等の保全地域又は今後生態系被害が顕在化する可能性がある地域において、野生鳥獣の管理計画を策定するとともに、シャープシューティング等の先進的な捕獲法を導入しつつ捕獲を継続する。</p> <p><達成手段の目標> 生態系の現況把握、野生鳥獣による生態系の被害状況把握、対象種の生態特性把握、保全対象の優先度整理、捕獲体制の構築等を行い、野生鳥獣の個体数密度を適正化するための基盤を構築する。また、並行して捕獲を進めることで、生態系被害を与える野生鳥獣の生息頭数を適正化し、被害を終息させる。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 我が国の生物多様性保全上重要な国立公園等において、野生鳥獣の適切な保護管理を行うことにより、生物多様性の保全と自然との共生の推進に寄与する。</p>	208

(21) 西之島総合学術調査事業費 (平成29年度)	26 (28)	39 (0)	78 (71)	39	5	<p><達成手段の概要> ①自然環境に関する各分野の専門家による調査団を組織し、総合学術調査を実施。あわせて、学術的な検討会を実施し、調査計画の作成や、調査結果に基づく当該地域の自然生態系の状況や学術的価値などについての分析・評価を行うとともに、モニタリング計画の策定を行う。 ②保護担保措置の検討に当たっての基礎的調査として、当該地域の生態系を脅かすリスクの把握や、原生的な自然を維持できる条件を有しているかについて、実態調査や海外の事例も含めた情報収集を行う。 ③①、②をもとに、西之島の保護のあり方についての検討を行い、保護の方針を決定する。</p> <p><達成手段の目標> 西之島の生態系の保護を図り、島嶼における進化の過程や生態系の形成過程を把握するためのモニタリングサイトとして厳正に管理する。このことにより、生態系の形成過程を一から観測できる貴重な区域としての価値を損なうことなく子孫に引き継ぐことが可能となり、生態系の仕組みの解明等に資するとともに、自然再生、自然と共存した国土の合理的利用といった観点の技術的進歩に貢献する。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 原生的な自然環境の生態系を地域の特性に応じて保全、維持管理することにより、生物多様性の保全と自然との共生の推進に寄与する。</p>	191
(22) 里地里山及び湿地における絶滅危惧種分布重要地域抽出調査費 (平成30年度)	33 (27)	25 (25)	29 (27)	25	4	<p><達成手段の概要> 重要里地里山及び重要湿地に生息・生育する種の詳細情報を文献調査・現地調査(魚類は環境DNA分析技術を含む)によって拡充するとともに、絶滅危惧種分布重要地域を抽出する。</p> <p><達成手段の目標> 絶滅危惧種分布重要地域を抽出することにより、自然再生等の保全対策等に活用する。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 本調査の成果は、自然再生等の保全対策や生息地等保護区の指定検討等の取組の基礎資料として有用であることから、施策の目標の達成に貢献する。</p>	228
(23) ポスト2020目標に向けた民間取組を活用した新たな自然環境保護のあり方の検討費 (令和2年度)	-	21 (16)	18 (18)	-	4	<p>令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)</p>	237
OECMを活用した健全な生態系の回復及び連結促進事業費 (令和4年度)	-	-	-	130	4	<p>令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)</p>	
施策の予算額・執行額	2,785 (2,520)	3,564 (2,544)	3,420 (集計中)	2,540		<p>施策に係る内閣の重要政策(施政方針演説等のうち主なもの)</p>	

令和4年度実施施策に係る政策評価の事前分析表

(環境省R4-22)

別紙1

施策名	目標5-3 野生生物の保護管理				担当部局名	自然環境局 野生生物課	作成責任者名 (※記入は任意)	中澤圭一 (野生生物課長)				
施策の概要	絶滅危惧種の生息状況等の調査による現状把握と国内希少野生動植物種の新規指定、保護・増殖による種の保存、鳥獣の適切な保護・管理と狩猟の適正化、遺伝子組換え生物及び侵略的な外来種への対策推進等による生物多様性等への影響防止。				政策体系上の位置付け	5.生物多様性の保全と自然との共生の推進						
達成すべき目標	新たに種の絶滅が生じないようにするとともに、絶滅の危機に瀕している種の個体数の維持・回復。野生鳥獣による農林水産業、生活環境、生態系への被害の防止。外来種による在来種や生態系への影響の防止。				目標設定の考え方・根拠	種の保存法、鳥獣保護管理法、外来生物法、カルタヘナ法	政策評価実施予定時期	令和5年8月				
測定指標	基準値	基準年度	目標値	目標年度	年度ごとの目標値							測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠
					年度ごとの実績値							
					R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
1 国内希少野生動植物種の指定数	-	-	700種	R12年度	-	-	-	-				絶滅危惧種の保全を効果的に推進するために、種の保存法に基づく国内希少野生動植物種の新規指定や見直し等を行う必要があるため。
					356種	395種	427種					
2 国内希少野生動植物種のうち新たに科学的に絶滅と判定された種数	-	-	0種	-	-	-	-	-				新たな種の絶滅が生じないよう、種の保存法に基づく施策を行う国内希少野生動植物種の状況について評価するため。
					0種	0種	0種					
3 奄美大島におけるマングースの捕獲努力量あたりの捕獲数(1000罨日当たりの捕獲数)	-	-	0頭 (毎年度減少)	R4年度	-	-	-	0頭	0頭	0頭	0頭	特定外来生物による生態系への被害を防止するため、特に奄美大島において我が国固有の希少野生動物への大きな被害を及ぼしている特定外来生物マングースを科学的知見に基づき根絶する必要があるため。
					0頭	0頭	0頭					
4 ヒアリの定着地点数	-	-	0地点	R4年度	-	-	-	0地点	0地点	0地点	0地点	特定外来生物による生態系への被害を防止するため、特にまん延した場合に著しく重大な生態系被害が生じるおそれのある特定外来生物ヒアリの日本国内への定着を阻止する必要があるため。
					0地点	0地点	0地点					
5 ニホンジカ・イノシシの生息頭数の推定値(全国)を平成23年度比で半減(推定は毎年度新しいデータを追加して実施。過去に遡って推定値が見直されるため、過去の推定結果も変動する)	推定の中 中央値 ニホンジカ 216万頭 イノシシ 120万頭 ※令和3年 度に算出	平成23年 度	平成23年 度比で半 減 (ニホンジカ 108万頭、 イノシシ 60万頭)	R5年度	-	-	-	-				ニホンジカ・イノシシによる自然生態系等への影響が深刻であり捕獲の一層の強化が必要であるため。
					ニホンジカ 222万頭、 イノシシ 100万頭	ニホンジカ 218万頭、 イノシシ 87万頭	集計中					
測定指標	目標		目標年度		測定指標の選定理由及び目標(水準・目標年度)の設定の根拠							
6 侵略的外来種の状況	侵略的外来種とその定着経路が特定され、優先順位付けられ、優先度の高い種が制御され又は根絶される。		-		外来種の情報収集を行い、対策の優先度の高い外来種を明らかにすることで、外来種による生態系への被害の防止を図るため。また、外来種の侵入経路の把握に努め、より効率的な対策を進めるため。							
7 適切な野生生物保護管理の推進に向けた対策の実施状況	野生生物の適切な保護管理		-		鳥獣の保護・管理の担い手の確保・育成、国際希少野生動植物種の保存、遺伝子組換え生物対策、野鳥の高病原性鳥インフルエンザ等の発生状況の監視やモニタリング等を総合的に推進することにより、野生生物の保護・管理の強化に寄与するため。							

達成手段 (開始年度)	予算額計(執行額) (百万円)				当初予算額 (百万円)	関連する 指標	達成手段の概要等	行政事業レビュー 事業番号
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度				
(1) 指定管理鳥獣捕獲等事業費(平成26年度)	-	-	-	-		3	https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html	0221
(2) 外来生物対策費(平成16年度)	-	-	-	-		4	https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html	0218
(3) 外来生物対策管理事業地方事務費(平成18年度)	-	-	-	-		4	https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html	0225
(4) 特定外来生物防除等推進事業費(平成18年度)	-	-	-	-		2, 4	https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html	0226
(5) 遺伝子組換え生物対策費(平成16年度)	-	-	-	-		4	https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html	0220
(6) 希少種保護推進費(平成5年度)	-	-	-	-		1	https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html	0217
(7) トキ生息環境保護推進協力費(平成13年度)	-	-	-	-		1	https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html	0215
(8) 野生生物保護センター等整備・維持費(平成4年度)	-	-	-	-		1	https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html	0222
(9) 野生生物専門員活用事業(平成19年度)	-	-	-	-		1	https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html	0227
(10) 希少野生動植物種生息地等保護区管理費(平成18年度)	-	-	-	-		1	https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html	0223
(11) 国際希少野生動植物種流通管理対策費(昭和61年度)	-	-	-	-		5	https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html	0214
(12) 鳥獣保護基盤整備費(平成10年度、一部平成19年度)	-	-	-	-		5	https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html	0216
(13) 鳥獣保護管理強化総合対策事業費(平成24年度)	-	-	-	-		5	https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html	0208
(14) 野生鳥獣感染症対策事業費(平成17年度)	-	-	-	-		5	https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html	0219
(15) 国指定鳥獣保護区管理強化費(昭和46年度、一部平成21年度)	-	-	-	-		5	https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html	0224
(16) 国際分担金等経費(昭和54年度)	-	-	-	-		5	https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html	0182
(17) アジア太平洋地域渡り鳥及び湿地保全推進費(昭和57年度)	-	-	-	-		5	https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html	0194
(18) 野生鳥獣に関する感染症対策基盤事業	-	-	-	-		5	https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html	0245
施策の予算額・執行額	5,118 (4,752)	5,664 (5,211)	6025 (確認中)		確認中	施策に関係する内閣の重要政策(施政方針演説等のうち主なもの)	-	

令和4年度実施施策に係る政策評価の事前分析表

(環境省R4-23)

別紙1

施策名	目標5-4 動物の愛護及び管理				担当部局名	自然環境局 総務課動物愛護管理室	作成責任者名 (※記入は任意)	野村環(動物愛護管理室長)					
施策の概要	飼い主による終生飼養等の適正な飼養、動物取扱業の適正化、都道府県等に引き取られた犬猫の返還・譲渡等を推進することにより、人と動物の共生する社会の実現を図る。				政策体系上の位置付け	5.生物多様性の保全と自然との共生の推進							
達成すべき目標	自治体における犬及び猫の引取り数の減少(減少傾向維持)、自治体における犬及び猫の殺処分数の減少(平成30年度比50%減となる2万頭)				目標設定の考え方・根拠	動物の愛護及び管理に関する法律第5条に基づく動物愛護管理基本指針(平成18年10月31日環境省告示第140号)		政策評価実施予定時期 令和5年8月					
測定指標	基準値		目標値		年度ごとの目標値 年度ごとの実績値							測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠	
	基準年度	目標年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度				
1 自治体における犬及び猫の引取り数の減少(減少傾向維持)	92千頭	H30年度	減少傾向維持	R12年度	-	-	-	-					国等が取り組むべき動物愛護管理施策を定めている動物愛護管理基本指針において、令和12年度までに目指すこととされているため。
2 自治体における犬及び猫の殺処分数の減少(平成30年度比50%減となる2万頭)	38千頭	H30年度	20千頭	R12年度	-	-	-	-					国等が取り組むべき動物愛護管理施策を定めている動物愛護管理基本指針において、令和12年度までに目指すこととされているため。
達成手段 (開始年度)	予算額計(執行額) (百万円)				当初予算額 (百万円)	関連する 指標	達成手段の概要等					行政事業レビュー 事業番号	
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度									
(1) 動物適正飼養推進・基盤強化事業 (平成13年度 ※総理府からの移管前においては昭和52年度から)	145 (123)	340 (297)	201 (133)	192	1,2	<達成手段の概要> 普及啓発、動物愛護センサス、基本指針の点検などの総合的な施策を実施 <達成手段の目標> 動物愛護管理施策の総合的な推進 <施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 動物の愛護と適正な管理について、国民の意識の向上を図るとともに、動物の取扱状況の実態等について継続的に調査及び評価を行うことで課題の着実な解決と更なる効果的な施策の展開につなげる。					0229		
(2) 動物収容・譲渡対策施設整備費補助 (平成21年度)	248 (178)	108 (103)	148 (136)	174	2	<達成手段の概要> 自治体に引き取られた犬及び猫を返還・譲渡に結びつけることが重要であることから、動物の収容及び譲渡のためのスペースの新築・改築・増築にかかる費用を補助する。 <達成手段の目標> 自治体に収容された犬猫の返還・譲渡の推進 <施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 1頭でも多くの犬及び猫を元の飼い主へ返還及び新たな飼い主へ譲渡する場を整備することで、殺処分数の減少に寄与する。					0230		
(3) 愛玩動物看護師制度構築 検討調査費 (令和2年度)	-	14 (11)	12 (8)	10	1,2	<達成手段の概要> 愛玩動物看護師が国家資格となる事に伴い、認定試験実施にかかる検討やそれに必要な調査等を実施するとともに、有資格者数を増加するための普及啓発事業を実施する。また、法施行後、適切に制度運用するための調査や検討を実施する。 <達成手段の目標> 有資格者数を増加し、愛玩動物の適切な飼養等に寄与する。					0240		
(4) 犬猫の譲渡促進等に係る 総合推進費	-	-	-	25	1,2	<達成手段の概要> 自治体が引取る犬猫について、普及啓発や事例調査、モデル事業等を通じ、適切な譲渡を促進させる。 <達成手段の目標> 引取られた犬猫が適切に譲渡されることで殺処分数が減少するよう、譲渡が円滑に進む仕組みを構築し、社会に定着させる。					-		
施策の予算額・執行額	393 (301)	448 (400)	361 (277)	401	施策に関係する内閣の重要政策 (施政方針演説等のうち主なもの)		-						

令和4年度実施施策に係る政策評価の事前分析表

別紙1

(環境省R4-24)

施策名	目標5-5 自然とのふれあいの推進				担当部局名	自然環境局 国立公園課 国立公園利用推進室 自然環境整備課		作成責任者名 (※記入は任意)	則久雅司(国立公園課長) 岡野隆宏(国立公園利用推進室長) 萩原辰男(自然環境整備課長)			
施策の概要	豊かな自然とのふれあいや休養などの国民のニーズに応えるため、持続可能な自然資源の保全を図りつつ、安全で快適な自然とのふれあいの場の提供やふれあい活動をサポートする人材の育成を行う。				政策体系上の位置付け	5.生物多様性の保全と自然との共生の推進						
達成すべき目標	安全で快適な自然とのふれあいの場を提供しつつ、ふれあい活動をサポートする人材を育成することでエコツーリズムを推進し、自然とのふれあいの質の向上を図る。また、貴重な自然資源である温泉の保護と適正な利用を図る。				目標設定の考え方・根拠	自然公園法 エコツーリズム推進法 エコツーリズム推進基本方針 温泉法		政策評価実施予定時期	令和5年8月			
測定指標	基準値	目標値	年度ごとの目標値 年度ごとの実績値									測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠
			基準年度	目標年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
1 自然公園の年間利用者数の推移(千人)※暦年	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	自然とのふれあいの機会を増加させるため、自然公園の年間利用者数を評価する。
2 エコツーリズム推進法に基づく全体構想の認定数(括弧内は累計)	-	H20年度	(47)	R10年度	-	-	-	-	-	-	-	全体構想の認定数が増加することは、エコツーリズムの推進に直接的に結びつき、自然と人の共生について国民の意識の向上を図ることに繋がる。
3 温泉の自噴湧出量(L/分)	651,265	S45年度	前年度の水準を維持	-	676,000	667,000	680,000	-	-	-	-	温泉資源が保護され、適正に利用されているかは自然の産物である「温泉の自噴湧出量」を把握することで定量的に把握することが可能となるため。
4 国立公園・国民公園年間利用者数の推移(千人)	-	-	前年度比1%増	-	375,223	372,842	220,678	-	-	-	-	自然とのふれあいの機会を増加させるため、国立公園・国民公園の年間利用者数を評価する。
5 国立公園における自然再生事業推進のための実施計画数	-	-	22	R7年度	-	-	-	-	-	-	-	自然環境の保全や消失・変容した自然生態系の再生を図るため、国立公園における自然再生事業推進のための実施計画数を評価する。
6 国指定鳥獣保護区における保全事業実施計画数	-	-	12	R4年度	-	-	12	12	-	-	-	自然環境の保全や消失・変容した自然生態系の再生を図るため、国指定鳥獣保護区における保全事業実施計画数を評価する。
7 国立公園訪日外国人利用者数	-	-	667万人	R7年度	-	-	設定不能	設定不能	-	-	-	・政府の「明日の日本を支える観光ビジョン」に基づき実施している「国立公園満喫プロジェクト」において、新型コロナウイルス感染拡大を踏まえ国内外利用者をコロナ影響前の水準に回復することを新たな目標を設定した一方、新型コロナウイルスの影響により外国人観光客の入国について現時点で見通せず、現時点で今年度の目標値として設定不能なため。
達成手段 (開始年度)	予算額計(執行額) (百万円)			当初予算額 (百万円)	関連する 指標	達成手段の概要等					行政事業レビュー 事業番号	
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度								
(1) エコツーリズム総合推進事業費 (平成16年度)	7 (5)	5 (4)	4 (3)	4	2	<達成手段の概要> エコツーリズム推進法に定められている国の責務である全体構想の認定、周知、技術的助言、情報収集、広報活動等を所管省庁と連携して実施する。 <達成手段の目標> エコツーリズム推進全体構想認定数が各都道府県に1以上となるよう、エコツーリズムの推進を図る。 <施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> エコツーリズムの推進を図ることで、持続可能な利用が図られる「自然と共生する社会」の実現に寄与する。					231	

(2) 自然公園等事業費等 (平成6年度)	17,935 (13,225)	18,837 (15,906)	集計中 (集計中)	7,730	4,5,6	<p><達成手段の概要> 国立公園等において自然環境の保全や消失・変容した自然生態系の再生を図るとともに、国立公園等の保護上及び利用上重要な事業(登山道、避難小屋、木道、植生復元施設、山岳トイレ等の整備)並びに国民公園等の施設整備を実施し、維持管理を行う。</p> <p><達成手段の目標> 国立公園等における優れた自然風景地等の保護と、利用の増進を図る。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 自然公園等事業を通じて、国立公園等における優れた自然風景地等の保護と利用を図るとともに、安全で快適な自然とのふれあいの場の提供に寄与する。</p>	233
(3) 温泉の保護及び安全・適正利用推進事業 (平成18年度)	23 (19)	25 (19)	25 (21)	25	3	<p><達成手段の概要> 温泉の保護や可燃性天然ガスによる災害の防止、温泉の適正利用等、温泉法の適正な執行を図るための調査を行う。</p> <p><達成手段の目標> 温泉法に基づき都道府県等が行う許可の判断基準等に関連するガイドライン等を策定し、技術的助言を実施することにより、温泉の保護及び適正な利用を推進する。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 当該事業を通じて、温泉の保護、可燃性天然ガスによる災害の防止、温泉の適正利用を推進するとともに、安全で快適な自然とのふれあいの場の提供に寄与する。</p>	232
(4) 自然公園等利用ふれあい推進事業 (平成19年度)	9 (7)	9 (5)	9 (集計中)	9	1,4	<p><達成手段の概要> 国立公園等において、みどりの月間等における自然とのふれあい行事を実施するとともに、利用者指導等を行う自然公園指導員及び自然解説等を行うパークボランティアの技術向上のために研修等を実施する。</p> <p><達成手段の目標> 自然とのふれあいの機会・情報の提供等により、自然環境保全に関する理解の深化、各種取組への意欲の増進、適正利用の促進等を図る。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 自然とのふれあいの機会及び情報提供等は直接的に自然とのふれあいを推進することに寄与する。</p>	234
(5) 国立公園満喫プロジェクト推進事業 (平成28年度補正)	512 (469)	540 (452)	540 (集計中)	540	1,4,7	<p><達成手段の概要> 政府の「明日の日本を支える観光ビジョン(平成28年3月)」に基づき、国立公園を世界水準の「ナショナルパーク」としてブランド化するため、「国立公園満喫プロジェクト」として、保護すべきところは保護しつつも、利用の推進を図るための取組を推進する。</p> <p><達成手段の目標> 2025年までに国内外の国立公園利用者数を新型コロナウイルスの影響前に回復させる(令和3年度は目標設定不能)。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 国立公園の持続可能な利用を促進し、利用による地域への経済的効果の波及に伴い、地域に観光資源としての自然環境の価値を認識してもらうことで、自然との共生の推進に寄与する。</p>	206
施策の予算額・執行額	18,486 (13,718)	19,416 (16,386)	集計中 (集計中)	8,308	<p>施策に関係する内閣の重要政策 (施政方針演説等のうち主なもの)</p> <p>生物多様性国家戦略2012-2020、観光ビジョン実現プログラム2019、骨太の方針2022、新資本主義戦略フォローアップ</p>		

令和4年度実施施策に係る政策評価の事前分析表

(環境省R4-25)

別紙1

施策名	目標5-6 東日本大震災への対応(自然環境の復旧・復興)				担当部局名	自然環境局 国立公園課 野生生物課	作成責任者名 (※記入は任意)	則久雅司(国立公園課長) 中澤圭一(野生生物課長)					
施策の概要	地域の自然資源等を活用した三陸復興国立公園の拡張、被災した公園事業施設の復旧や復興のための整備に取り組む。				政策体系上の位置付け	5.生物多様性の保全と自然との共生の推進							
達成すべき目標	三陸復興国立公園の創設を始めとした様々な取組を通じて、森・里・川・海のつながりにより育まれてきた自然環境と地域の暮らしを後世に伝え、自然の恵みと脅威を学びつつ、それらを活用しながら復興する。				目標設定の考え方・根拠	<ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災からの復興の基本方針(平成23年7月29日 東日本大震災復興対策本部決定) ・「復興・創生期間」における東日本大震災からの復興の基本方針(平成28年3月11日閣議決定) ・三陸復興国立公園の創設を核としたグリーン復興のビジョン(平成24年5月7日 環境省) ・生物多様性国家戦略2012-2020(平成24年9月28日閣議決定) ・自然公園法 		政策評価実施予定時期	令和5年8月				
測定指標	基準値		目標値		年度ごとの目標値 年度ごとの実績値							測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠	
	基準年度	目標年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度				
1 三陸復興国立公園(平成24年度までは陸中海岸国立公園)の利用者数(千人)	458	H23年度	6,994	R3年度	-	-	6,994	-					三陸復興国立公園の創設を始めとする様々な取組によって、当該公園を訪れる者が増加することは、観光拠点の復旧・復興が進んでいると考えられることから、測定指標として「三陸復興国立公園利用者数」を選定した。なお、目標値は、元々令和2年度が目標年度であったが、コロナ禍の事情を踏まえ、令和3年度目標として、利用者数を震災以前の水準(6,994千人以上)にすることとしている。
2 三陸復興国立公園内の利用拠点(集団施設地区)の年間利用者数(千人)	2,975	H17~H21年度	2,975	R3年度	-	-	-	-					被災した既存施設の復旧や観光地の再生に資する復興を図るため、三陸復興国立公園内の利用拠点(集団施設地区)での震災前5年間の平均年間利用者数(2,975千人)を目標値として評価する。なお、同目標値は、元々令和2年度が目標年度であったが、コロナ禍の事情を踏まえ、令和3年度目標として、再度設定する。
3 みちのく潮風トレイル踏破認定証の発行数(人)					-	-	-	-					被災地を南北に繋ぎ交流を深めるため、総延長約1,000kmの長距離自然歩道「みちのく潮風トレイル」(以下「トレイル」)の路線設定を進めており、トレイルを歩く者が増えることは、地域内外の交流を生み、地域の活性化にも資すると考えられる。歩くものの増減傾向を把握する測定指標として、トレイルの踏破者の申し出に対し、一部市町村が構成する協議会が実施している「踏破認定制度」における認定証の年間発行数を指標とした。 平成30年までは踏破認定の対象が一部の区間のみであったが、令和元年度の全線開通に伴い、全線踏破を対象とした新たな踏破認定制度を創設した。
4 イノシシの出現頻度を前年度実績値以上とする。	イノシシ等を安全かつ効率的に捕獲し、被害軽減に寄与する生息状況を目指す。		-		帰還困難区域内等においてイノシシ等の野生鳥獣を捕獲することにより鳥獣等の被害を軽減することは、帰還後の住民の生活環境を整備することに直結し、東日本大震災からの復興に寄与するため、自動撮影カメラによるイノシシの出現頻度を測定指標とする。								

達成手段 (開始年度)	予算額計(執行額) (百万円)			当初予算額 (百万円)	関連する 指標	達成手段の概要等	行政事業レビュー 事業番号
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度			
三陸復興国立公園再編成 等推進事業 (平成23年度)(再掲)	-	-	-	-	1,3	<p><達成手段の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然公園の再編成による三陸復興国立公園の創設、長距離自然歩道(みちのく潮風トレイル)の路線設定、エコツアー等の公園利用プログラムの作成、自然環境変化状況の把握のための基礎調査等の具体的な取組を実施した。 ・平成26年度に三陸復興国立公園に南三陸金華山国定公園を編入、平成31年度にみちのく潮風トレイルの全路線を開通した。 <p><達成手段の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・三陸復興国立公園の利用者数を震災以前の水準に回復することを目標とする。 <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・国立公園を再編成することで、自然環境を活かして公園利用者数を回復し、復興していく基盤とする。また、みちのく潮風トレイルを設定することで、公園利用者を増やし、地域観光の活性化を図る。 	-
放射線による自然生態系 への影響調査費 (平成25年度)(再掲)	-	-	-	-	-	<p><達成手段の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京電力福島第一原子力発電所の事故により放出された放射線による自然生態系への影響を把握するため、野生動植物への放射線の影響を調査するとともに、関係機関や専門家と連携しながら情報収集に努めている。 <p><達成手段の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標の設定無し <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標は設定していないが、放射線による自然生態系への影響把握・野生動植物への放射線影響に関する調査、関係機関等との連携や情報収集を実施することにより、放射線による自然生態系への影響を把握することができる。 	-
三陸復興国立公園等復興 事業 (平成24年度)	1,118 (1,046)	248 (236)	156 (151)	-	2	<p><達成手段の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全・安心の観点から津波対策等の防災機能を強化しつつ、国立公園の集団施設地区、歩道等及び東北太平洋岸自然歩道の利用拠点等において、被災した既存利用施設の復旧整備や、観光地の再生に資する復興のための整備を行う。 ・三陸復興国立公園(平成25年度指定)における利用の回復・増進を図る。 <p><達成手段の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・三陸復興国立公園内の利用拠点での震災前5年間の平均年間利用者数を目標とする。 <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該事業を通じて、国立公園事業施設の復旧・復興を図ることで、国立公園の利用の回復・増進を見込んでいる。 	0134
帰還困難区域内等におけ る鳥獣捕獲等緊急対策事 業 (平成25年度)	416 (398)	418 (411)	414 (402)	411	4	<p><達成手段の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰還困難区域内等において、イノシシ等野生鳥獣の捕獲等を実施する。 ・イノシシ等野生鳥獣による農業被害や生活環境被害等の軽減を図ることによって、住民の帰還に向けた環境整備の円滑な実施が見込まれる。 <p><達成手段の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・イノシシ等を安全かつ効率的に捕獲し、被害軽減に寄与する生息状況を目指す。 <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰還困難区域内等のイノシシ等野生鳥獣の生息状況を把握し、効率的かつ安全な方法で捕獲等を実施することにより、個体数の削減と被害の軽減を図る。 	0152
施策の予算額・執行額	1,534 (1,444)	666 (647)	570 (553)	411	施策に関係する内閣の重要政策 (施政方針演説等のうち主なもの)	-	

令和4年度実施施策に係る政策評価の事前分析表

(環境省R4-26)

別紙1

施策名	目標5-7 国際観光資源の整備				担当部局名	自然環境局 総務課 国立公園課 国立公園利用推進室 自然環境整備課 野生生物課		作成責任者名 (※記入は任意)	細川真宏(総務課長) 則久雅司(国立公園課長) 岡野隆宏(国立公園利用推進室長) 萩原辰男(自然環境整備課長) 中澤圭一(野生生物課長)				
施策の概要	美しい国立公園等の自然を持続的に活用し観光資源の整備等により国内外の旅行者の地域での体験や滞在の満足度の向上を図るとともに、地域の経済社会を活性化させ、自然環境への保全へ再投資される好循環を生み出す。				政策体系上の位置付け	5. 生物多様性の保全と自然との共生の推進							
達成すべき目標	2025年までに国内外の国立公園利用者数を新型コロナウイルスの影響前に回復させ、平成28年3月に策定された「明日の日本を支える観光ビジョン」に掲げる2030年訪日外国人旅行者数6,000万人等の目標と「観光先進国」の実現に貢献するとともに、国立公園の保護と利用の好循環を実現する。				目標設定の考え方・根拠	・明日の日本を支える観光ビジョン ・国際観光旅客税の用途に関する基本方針等について(観光立国推進関係会議決定) ・自然公園法		政策評価実施予定時期	令和5年8月				
測定指標	基準値		目標値		年度ごとの目標値							測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠	
	基準年度	目標年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度				
1 国立公園訪日外国人利用者数	490万人	H27年度	667万人	R7年度	-	設定不能	設定不能	設定不能					・政府の「明日の日本を支える観光ビジョン」に基づき実施している「国立公園満喫プロジェクト」において、新型コロナウイルス感染拡大を踏まえ国内外利用者をコロナ影響前の水準に回復することを新たな目標として設定しているため。なお、新型コロナウイルスの影響により外国人観光客の入国について現時点で見通せず、現時点で今年度の目標値は設定不能。
2 滞在環境の上質化に取り組んだ国立公園の利用拠点数	-	-	9拠点	R4年度	5拠点	10拠点	14拠点	9拠点					・利用拠点計画に基づき、滞在環境の上質化に向けて、民間活力導入を前提とした廃屋撤去、インバウンド機能向上、文化的まちなみ改善の事業を実施することにより、国立公園利用者の体験滞滞の満足度向上やリピーター増加に繋がることから、目標値として設定した。
3 利用施設の多言語化	-	-	20施設	R5年度	24施設	40施設	40施設	20施設					・国立公園・国定公園等の自然体験拠点における案内板や、ビジターセンター等の施設を中心として、スマホアプリ、QRコード等のICTを駆使し、現地の自然・文化・歴史が分かる奥深い多言語解説を面的に充実させる目標を定めたもの。
4 ビジターセンター等機能強化	-	-	60施設	R4年度	32施設	60施設	60施設	60施設					・国立公園の利用拠点であるビジターセンター等の情報提供機能を強化することにより、体験滞滞の満足度向上やリピーターの増加等につながるため、機能強化の実施施設数を目標として定める。 ・自然を満喫できるアクティビティ等の情報を一元的に多言語で提供する機器等の整備、VR等のデジタル技術を活用した国立公園の理解を深める情報提供施設等の整備のいずれかを実施した場合には、1施設としてカウントする。
5 国立公園一括情報サイトの訪問回数等(接触媒体者数)	-	-	180万	R4年度	-	180万	180万	180万					・訪日外国人に対して、効果的・効率的な国立公園の情報発信を行うため、JNTOグローバルサイト内に国立公園の一括情報サイトを構築(H31.2)し、当該サイトを通じて情報発信を行うとともに、各種海外メディア等により国立公園の認知向上に寄与する記事配信等を行っており、これらの情報発信に対するユーザーの閲覧状況を計る目標を定めたもの。
6 野生動物観光促進事業の実施者数	-	-	10者	R2年度	10者	10者	-	-	-	-	-	-	・特色ある日本の野生動物を活用した観光についてプロモーションの強化やコンテンツの開発・改善をすることにより、訪日旅行者の地域における体験滞滞の満足度向上等につながるため、これらに取り組む野生動物観光促進事業の実施者数を目標として定める。
7 一般公開に向けた改善に取り組んだ野生生物保護センター数	-	-	3施設	R2年度	1施設	3施設	-	-	-	-	-	-	・希少種保全及び普及啓発の拠点であり、観光資源としてのポテンシャルが高い野生生物保護センターの情報提供機能を強化することにより、来訪者の満足度向上やリピーターの増加等につなげるため、展示施設の改修等の一般公開に向けた改善に取り組んだ野生生物保護センター数を目標として定める。
8 国立公園等の自然を活用した滞在型コンテンツ創出事業により作成等されたコンテンツ件数	-	-	-	-	-	-	44件	-					日本の国立公園等ならではの魅力ある自然・文化・歴史を楽しめる、ストーリーを踏まえたコンテンツ作成やコンテンツを提供できる体制等が整備されることにより、滞在の満足度向上やリピーターの増加等につながるため、作成等されたコンテンツ件数を目標として定める。

達成手段 (開始年度)	予算額計(執行額) (百万円)			当初予算額 (百万円)	関連する 指標	達成手段の概要等	行政事業レビュー 事業番号
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度			
(1) 国立公園利用拠点滞在環境等上質化事業 (令和元年度)	469 (431)	2,360 (1,883)	2,000	1,670	1.2	<p><達成手段の概要> 利用拠点の関係者で作成する利用拠点計画に基づき、滞在環境の上質化に向けて、民間活力導入を前提とした廃屋撤去、インバウンド機能向上、文化的まちなみ改善等の事業を関係者の役割分担のもとで一体的に実施すること等により、訪日外国人をはじめとする国立公園利用者の体験滞在の満足度向上やリピーター増加につなげる。</p> <p><達成手段の目標> 滞在環境の上質化に取り組んだ国立公園の利用拠点数を目標として定める。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 本事業により国立公園利用拠点の滞在環境の上質化を進め、R3年度の目標は達成した。R4年度については、事業規模を踏まえた目標を設定し取組を進める</p>	0256
(2) 国立公園等多言語解説等整備事業((旧)国立公園多言語解説等整備事業) (平成30年度)	637 (334)	828 (609)	998 (965)	140	1.3	<p><達成手段の概要> 国立公園・国定公園等の自然体験拠点における案内板や、ビジターセンターやその周辺の園地・歩道を中心に自然資源等の解説の多言語化対応を一体的に行うエリアにおいて、官民連携の地域協議会等で磨き上げたコンテンツ等も含め、ICT技術を活用した多様な媒体による多言語解説等整備や、WEBサイト、サイネージ、セルフガイドアプリ等による総合的な魅力発信の取り組みを有機的に繋げて進めること、より効果的に訪日外国人にとって魅力ある地域づくりを進める。</p> <p><達成手段の目標> 多言語化した利用施設数を目標として定める。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 本事業により国立公園等における利用施設の多言語化を進め、R3年度の目標は達成した。R4年度についても、R3年度までと同程度の目標で取組を進める。</p>	0257
(3) 野生動物観光促進事業 (令和元年度)	272 (71)	415 (372)	0	0	1	<p><達成手段の概要> 地域での訪日外国人の体験滞在の満足度を向上させるため、野生動物を観察するためのルール作りやツアーのインバウンド対応の充実、また、傷病個体を収容している野生動物保護センターの一般公開等の取組を推進し、野生動物を観察するツアーの充実を図っていく。</p> <p><達成手段の目標> 2020年までに、海外メディアや訪日外国人旅行者がSNSで発信する日本の野生動物観光に関する情報を50件とする。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 当該事業では、種の保存法に係る希少野生動物植物種の保護増殖事業にも資するツアーコンテンツの造成など、野生動物観光を促進する優良なコンテンツ造成できている。一方で、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえれば目標達成への評価は難しいと史料。</p>	0258
(4) 国立公園利用促進事業 (令和元年度)	524 (453)	639 (534)	170	117	1.4	<p><達成手段の概要> 国立公園のビジターセンターにおいて、アクティビティ等の情報を多言語で提供する機器及び最新のデジタル技術を活用した疑似体験プログラム等の導入を行う。</p> <p><達成手段の目標> 自然を満喫できるアクティビティ等の情報を一元的に多言語で提供する機器等の整備、VR等のデジタル技術を活用した国立公園の理解を深める情報提供施設等の整備件数を目標として定める。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 国立公園の利用拠点であるビジターセンター等の情報提供機能を強化することにより、国立公園の自然の魅力やアクティビティ情報等が訪日外国人等に分かりやすく伝わり、滞在時間の延長や満足度の向上、リピーターの増加等につながる。</p>	0259
(5) 国立公園利活用促進円滑化事業 (令和元年度)	440 (393)	110 (110)	410 (409)	160	1.5	<p><達成手段の概要> 関係省庁等との連携の下、JNTOグローバルサイト内に構築した国立公園サイトのコンテンツを拡充するとともに、このサイトを活用したデジタルマーケティング等を通して、戦略的に日本の国立公園の魅力を海外に情報発信する。</p> <p><達成手段の目標> 国立公園一括情報サイトを中心とした情報発信等により国立公園の認知向上・誘客促進につなげる。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 国立公園一括情報サイトを中心としたデジタルマーケティング等を通して、戦略的なプロモーションノ実施に寄与する。</p>	0260
(6) 京都御苑訪日外国人観光促進事業(令和2年度)	-	55 (55)	0		1	<p><達成手段の概要> 京都御苑における外国人利用者の満足度の向上、訪日外国人の誘客や滞在時間の増加へ寄与するため、ICTを活用した苑内各所にある歴史的遺構の解説、茶室など由緒ある建築物のリノベーションや体験型アクティビティや庭園ガイドの整備、広大な苑内において容易に情報入手を可能とするためのデジタルサイネージの整備等の取組を進める。</p> <p><達成手段の目標> 訪日外国人利用者数を目標として定める。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 令和2年度中に主たる調査設計は終了したもの、有識者との調整に不測の日数を要したなどにより、令和3年度に繰越し整備することとなった。そのため、目標達成への評価は難しいと史料。</p>	0268

(7)	国立公園等の自然を活用した滞在型観光コンテンツ創出事業(令和3年度)	-	-	1,480	99	1,8	<p><達成手段の概要> 日本の国立公園等は、自然景観だけではなく、その自然の恵みを活かした地域独自の暮らしや文化・歴史も重要な魅力の一つで、外国人利用者に対して提供できるコンテンツの磨き上げや、地域のテーマやストーリーも踏まえた複数のコンテンツを効果的に利用者への提供、また、地域においてはコンテンツを提供できる体制・人材育成・計画作り・環境整備等が必要であり、今回は計画作りそれらの取組を実施する。</p> <p><達成手段の目標> 取り組んだ計画作りの件数を目標として定める。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 当事業を実施することにより、訪日外国人利用者数の増加に寄与する。</p>	0283
(8)	新宿御苑における訪日外国人に向けたワーケーション対応等事業(令和3年度)	-	-	294		1,4	<p><達成手段の概要> 新宿御苑の既存の休憩施設(中央休憩所等)を改修し、訪日外国人をはじめとした来園者のビジネスユース需要に対応するための全天候対応型コワーキングスペースを設置する。また、新宿御苑に訪れる訪日外国人に対し、国立公園等の滞在型コンテンツやエコツアーリズム等の他、環境施策をPRする最新のデジタルコンテンツを整備し情報発信するとともに、日本の各地域への来訪意欲を促進する。</p> <p><達成手段の目標> 訪日外国人利用者数を目標として定める。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 当事業を実施することにより、訪日外国人利用者数の増加に寄与する。</p>	0284
(9)	京都御苑魅力向上資源アーカイブ事業(令和3年度)	-	-	20	15	1	<p><達成手段の概要> 京都御苑における外国人利用者の満足度の向上、訪日外国人の誘客や滞在時間の増加へ寄与するため、京都御苑の歴史や関連文化・自然などに関するアーカイブを構築する。関連する組織や機関と連携・運営体制を構築しながら、アーカイブデータのデジタル化を図り、アーカイブを活用した体験型アクティビティやガイドの整備・充実等の取組を進める。</p> <p><達成手段の目標> 訪日外国人利用者数を目標として定める。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 当事業を実施することにより、訪日外国人利用者数の増加に寄与する。</p>	0282
(10)	国立・国定公園への誘客の推進事業費及び国立・国定公園、温泉地でのワーケーションの推進事業	-	2,200 (1,813)	126 (79)	-	1	<p><達成手段の概要> 国立・国定公園及び国民保養温泉地における誘客やワーケーションの推進の支援及びプロモーションを通じて、新型コロナウイルスの流行の収束までの間の地域の雇用の維持・確保及び国立公園等への誘客等に資することで、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けている地域経済の再活性化を図る。</p> <p><達成手段の目標> 誘客やワーケーションの推進への支援件数を目標として定める。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 地域の雇用の維持・確保及び国立公園等への誘客等に資することで、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けている地域経済の再活性化に寄与する。</p>	0242
(11)	国立公園、温泉地等での滞在型ツアー・ワーケーション推進事業	-	2,993 (0)	2,993 (1,923)	-	1	<p><達成手段の概要> 国立公園及び国民保養温泉地における誘客やワーケーションの推進の支援及びプロモーションを通じて、新型コロナウイルスの流行の収束までの間の地域の雇用の維持・確保及び国立公園等への誘客等に資することで、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けている地域経済の再活性化を図る。</p> <p><達成手段の目標> 誘客やワーケーションの推進への支援件数を目標として定める。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 地域の雇用の維持・確保及び国立公園への誘客等に資することで、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けている地域経済の再活性化に寄与する。</p>	0242
(12)	国立・国定公園の利用拠点の魅力創造による地域復興推進事業	-	-	799	-	1	<p><達成手段の概要> 国立公園等の利用拠点でのコロナ対応やワーケーション受入等のための環境整備と自然体験の推進等によりライフスタイル変革と地域活性化を図る。</p> <p><達成手段の目標> 訪日外国人の国立公園利用者数を目標として定める。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 国立・国定公園で「遊び、働く」という健康でサステナブルなライフスタイルを推進し、地方創生に貢献し、利用拠点においてコロナ対応等の環境整備、自然体験プログラムの推進や魅力発信の取組を支援することで、新型コロナウイルス感染症拡大により減退した公園利用の反転攻勢と地域経済の再活性化に寄与する。</p>	0246
施策の予算額・執行額		2,342 (1,682)	7,382 (6,380)	4,962	-		施策に関する内閣の重要政策(施政方針演説等のうち主なもの)	-

令和4年度実施施策に係る政策評価の事前分析表

別紙1

(環境省R4-27)

施策名	目標6-1 環境リスクの評価				担当部局名	環境保健部 環境安全課 環境リスク評価室	作成責任者名 (※記入は任意)	高澤哲也(環境安全課長) 清水 貴也(環境リスク評価室長)				
施策の概要	化学物質による人の健康や生態系に対する環境リスクを体系的に評価する。				政策体系上の位置付け	6. 化学物質対策の推進						
達成すべき目標	①一般環境中の化学物質の残留状況を調査し、基礎資料として施策の策定に活用する。 ②化学物質の環境リスク初期評価調査を実施し、環境を経由した化学物質による影響の未然防止を図る。 ③化学物質の内分泌系かく乱作用について調査研究を実施し、各化学物質が人の健康や生態系に及ぼす影響について明らかにし、リスク評価を実施する。 ④子どもの健康と環境に関する全国調査を実施し、次世代育成に係る健やかな環境の実現を図る。				目標設定の考え方・根拠	・化学物質環境実態調査のあり方に関する検討会報告書 ・中央環境審議会環境保健部会化学物質評価専門委員会 ・化学物質の内分泌系かく乱作用に関する検討会 ・子どもの健康と環境に関する全国調査基本計画		政策評価実施予定時期	令和5年8月			
測定指標	基準	目標値		年度ごとの目標値 年度ごとの実績値							測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠	
		基準年度	目標年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		
1 化学物質環境実態調査を行った物質・媒体数	-	-	80	R4年度	80	80	80	80	-	-	-	化学物質対策に係る関係課室から一般環境中における残留状況を把握するために調査要望のあった化学物質のうち、優先度の高いものを調査対象物質として毎年度選定することが、「化学物質環境実態調査のあり方について」により定められている。目標値は、過去の実績値を勘案し、調査が着実に進められているとみなせる水準で設定した。
2 環境リスク初期評価実施物質数	-	-	12	R4年度	14	14	14	12	-	-	-	環境初期リスク評価の実施状況の測定指標として、評価実物質数を選定する。目標値は、過去の実績及び情報の収集・検討状況を踏まえて設定した。
3 内分泌かく乱作用に関して、文献等を踏まえ評価対象として選定した物質数(累積)	132	H27年度	230	R4年度	180	200	220	230	-	-	-	化学物質の内分泌かく乱作用については、文献調査等を踏まえた評価対象物質の選定数について、平成28年6月に「化学物質の内分泌かく乱作用に関する今後の対応—EXTEND2016—」(EXTEND2016)で想定したレベルを実施することとしていたが、評価を高精度化する必要があるため、選定する物質数は減少させた。
4 子どもの健康と環境に関する全国調査の進捗状況	-	-	全国10万組のデータ解析を行い、健康と環境の関連性を明らかにする。	R14年度	参加者に調査を継続いただくための取組及び化学分析の進捗 参加者追跡率(95%) 事業成果の情報発信及びフタル酸エステル代謝物等の化学分析の実施	参加者に調査を継続いただくための取組及び化学分析の進捗 参加者追跡率(95%) 事業成果の情報発信及び残留性有機汚染物質等の化学分析の実施	参加者に調査を継続いただくための取組及び化学分析の進捗 参加者追跡率(94%) 事業成果の情報発信及びピレスロイド系農薬代謝物等の化学分析の実施	-	-	-	-	次世代育成に係る健やかな環境の実現を図るためには調査を着実に進めることが必要であり、その進捗状況を測定指標としている。また、調査の推進には「参加者のデータの解析を行うことで、健康と環境の関連性を明らかにする」ためには、解析に係るデータの蓄積と化学物質の分析が必須であるため、施策の進捗状況として参加者に調査を継続いただくための取組と化学分析の進捗を確認していくこととしている。

達成手段 (開始年度)	予算額計(執行額) (百万円)			当初予算額 (百万円)	関連する 指標	達成手段の概要等	行政事業レビュー 事業番号
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度			
(1) 化学物質環境実態調査費 (昭和49年度)	368 (341)	373 (301)	375 (287)	359	1	<p><達成手段の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・一般環境中の化学物質による残留状況を把握し、各種化学物質関連施策に活用するため、関係課室からの要望物質について全国規模の調査を実施する。 <p><達成手段の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・80調査物質・媒体数の分析を実施し公表する。 <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央環境審議会環境保健部会化学物質評価専門委員会の議論も踏まえ、着実に一般環境中の化学物質の残留状況調査を実施する。 	0295
(2) 化学物質環境リスク初期 評価推進費(平成9年度)	83 (79)	83 (80)	84 (83)	84	2	<p>令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)</p>	0247
(3) 環境汚染等健康影響基礎 調査費 ※ 平成28年度ま では化学物質の内分秘か く乱作用に関する事業に係 る額を記載	226 (196)	226 (204)	223 (211)	219	3	<p><達成手段の概要></p> <ul style="list-style-type: none"> ・化学物質の複合影響等についての知見の収集・分析を行うとともに、化学物質が及ぼす健康影響についての評価方法及びメカニズム解明方法等についての検討を行う。 ・化学物質の内分秘かく乱作用に関する評価等推進するため、必要な調査研究や試験法の開発、試験等を実施する。 <p><達成手段の目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・化学物質の複合影響等及について評価検討を行う。 ・必要な調査研究や試験法の開発等の進展。 <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・化学物質が及ぼす健康影響についての評価、メカニズム解明。 ・各化学物質の内分秘かく乱作用を評価するための手法等を確立する。 	0294
(4) 子どもの健康と環境に関す る全国調査(エコチル調 査) (平成22年度)	6,421 (6,396)	6,135 (6,049)	6,178 (6,139)	5,579	4	<p>令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)</p>	0293
施策の予算額・執行額	7,098 (7,012)	6,817 (6,634)	6,860 (6,720)	6,241	施策に関係する内閣の重要政策 (施政方針演説等のうち主なもの)	—	

令和4年度実施施策に係る政策評価の事前分析表

(環境省R4-28)

別紙1

施策名	目標6-2 環境リスクの管理				担当部局名	環境保健部 環境安全課 環境リスク評価室 化学物質審査室	作成責任者名 (※記入は任意)	高澤哲也(環境安全課長) 清水 貴也(環境リスク評価室長) 久保善哉(化学物質審査室長)			
施策の概要	化学物質審査規制法(以下「化審法」という。)に基づく化学物質のリスク評価を着実に進めるとともに、化学物質排出把握管理促進法(以下「化管法」という。)に基づき、PRTRデータを円滑に集計・公表し、活用することにより、環境リスクを管理し、人の健康の保護及び生態系の保全を図る。また、環境から人体に取り込まれて健康に影響を及ぼす可能性のある化学物質については、血液・尿のモニタリングにより、人体へのばく露量を継続的に把握する。さらに、化学物質の環境リスクに係る国民の理解を深める。				政策体系上の位置付け	6. 化学物質対策の推進					
達成すべき目標	①化審法に基づき、段階的なリスク評価を実施し、化学物質のリスク管理の推進を図る。 ②有害性評価が困難な物質の評価方法の検討を進める。 ③化管法のPRTR制度に基づき、事業者による自主的な化学物質管理を促進するとともに、 ④対象物質の排出状況等に関する国民の理解を深める。 ⑤人の血液・尿のモニタリングにより、日本人の体内中の化学物質の蓄積状況を継続的に把握し、環境リスク評価、化学物質管理のための基礎情報を得る。				目標設定の考え方・根拠	化審法、化審法の一部を改正する法律案に対する附帯決議、化管法、化管法に基づくPRTR制度	政策評価実施予定時期	令和5年8月			
測定指標	基準値	目標値	年度ごとの目標値 年度ごとの実績値							測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠	
	基準年度	目標年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		
1 化審法に基づくスクリーニング評価において生態毒性に関する有害性クラスを付与したまたは見直した物質数	-	H23年度	-	-	-	-	-	-	-	化審法においては、スクリーニング評価を行い、優先評価化学物質を指定した上で、段階的にリスク評価を行う体系となっている。スクリーニング評価の対象となる一般化学物質のうち、全国合計排出量10t超の物質について、生態毒性に関する有害性評価を着実に実施していくものであることから、有害性クラス付与または見直し物質数を指標に選定した。対象物質は毎年度の排出量に応じて変動するものであるため、目標の設定は困難。	
2 有害性評価困難な化学物質の試験法の開発を実施及び国際機関に対する試験法標準化のためのデータ提供	試験法の調査・検討	H25年度	各国意見を踏まえた試験法の見直し	R4年度	試験法案の検証・OECDへの提案準備	標準化のためのデータ提供	SPSF案の提出	各国意見を踏まえた試験法の見直し	-	-	化審法のリスク評価を加速化するため、既存の試験法では対応できない有害性評価が困難な物質(難水溶性等)について、新たな試験法の開発が必要である。今年度は、国際機関に対する試験法標準化のため、昨年度提出したSPSF案に対する各国意見を踏まえた試験法の見直しを行うことを目標として設定した。
3 PRTR対象物質の環境への総届出排出量・移動量(トン)の把握	-	-	-	-	-	-	-	-	-	化管法に基づくPRTR制度において、事業者による化学物質の自主的な管理の改善の促進の結果として、把握した対象化学物質(第一種指定化学物質)の総届出排出量・移動量を指標として設定した。当該指標は毎年度の事業者からの届出データであり、社会的情勢の影響を受けうため目標の設定は困難。	
4 化学物質アドバイザーの派遣数	過去3年間の実績の中で最も多い派遣実績以上とする	-	過去3年間の実績の中で最も多い派遣実績以上とする(16以上)	-	23以上	20以上	20以上	16以上	-	-	PRTRデータ等を活用したより一層のリスクコミュニケーションの推進を図る観点から、化学物質アドバイザーの派遣数を測定指標として設定した。派遣実績を過去3年間の実績の中で最も多い派遣実績以上とすることを目標として設定した。
5 化学物質の人へのばく露量モニタリング調査で得られた生体試料の化学物質分析データ数	-	-	3000	R4年度	3000	3000	3000	3000	-	-	化学物質の日本人のばく露状況を継続的に把握し、環境リスク評価及び化学物質管理のための基礎情報を得ることが目標であることから、化学物質の人へのばく露量モニタリング調査で得られた生体試料の化学物質分析データ数を測定指標として設定した。
					384,054	353,725					
					23以上	20以上	20以上	16以上	-	-	
					16	10	10				
					3000	3000	3000	3000			
					4678	4800	6494				

達成手段 (開始年度)	予算額計(執行額) (百万円)			当初予算額 (百万円)	関連する 指標	達成手段の概要等	行政事業レビュー 事業番号
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度			
(1) 化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律施行経費(平成16年度)	329 (316)	315 (315)	324 (319)	334	1	<p><達成手段の概要> 事業者から提出された製造・輸入数量や毒性試験データ等の資料に加え、届出物質・類似物質等に係る国内外の知見や生態影響に係る専門家の意見を踏まえて分析し、必要な資料を取りまとめて化審法に基づくスクリーニング評価及びリスク評価を厚生労働省(人への毒性)及び経済産業省(製造・輸入数量)と共同で実施する。</p> <p><達成手段の目標> 全ての一般化学物質等を対象に、化審法に基づくスクリーニング評価及びリスク評価を実施する。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 化審法に基づくスクリーニング評価の作業により、化学物質の有害性クラスが付与される。</p>	0249
(2) 化学物質緊急安全点検調査費(平成25年度)	248 (227)	279 (171)	284 (225)	215	2	<p><達成手段の概要> 既存の試験法では有害性評価が困難な物質(難水溶性等)について試験法の検討・開発等により、化審法に基づくスクリーニング評価・リスク評価を加速化する。</p> <p><達成手段の目標> 有害性評価が困難な物質の生態毒性試験法や評価手法等の検討を進める。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 本事業により開発された試験法や評価手法等を用い、化審法のリスク評価を加速化するとともに、国際機関に対して試験法の標準化のためのデータを提供する。</p>	0250
(3) PRTR制度運用・データ活用事業(平成11年度)	192 (172)	249 (190)	254 (223)	234	3,4	<p><達成手段の概要> 化管法第5条に基づき事業者から届け出られるPRTRデータの円滑な集計・公表を行い、環境リスクの理解に有用な情報を提供するほか、PRTRデータを環境リスクの管理やリスクコミュニケーションなどに幅広く活用する。</p> <p><達成手段の目標> PRTRデータの集計・公表を着実に実施し、環境保全上の支障のさらなる未然防止に向けた検討を進める。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 化管法の見直しの答申(令和元年6月答申)を踏まえた対応を適切に実施する。とくに災害時も含めたPRTRデータの活用を地方公共団体に促すため、PRTRデータの活用に係る好事例の発信、PRTRデータの活用に向けた取組を実施する。また、国民、行政、事業者のリスクコミュニケーションを促進する手段として、化学物質アドバイザー制度の活用に向けた同制度の充実を図る。</p>	0248
(4) 化学物質の人へのばく露総合調査事業費(平成10年度)	95 (83)	96 (96)	96 (95)	96	5	<p>令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)</p>	0296
施策の予算額・執行額	864 (798)	939 (772)	958	879	施策に関する内閣の重要政策(施政方針演説等のうち主なもの)	-	

令和4年度実施施策に係る政策評価の事前分析表

別紙1

(環境省R4-29)

施策名	目標6-3 国際協調による取組				担当部局名	環境保健部 環境安全課 環境保健企画管理課 水銀対策推進室	作成責任者名 (※記入は任意)	高澤哲也(環境安全課長) 吉崎仁志(水銀対策推進室長)				
施策の概要	化学物質関係の各条約(POP条約(残留性有機汚染物質に関するストックホルム条約)、水銀に関する水俣条約)に関連する国内施策を推進するとともに、OECD、UNEP等の国際機関との連携及び諸外国との国際協力を図り、化学物質による地球規模の環境汚染を防止する。				政策体系上の位置付け	6. 化学物質対策の推進						
達成すべき目標	化学物質関連条約に関する施策を推進するとともに、OECD、UNEP等の国際機関との連携を図り、化学物質による環境リスクを低減させる。また、我が国の汚染状況をモニタリングするとともに、東アジア地域を対象とした化学物質対策に係る国際協力により、有害化学物質による地球規模の環境汚染を防止する。				目標設定の考え方・根拠	POP条約(残留性有機汚染物質に関するストックホルム条約)、水銀に関する水俣条約等の化学物質関係の各条約	政策評価実施予定時期	令和5年8月				
測定指標	基準値		目標値		年度ごとの目標値 年度ごとの実績値							
	基準年度	目標年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度			
1 POP条約に基づく化学物質モニタリングの進捗度(一般環境中の測定を行っているPOP条約対象及び候補物質群数)	-	-	11物質	R4年度	16	13	11	11	-	-	-	・POP条約対象物質及び候補物質について、「化学物質環境実態調査のあり方について」(平成22年3月)の調査対象物質選定要件に基づき設定した。
2 途上国等の水銀対策に係るプロジェクトを形成・支援した数(累積)	0	H27年度	-	-	8	-	-	-	-	-	-	・水銀による環境リスクの低減のため、世界の水銀対策を推進するという施策目的を踏まえ、途上国側のニーズを踏まえて我が国の技術・知見が活用されたプロジェクトへの貢献で評価するもの。 ・平成26~28年度までに調査を実施した10ヶ国においてプロジェクトを形成・支援することを想定。1つのプロジェクトの形成に2年要すると仮定し、目標年度を設定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響から海外渡航ができず、案件形成が難しい状態であるため、R2年度から目標値を空欄としている。
3 GHSに基づく環境有害危険性分類を実施した分類物質数(再分類を含む)	177物質	H28年度	180物質	-	-	-	180	160	-	-	-	・化審法、化管法等においてリスクが懸念される物質について、GHS(Globally Harmonized System of Classification and Labelling of Chemicals: 化学品の分類および表示に関する世界調和システム)に基づく環境危険有害性の分類を着実に実施していくため、毎年度の分類物質数によってその進捗状況を把握する。特に、有害性情報の更新を踏まえた昨今の再分類の実施状況に鑑み、平成28年度から「再分類を含めた分類物質数」を新たな測定指標として設定している。なお、R4年度は民間情報受付の試行を行うため、分類により精査が必要と考えられることから、目標値を160物質に設定した。
達成手段 (開始年度)	予算額計(執行額) (百万円)				当初予算額 (百万円)	関連する 指標	達成手段の概要等	行政事業レビュー 事業番号				
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度								
(1) POP(残留性有機汚染物質)条約対応関係事業(平成13年度)	223 (215)	229 (189)	239 (213)	238	1	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0252					
(2) 国際分担金等経費(平成10年度)	-	-	-	-	1,2,3	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0251					
(3) 化学物質国際対応政策強化事業費(平成21年度)	-	-	-	-	3	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0253					
(4) 水銀に関する水俣条約実施推進事業(平成20年度)	-	-	-	-	2	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0254					
施策の予算額・執行額	769 (750)	778 (709)	713 (664)	719	施策に係る内閣の重要政策 (施政方針演説等のうち主なもの)	-						

令和4年度実施施策に係る政策評価の事前分析表

別紙1

(環境省R4-30)

施策名	目標6-4 国内における毒ガス弾等対策				担当部局名	環境保健部 環境安全課 環境リスク評価室	作成責任者名 (※記入は任意)	高澤哲也(環境安全課長) 清水 貴也(環境リスク評価室長)		
施策の概要	平成15年の閣議決定等に基づき、国内における毒ガス弾等による被害の未然防止を図る。				政策体系上の位置付け	6. 化学物質対策の推進				
達成すべき目標	平成15年の閣議決定等に基づき、国内における毒ガス弾等による被害の未然防止を図る。				目標設定の考え方・根拠	「茨城県神栖町における有機ヒ素化合物汚染等への緊急対応策について」(平成15年6月6日閣議了解) 「国内における毒ガス弾等に関する今後の対応方針について」(平成15年12月16日閣議決定)	政策評価実施予定時期	令和5年8月		
測定指標	基準	目標	施策の進捗状況(目標)							測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠
			施策の進捗状況(実績)							
			R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
1 A事案区域等における環境調査等件数	-	-	8	7	9	-				旧軍毒ガス弾等対策の実施状況を示す指標として設定。 地権者からの要望に基づいて実施するものであるため、目標値の設定は困難。
2 医療手帳交付件数(茨城県神栖市における緊急措置事業)	-	-	145	144	144	-				健康被害者対策の実施状況を示す指標として設定。 ジフェニルアルシン酸(DPAA)に暴露したと認められる住民に対して、継続的に支援を実施するものであり、目標値の設定は困難。
達成手段 (開始年度)	予算額計(執行額) (百万円)				当初予算額 (百万円)	関連する 指標	達成手段の概要等			行政事業レビュー 事業番号
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度						
(1) 茨城県神栖市における有機ヒ素化合物汚染等への緊急対応策(平成15年度)	621 (463)	501 (367)	499 (345)	499		1, 2	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)			0255
施策の予算額・執行額	621 (463)	501 (367)	499 (345)	499		施策に関係する内閣の重要政策 (施政方針演説等のうち主なもの)	-			

令和4年度実施施策に係る政策評価の事前分析表

(環境省R4-31)

別紙1

施策名	目標7-1 公害健康被害対策(補償・予防)				担当部局名	環境保健部 環境保健企画管理課 保健業務室		黒羽真吾(保健業務室長)		
施策の概要	公害に係る健康被害について、公害健康被害の補償等に関する法律(以下「公健法」という。)に基づき認定患者への迅速かつ公正な補償給付等を実施するとともに、健康被害予防事業や地域人口集団に係る環境汚染による健康影響の継続的監視等を行うことで、迅速かつ公正な補償並びに被害の予防及び健康の確保を図る。				政策体系上の位置付け	7. 環境保健対策の推進				
達成すべき目標	公健法に基づく公正な補償給付を迅速に行う。公健法による健康被害予防事業、公害保健福祉事業、環境保健施策基礎調査を推進し、被害の未然防止及び健康の確保を図る。				目標設定の考え方・根拠	公害健康被害の補償等に関する法律		政策評価実施予定時期 令和5年8月		
測定指標	目標	目標年度	測定指標の選定理由及び目標(水準・目標年度)の設定の根拠							
1 公健法に基づく補償等の進捗状況	-	-	事業活動等に伴って生ずる著しい大気汚染等の影響により健康被害に係る損害を填補するための補償等を行うことにより、健康被害に係る被害者の迅速かつ公正な保護及び健康の確保に資する。							
測定指標	基準値	目標値	年度ごとの目標値 年度ごとの実績値							測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠
	基準年度	目標年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
2 公害健康被害予防事業の参加者に対して実施するアンケートにおける事業満足度(5段階評価のうち上位2段階までの評価を得た回答者の割合)(%)	-	-	80	-	80	80	80	80		公害健康被害予防事業については、毎年度の事業参加者アンケートの回答者のうち、80%以上のものから満足が得られること目標とし、これを達成することにより参加者のニーズに合った効果的な事業の実施に努める。
			91.0	89.8	88.1	-				
3 各地方公共団体が行うリハビリテーションに関する事業、転地療養に関する事業その他の事業(公害保健福祉事業)に参加した延べ人数の被認定者数に対する割合(%)	-	-	80	-	80	80				公害保健福祉事業については、毎年度、事業に参加した者の延べ人数の割合が被認定者数の80%を超えるような事業を実施することにより、被認定者の健康の回復・保持・増進に努める。
			81.9	64.1	67.5					
4 環境保健サーベイランス調査の着実な実施(調査対象者数及び調査対象者の同意率(3歳児調査))	-	-	60,000人及び75%	-	60,000人及び75%	60,000人及び75%	60,000人及び75%			中公審答申及び附帯決議に基づき、地域人口集団の健康状態と大気汚染との関係を毎年、継続的に観察し、何らかの傾向が認められる場合には、その原因を考察し、大気汚染との関係が認められる際には、必要な措置を講ずる。60,000人以上の調査対象人数を得る事及び75%以上の同意率を得ることで信頼性のある調査を実施する。
			79,398人 85.13%	-	-					
環境保健サーベイランス調査の着実な実施(調査対象者数及び調査対象者の同意率(6歳児調査))	-	-	60,000人及び75%	-	60,000人及び75%	60,000人及び75%	60,000人及び75%			中公審答申及び附帯決議に基づき、地域人口集団の健康状態と大気汚染との関係を毎年、継続的に観察し、何らかの傾向が認められる場合には、その原因を考察し、大気汚染との関係が認められる際には、必要な措置を講ずる。60,000人以上の調査対象人数を得る事及び75%以上の同意率を得ることで信頼性のある調査を実施する。
			81,115人 84.24%	-	-					
達成手段(開始年度)	予算額計(執行額)(百万円)			当初予算額(百万円)	関連する指標	達成手段の概要等				行政事業レビュー事業番号
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度						
(1) 公害健康被害補償基本統計調査(平成8年度)	5(3)	5(4)	5(3)	4 ※うち1百万円はデジタル庁予算	1	<達成手段の概要> 公害健康被害の補償等に関する法律(公健法)の被認定者の更新、制度離脱状況等及び補償給付関係項目を更新整理し、公害認定患者に関する基礎資料を得る。 <達成手段の目標> 公害健康被害補償制度の今後の運営のため、被認定患者数及び補償費用等の変動推移を更新整理した基礎資料を元に、被認定患者数及び補償費用の将来推計等を行い、認定患者の補償を適正に行う。 <施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 公健法の被認定者への次年度の補償給付額確定、賦課金所要額の算定根拠となり、公害健康被害補償制度の安定的な運営に寄与。				0256

(2)	公害健康被害補償給付支給事務費交付金 (昭和49年度)	1,075 (1,075)	1,071 (1,071)	1,032 (1032)	1,032	1	<p><達成手段の概要> 大気汚染等の影響による健康被害に係る損害を補填するための補償。</p> <p><達成手段の目標> 健康被害に係る被害者の適切な保護及び健康の確保</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 都道府県知事又は同法第4条第3項の政令で定める市の長が行う公害健康被害認定審査会運営経費など、事務の処理に要する費用の1/2に相当する金額を交付。</p>	0258
(3)	公害健康被害補償基礎調査費 (昭和51年度)	11 (10)	16 (10)	16 (11)	16	1	<p><達成手段の概要> 都道府県知事又は同法第4条第3項の政令で定める市の長が行う公害診療報酬の審査及び支払い状況について抽出集計し、療養給付の実態を把握し、各自治体へ還元する。</p> <p><達成手段の目標> 不正請求の未然防止や早期発見に資する。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 公健法に基づく公正な補償、円滑な制度運営に資する。</p>	0260
(4)	自立支援型公害健康被害予防事業推進費 (平成20年度)	204 (179)	204 (199)	204 (204)	204	1	<p><達成手段の概要> 地域住民の大気汚染による健康被害を予防するための総合的な環境保健施策。</p> <p><達成手段の目標> 地域住民の大気汚染によるぜん息等の健康被害の予防や健康回復を図る。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> ぜん息患者等が日常生活の中において自立的にぜん息等の発症予防、健康回復等を行うことを支援するために補助金を交付。</p>	0261
(5)	公害保健福祉事業助成費 (昭和49年度)	41 (31)	42 (27)	41 (27)	41	1	<p><達成手段の概要> 大気汚染等の影響による健康被害者の福祉に必要な事業を行う。</p> <p><達成手段の目標> 被害者の適切な保護及び健康の確保。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 独立行政法人環境再生保全機構が納付金を納付する事業を交付の対象とし、補助を行う。</p>	0259
(6)	環境保健施策基礎調査 (環境保健サーベイランス調査費(健康影響等調査)) (平成8年度)	176 (158)	191 (153)	194 (154)	194	1	<p><達成手段の概要> 地域人口集団の健康状態と大気汚染の関係について調査するもの。中公審答申及び公健法改正時の附帯決議により、定期的・継続的に観察実施することを求められている。</p> <p><達成手段の目標> 60,000人以上の調査対象人数と75%以上の同意率を得ることで信頼性を確保した調査を滞りなく実施する。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 確立された調査方法に基づいて当該調査を確実に実施し、地域人口集団の健康状態と大気汚染の関係について観察し、必要に応じて所用の措置を早期に講ずることにより、被害の未然防止に資する。</p>	0257
(7)	イタイイタイ病及び慢性カドミウム中毒に関する総合的研究 (平成13年度)	35 (31)	36 (31)	36 (31)	36	1	<p><達成手段の概要> イタイイタイ病の病態解明や慢性カドミウム中毒の健康影響に関する調査研究を行う。</p> <p><達成手段の目標> イタイイタイ病や慢性カドミウム中毒に関する質の高い研究による科学的知見の充実。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> カドミウムによる健康影響を当該研究により解明し、イタイイタイ病や慢性カドミウム中毒の特徴を把握することにより、被害の未然防止や健康確保に資する。</p>	0299
(8)	イタイイタイ病及び慢性砒素中毒発生地域住民健康影響実態調査 (昭和47年度)	40 (31)	40 (26)	41 (20)	40	1	<p><達成手段の概要> カドミウムや砒素の汚染地域住民の健康調査を通じたカドミウムや砒素の健康影響の把握等を実施する。</p> <p><達成手段の目標> 汚染地域住民の健康上の問題の把握、軽減。イタイイタイ病に関する情報収集・発信。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 汚染地域住民の健康影響を調査することにより汚染地域住民の健康状態の適切な管理等を実施する。</p>	0300
(9)	自動車重量税財源公害健康被害補償に係る納付金財源交付 (昭和49年度)	7,279 (7,276)	7,201 (7,198)	7,038 (7,029)	6,767	1	<p><達成手段の概要> 大気汚染等の影響による健康被害に係る損害を補填するための補償。</p> <p><達成手段の目標> 健康被害に係る被害者の適切な保護及び健康の確保。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 公害健康被害の被認定者に関する補償給付等の費用に充てるための納付金のうち、大気の汚染の原因である物質を排出する自動車に係る分として自動車重量税の収入見込額の一部に相当する額を交付することで、公健法に基づく公正な補償給付を迅速に行う。</p>	0262
施策の予算額・執行額		8,866 (8,793)	8,806 (8,719)	8,607	8,334 うち1百万円はデジタル庁予算	施策に関係する内閣の重要政策 (施政方針演説等のうち主なもの)	—	

令和4年度実施施策に係る政策評価の事前分析表

(環境省R4-32)

別紙1

施策名	目標7-2 水俣病対策				担当部局名	環境保健部 環境保健企画管理課 特殊疾病対策室	作成責任者名 (※記入は任意)	海老名英治(特殊疾病対策室長)				
施策の概要	「水俣病被害者の救済及び水俣病問題の解決に関する特別措置法」等に基づき、水俣病被害者等の救済対策、水俣病発生地域の医療・福祉対策及び再生・融和・振興施策を推進するほか、水俣病に関する総合的研究を行うなど、水俣病問題の解決に資する施策を実施する。				政策体系上の位置付け	施策7 環境保健対策の推進						
達成すべき目標	水俣病患者等への補償給付、水俣病発生地域の医療・福祉の充実と再生・融和・振興の推進等を通じ、水俣病問題の最終解決を図り、すべての水俣病被害者が地域社会の中で安心して暮らしていける環境をつくる。				目標設定の考え方・根拠	水俣病被害者の救済及び水俣病問題の解決に関する特別措置法(平成21年法律第81号)及び同法に基づく「救済措置の方針」(平成22年4月閣議決定)		政策評価実施予定時期 令和5年8月				
測定指標	目標値		測定指標の選定理由及び目標(水準・目標年度)の設定の根拠									
	目標年度											
1 水俣病患者等に対する療養費の支給の進捗状況	水俣病患者等に対する療養費を着実に支給		-		「公害健康被害の補償等に関する法律」(昭和48年法律第111号)、「平成12年度以降におけるテッソ株式会社に対する支援措置について」(平成12年2月8日閣議了解)、「水俣病被害者の救済及び水俣病問題の解決に関する特別措置法」(平成21年法律第81号)及び「水俣病被害者の救済及び水俣病問題の解決に関する特別措置法の方針」(平成22年4月閣議決定)等に基づく療養費の給付等により、水俣病患者等の補償・救済を推進。							
測定指標	基準値	基準年度	目標値	目標年度	年度ごとの目標値							測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠
					年度ごとの実績値							
					R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
2 水俣市の観光入込客数(人)	510,360	H29年度	-	R4年度	481,000	-	-	-				・「水俣病被害者の救済及び水俣病問題の解決に関する特別措置法」(平成21年法律第81号)、「水俣病被害者の救済及び水俣病問題の解決に関する特別措置法の方針」(平成22年4月閣議決定)に基づき、水俣病発生地域の地域振興を推進。 ・令和4年度までに地域振興施策を通じて、観光入込客数を平成29年度比10%増を目標としていたが、令和2年度以降の目標値については、新型コロナウイルス感染症状況を踏まえ目標値を設定することが適当でないため、該当箇所を空欄にしている。
					477,341	251,026						
達成手段 (開始年度)	予算額計(執行額) (百万円)				当初予算額 (百万円)	関連する 指標	達成手段の概要等	行政事業レビュー 事業番号				
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度								
(1) 水俣病総合対策関係経費(昭和49年度)	11,084 (10,775)	11,290 (10,727)	11,033 (10,486)	11,126	1, 2	<達成手段の概要> 医療事業対象者(医療手帳・水俣病被害者手帳保有者)に対して、療養費、手当を支給する。また、水俣病発生地域における医療・福祉対策、再生・融和対策(もやい直し)及び地域振興を推進する。 <達成手段の目標> 水俣病発生地域における健康上の問題の軽減・解消等:数値化困難 水俣病発生地域の地域振興:観光入込客数 <施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 水俣病の最終解決を図り、すべての水俣病被害者が地域社会の中で安心して暮らしていける環境づくりを進める。	0273					
(2) 水俣病対策地方債償還費(平成12年度)	0	323 (323)	429 (429)	429	1	<達成手段の概要> 熊本県が、水俣病対策に係る県債の償還に支障をきたさぬよう、その不足額を補助する。 <達成手段の目標> 県債の償還率:100% <施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 水俣病が生じる原因となったメチル水銀を排出した事業者による患者補償を、将来にわたり自力で患者補償を行うことを確保する。	0276					
(3) 【8-6再掲】 水俣病に関する総合的研究(昭和48年度)	40 (33)	41 (31)	41 (26)	41	1	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0309					

(4)	【8-6再掲】 国立水俣病総合研究センター 調査研究 (昭和53年度)	554 (477)	560 (482)	444 (344)	463 うち6百万 円はデジタル 庁予算	1	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0310
施策の予算額・執行額		11,678 (11,285)	12,214 (11,563)	11,947 (11,285)	12,059 うち6百万 円はデジタル 庁予算	施策に関する内閣の重要政策 (施政方針演説等のうち主なもの)		「水俣病被害者の救済及び水俣病問題の解決に関する特別措置法」及び同法に基づく「救済措置の方針」

令和4年度実施施策に係る政策評価の事前分析表

(環境省R4-33)

別紙1

施策名	目標7-3 石綿健康被害救済対策				担当部局名	環境保健部 環境保健企画管理課 石綿健康被害対策室	作成責任者名 (※記入は任意)	木内 哲平(石綿健康被害対策室長)				
施策の概要	石綿の健康被害の救済に関する法律(以下「石綿法」という。)に基づき、被害者及び遺族の迅速な救済を図る。				政策体系上の位置付け	施策7 環境保健対策の推進						
達成すべき目標	石綿による健康被害を受けた者及びその遺族に対し、医療費等を支給するための措置を講ずることにより、石綿による健康被害の迅速な救済を図る。また、石綿による健康被害に関する調査研究を推進する。				目標設定の考え方・根拠	石綿による健康被害の救済に関する法律(平成18年法律第4号)第1条、第80条	政策評価実施予定時期	令和5年8月				
測定指標	基準値	目標値	年度ごとの目標値							測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠		
			年度ごとの実績値									
1	石綿法に基づく認定業務の進捗状況(療養者からの医療費等の申請に対する認定・不認定決定までの平均処理日数)(日)	173日	H18年度	120日(平成18年度の3割減)	120	120	120	120	92	212	181	<ul style="list-style-type: none"> 石綿による健康被害の迅速な救済を図るためには、認定業務に係る期間を短縮することが重要であり、療養者からの医療費等の申請に対する認定・不認定決定までの平均処理日数を指標として選定。 事務手続の効率化や必要な提出書類に関する医療機関への周知等の取組を実施することにより、平成26年度以降は、制度発足当時(平成18年度)の平均処理日数(173日)の3割減(120日)を維持するよう目標を設定。
測定指標	基準	目標	施策の進捗状況(目標)								測定指標の選定理由及び目標(水準・目標年度)の設定の根拠	
			施策の進捗状況(実績)									
2	石綿読影の精度確保等調査事業の参加自治体数	32自治体	R2年度	前年度以上の自治体数(参加自治体数を増やすことにより効果的・効率的な健康管理の在り方について検討に資する知見の収集を図る)	30自治体	32自治体	前年度以上の自治体数	前年度以上の自治体数	前年度以上の自治体数	32自治体	34自治体	<ul style="list-style-type: none"> 自治体の石綿読影精度向上や効果的・効率的な健康管理の在り方について検討を行うためには、事業により多くの自治体が参画することが期待されるため、前年度以上の参加自治体数を得ることを目標としている。 また、石綿読影の精度向上のためには多くの知見を収集する必要があり、読影調査結果を評価・検証するためには事業開始から5年程度を要することから、目標年度は令和6年度に設定している。
測定指標	目標		測定指標の選定理由及び目標(水準・目標年度)の設定の根拠									
3	石綿健康被害救済小委員会報告書「石綿健康被害救済制度の施行状況及び今後の方向性について」の進捗	報告書に沿った必要な調査や措置の実施	R4年度	<ul style="list-style-type: none"> 石綿健康被害救済小委員会において、平成28年12月に取りまとめられた報告書「石綿健康被害救済制度の施行状況及び今後の方向性について」において、「現行制度の評価・検討の中でいくつかの論点も指摘されたことから、それぞれの論点について今後の方向性を提示した。今後、こうした方向性に沿って必要な調査や措置が可及的速やかに講じられ、5年以内に制度全体の施行状況の評価・検討を改めて行うことが必要である。」とされたため。 								
達成手段(開始年度)	予算額計(執行額)(百万円)			当初予算額(百万円)	関連する指標	達成手段の概要等	行政事業レビュー事業番号					
(1)	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度								
石綿問題への緊急対応に必要な経費(平成18年度)	686(639)	662(556)	1,387(1,235)	915 うち186百万円はデジタル庁予算	1, 2, 3	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0264					
施策の予算額・執行額	686(639)	662(556)	1,387(1,235)	915 うち186百万円はデジタル庁予算	施策に関係する内閣の重要政策(施政方針演説等のうち主なもの)		—					

令和4年度実施施策に係る政策評価の事前分析表

(環境省R4-34)

別紙1

施策名	目標7-4 環境保健に関する調査研究				担当部局名	環境保健部 環境安全課	作成責任者名 (※記入は任意)	高澤哲也(環境安全課長)				
施策の概要	健康被害をもたらしている可能性が指摘され、国民的な関心は高いが因果関係は科学的には明らかにされていない種々の環境因子について、調査研究を推進する。また、既に明らかになっている知見について、一般に分かりやすく情報提供を行い、必要な対処等を行うよう意識啓発を進める。 ①花粉症や黄砂、紫外線等の健康影響についての実態を明らかにし、必要に応じて適切な対応を検討する。 ②熱中症の健康影響について一般に普及啓発を行うとともに、対策の推進を図る。				政策体系上の位置付け	7. 環境保健対策の推進						
達成すべき目標	花粉症、黄砂、紫外線等の健康影響、熱中症の健康影響について調査研究を進めるとともに、一般への普及啓発や対策の推進を図る。				目標設定の考え方・根拠	国民に健康被害をもたらしていると指摘されている環境因子について調査研究を行うことや熱中症対策の推進を図る。		政策評価実施予定時期 令和5年8月				
測定指標	基準値		目標値		年度ごとの目標値 年度ごとの実績値							測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠
	基準年度	目標年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度			
1 黄砂や花粉等の普及啓発資料の改訂回数	1回	H25年度	1回	令和4年度	1	1	1	1	1	1	1	黄砂や花粉症等の普及啓発資料に関して毎年1種類以上を改訂する。
2 熱中症対策シンポジウム等の参加者数(人)	492	R元年度	600	-	-	-	600	600	600	600	600	地域の熱中症の専門家を育成することが地域での熱中症対策の促進に繋がるため、熱中症対策シンポジウム等への参加者数を指標として設定する。目標値は教育関係より200人、行政より150人(一都道府県より都道府県レベル、中核都市レベル、町村レベルの3人)、医療・介護施設等より100人、民間企業より100人、その他50人の600人と設定した。 なお、熱中症対策シンポジウムについては、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度は中止し、令和3年度はWEB開催とした。
3 熱中症の普及啓発の進捗度(アンケートにおいて暑くなる前から熱中症対策を行ったと回答した自治体の割合)(%)	89.8	H25年度	100	令和8年度	-	-	100	100	100	100	100	暑くなる前から熱中症対策を行っている自治体の割合を指標にすることで、環境省が自治体等に対して行っている啓蒙活動の定着状況が把握できる。
4 年間の熱中症死亡者数(人)	1528	R2年度	1000	令和12年度	-	-	1000	1000	1000	1000	1000	令和3年3月25日に開催した熱中症対策推進会議で策定した熱中症対策行動計画において、「熱中症による死亡者数ゼロに向けて、できる限り早期に死亡者数年間1000人以下を目指し、顕著な減少傾向に転じさせること」を中期的な目標としているため、普及啓発も含めた熱中症対策の目標値としてこれを設定する。。
達成手段(開始年度)	予算額計(執行額)(百万円)				当初予算額(百万円)	関連する指標	達成手段の概要等					行政事業レビュー事業番号
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度								
(1) 環境中の多様な因子による健康影響に関する基礎調査費(平成21年度)	19 (12)	19 (9)	20 (10)	15	1	<達成手段の概要> 花粉の飛散や黄砂の健康影響についての調査・研究を実施する。 <達成手段の目標> 花粉の飛散や黄砂の健康影響の有無等について調査・研究を通じて、国としてどのような対応が必要が検討が進む。 <施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 調査研究の有効性や信頼性が上昇させる。	0265					
(2) 熱中症対策推進事業(平成24年度)	139 (140)	139 (125)	187 (172)	122	2,3,4	<達成手段の概要> 熱中症対策に関するシンポジウム等の実施を通じて、自治体等での熱中症対策を推進する。自治体モデル事業等を通じて、地方自治体に地域の熱中症対策の先進的事例の情報を提供する。 <達成手段の目標> 全ての自治体が暑くなる前から市民に向けた熱中症対策を継続して実施する。 <施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 必要な普及啓発資料の作成や配布、なるべく早い時期に講習会を開催すること等を通じて、自治体の取組を支援する。熱中症対策の推進を図ることで、年間の熱中症死亡者数を減少させる。	0301					
施策の予算額・執行額	158 (152)	158 (134)	207 (182)	137	施策に関係する内閣の重要政策(施政方針演説等のうち主なもの)	・経済財政運営と改革の基本方針 2022(令和4年6月7日) ・新しい資本主義のグランドデザイン及び実行計画(令和4年6月7日) において熱中症対策を記載						

令和4年度実施施策に係る政策評価の事前分析表

別紙1

(環境省R4-35)

施策名	目標8-1 経済のグリーン化の推進				担当部局名	大臣官房 環境経済課 地域政策課	作成責任者名 (※記入は任意)	波戸本尚(環境経済課長) 松下雄介(地域政策課長)				
施策の概要	市場において環境の価値が評価される仕組みづくりを通じて、暮らしや活動の中で自ずから環境保全の取組が続けられる社会を目指す。				政策体系上の位置付け	8. 環境・経済・社会の統合的向上及び環境政策の基盤整備						
達成すべき目標	税制、補助等のあらゆる政策手法を通じ、環境に配慮した製品・サービス等や環境保全に貢献する事業活動及び環境ビジネスを促進する。				目標設定の考え方・根拠	<ul style="list-style-type: none"> ・国等による環境物品等の調達等の推進等に関する法律 ・環境情報の提供の促進等による特定事業等の環境に配慮した事業活動の促進に関する法律 ・国等における温室効果ガス等の排出の削減に配慮した契約の推進に関する法律 	政策評価実施予定時期	令和5年8月				
測定指標	基準	目標値		年度ごとの目標値 年度ごとの実績値							測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠	
		基準年度	目標年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		
1 環境産業の市場規模(兆円)	約90	H18年度	増加傾向の維持	-	約110	約104	調査中	/	/	/	/	環境産業の市場規模を推計することにより、経済のグリーン化の推進状況を把握することになるため。
2 環境産業の雇用規模(万人)	約219	H18年度	増加傾向の維持	-	約269	約252	調査中	/	/	/	/	環境産業の雇用規模を推計することにより、経済のグリーン化の推進状況を把握することになるため。
3 地方公共団体におけるグリーン購入実施率(%)	-	-	100	R12年度	100.0	100.0	100.0	100.0	/	/	/	国等のみでなく、努力義務とされている地方公共団体のグリーン購入実施率が向上することによって、環境に配慮した製品・サービス等の市場が拡大され、環境ビジネスが促進されることとなるため。
4 国等における環境配慮契約実績(電気:高圧・特別高圧) 契約割合(%)	-	-	100	R12年度	76.0	80.0	84.0	88.0	/	/	/	国及び独立行政法人等の電気契約における環境配慮契約割合が向上することによって、温室効果ガス削減が推進されるため。
5 エコアクション21(※)登録事業者数 ※中小企業向け環境マネジメントシステム	6,971	H23年度	9,000	R3年度	9,000	9,000	9,000	9,000	-	/	/	中堅・中小企業における環境経営取組の裾野拡大は、経済のグリーン化に有効であるため。
6 持続可能な社会の形成に向けた金融行動原則署名金融機関数(機関数)	177	H23年度	285	R3年度	275	280	285	310	-	/	/	金融行動原則署名金融機関数の増加は、環境金融の拡大、ひいては持続可能な社会に資すると考えられるため。
達成手段 (開始年度)	予算額計(執行額) (百万円)			当初予算額 (百万円)	関連する 指標	達成手段の概要等	行政事業レビュー 事業番号					
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度								
(1) 国等におけるグリーン購入推進等経費 (平成14年度)	-	-	-	-	3	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	267					
(2) 製品対策推進経費 (平成13年度)	-	-	-	-	3	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	268					
(3) 国等における環境配慮契約等推進経費 (平成20年度)	-	-	-	-	4	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	269					
(4) 税制全体のグリーン化推進検討経費	-	-	-	-	1,2	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	270					
(5) 企業行動推進費(平成14年度)	-	-	-	-	1,2,5,6	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	271					

(6) 環境金融の拡大に向けた 利子補給事業(平成19年 度、令和元年度)	-	-	-	-	1.2	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	006 【再掲】
(7) 脱炭素社会の構築に向け たESGリソース促進事業(令 和3年度)	-	-	-	-	1.2.7	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	078 【再掲】
(8) グリーン経済の実現に向 けた政策研究と環境ビジネ ス情報整備・発信事業(平 成21年度)	-	-	-	-	1.2	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	292
(9) 地域脱炭素投資促進ファ ンド事業(平成25年度)	-	-	-	-	1.2.7	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	005 【再掲】
(10) グリーンボンド等促進体制 整備支援事業(平成30年 度)	-	-	-	-	1.2.6	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	036 【再掲】
(11) ESG金融金融実践促進事 業(令和4年度)	-	-	-	-	1.2.6	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	新22-009
ESG金融ステップアップ・プ ログラム推進事業(令和元 年度)	-	-	-	-	-	https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2021/sheets/r02f/xls/058.xlsx	043 【再掲】
施策の予算額・執行額	9,070 (8,062)	8,956 (7,404)	8,361	3,826	施策に関する内閣の重要政策 (施政方針演説等のうち主なもの)	第五次環境基本計画「第1部第1・2章、第2部第2章他」(平成30年4月17日閣議決定)	

令和4年度実施施策に係る政策評価の事前分析表

(環境省R4-36)

別紙1

施策名	目標8-2 環境パートナーシップの形成				担当部局名	大臣官房 総合政策課 民間活動支援室	作成責任者名 (※記入は任意)	佐々木真二郎(民間 活動支援室長)				
施策の概要	国民、民間団体、事業者、地方公共団体、国等の、様々な主体による協働取組を通じて、互いに公平な役割分担の下、相互に連携した自主的・積極的取組が行えるよう、各主体間のネットワークを構築し、環境保全のための情報の集積・交換・提供等を行い、環境パートナーシップの形成を促進する。				政策体系上の 位置付け	8. 環境・経済・社会の統合的向上及び環境政策の基盤整備						
達成すべき目標	各主体間のネットワークを構築し、環境保全のための情報の集積・交換・提供等を行い、環境パートナーシップの形成を促進する。			目標設定の 考え方・根拠	・第五次環境基本計画(第1部第2章、第2部 第1章ほか) ・環境教育等による環境保全の取組の促進に 関する法律(第3章ほか)	政策評価実施予定時期	令和5年8月					
測定指標	基準値		目標値		年度ごとの目標値 年度ごとの実績値							測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠
	基準年度		目標年度		R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
1 環境問題の解決に向けた 協働取組の推進(相談件 数、対話の場作り)	2,542	R元年度	2,725	R3年度	2,725	2,725	2,715	2,715	2,715	2,715	2,715	行政のみでは環境課題を解決することが難しくなっていることや、環境課題と社会課題が密接に関係していることから、環境・経済・社会の統合的な向上を加速化させる、より多くの関係者との協働が重要であり、そのような協働取組などを推進するための相談対応や対話の場作り数を目標値とする。
2 地域循環共生圏形成の創 造に資する活動への参加 数(参加企業・金融機関 数)	160	R2年度	1,000	R3年度	-	160	1,000	1,500				
達成手段 (開始年度)	予算額計(執行額) (百万円)			当初予算額 (百万円)	関連する 指標	達成手段の概要等					行政事業レビュー 事業番号	
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度								
(1) 地球環境パートナーシップ プラザ運営 (平成8年度)	72 (88)	72 (73)	72 (70)	71	2	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)					0274	
(2) 地域課題の解決に向けた 地域循環共生圏パート ナーシップ基盤強化事業 (令和2年度)	-	30 (29)	30 (27)	27	3	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)					0279	
(3) 地方環境パートナーシップ 推進事業(平成18年度)	147 (144)	147 (145)	147 (146)	147	2	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)					0275	
施策の予算額・執行額	219 (232)	249 (257)	249 (243)	245	施策に関係する内閣の重要政策 (施政方針演説等のうち主なもの)	・第五次環境基本計画(第1部第2章、第2部第1章他) ・環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律(第3章他)						

令和4年度実施施策に係る政策評価の事前分析表

(環境省R4-37)

別紙1

施策名	目標8-3 環境教育・環境学習の推進				担当部局名	大臣官房 総合政策課 環境教育推進室	作成責任者名 (※記入は任意)	河村玲央(環境教育 推進室長)				
施策の概要	国民、民間団体、事業者、地方公共団体、国等の様々な主体による環境教育・環境保全活動を通して、学校、家庭、地域等において生涯にわたる質の高い環境教育の機会を提供していくため、SDGs達成に貢献する人材を育成するESDの視点を取り入れた環境教育・環境学習に関する各種施策を総合的に推進していく。				政策体系上の 位置付け	8. 環境・経済・社会の統合的向上及び環境政策の基盤整備						
達成すべき目標	様々な主体を対象に、環境教育・環境保全活動への直接的・間接的な参画を促進し、これらの取組の活性化を図ることで、生涯にわたる質の高い環境教育の機会を提供する。				目標設定の 考え方・根拠	<ul style="list-style-type: none"> ・第五次環境基本計画(第1部第2章、第2部第1章他) ・環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律(第3章他) ・我が国における「持続可能な開発のための教育(ESD)」に関する実施計画(第2期ESD国内実施計画) 	政策評価実施予定時期	令和5年8月				
測定指標	基準値	基準年度	目標値	目標年度	年度ごとの目標値 年度ごとの実績値							測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠
					R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
1 教職員・環境活動リーダー養成研修における教職員等の参加者数	-	-	450	毎年度	200	200	450	450	450			学校・地域において環境教育・学習を実践・推進するリーダー的人材の育成状況を測定する指標となるため選定した。目標値については、令和3年度の参加者数及び一部オンライン化による増加を見込んだ数値を設定した。
2 環境教育推進室HPアクセス数	276,471	H24年度	250,000	毎年度	250,000	250,000	250,000	250,000	250,000			環境教育に関する国の施策等の情報を総合的に発信するHPへのアクセス件数は、国民の環境教育への関心度を図るための指標として有効であると考えた。
3 ESD関連フォーラム参加人数	-	-	2,000	毎年度	2,000	2,000	2,000	3,200	3,200			ESD活動の全国的な関心の高まりと活動の普及状況を把握する指標として適切と考えた。
4 RCE認定拠点数	-	-	185	令和3年度	178	185	185	190	190			平成24年に国連へ提出した「環境省イニシアティブ」により、国連大学が実施するESDプログラムへ資金を拠出し、持続可能な開発のための教育に関する地域拠点(RCE)のネットワーク化を推進するため、国連加盟の各国・各地域に1箇所以上認定することを目標としており、指標として適切と考えた。
達成手段 (開始年度)	予算額計(執行額) (百万円)				当初予算額 (百万円)	関連する 指標	達成手段の概要等					行政事業レビュー 事業番号
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度								
(1) 環境教育強化総合対策事業 (平成8年度)	73 (58.3)	62 (59.6)	60 (59.5)	58	1	学校、家庭、職場等で環境教育等の自発的な取組を促進するため、地域で先導的な役割を担う人材を育成するとともに、参考となる教材等の情報提供を行う。 行政事業レビューURL: https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html	276					
(2) 「国連ESDの10年」後の環境教育推進費 (平成27年度)	132 (124)	132 (116.5)	127 (115.8)	120	2,3	複雑化した地域の環境課題に対応すべく、ESDの観点から多様な主体が参画する場作りを進めていく。 行政事業レビューURL: https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html	277					
(3) 国連大学拠出金 (平成15年度)	150 (150)	140 (140)	150 (150)	150	4	国連大学が進めるRCE事業やProSPER.Netの強化事業に対して拠出協力する。 行政事業レビューURL: https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html	275					
施策の予算額・執行額	355 (332.3)	334 (316.1)	337 (325.3)	328	施策に関係する内閣の重要政策 (施政方針演説等のうち主なもの)		<ul style="list-style-type: none"> ・第五次環境基本計画 ・環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律 ・我が国における「持続可能な開発のための教育(ESD)」に関する実施計画(第2期ESD国内実施計画) 					

令和4年度実施施策に係る政策評価の事前分析表

(環境省R3-38)

別紙1

施策名	目標8-4 環境基本計画の効果的实施				担当部局名	大臣官房 総合政策課	作成責任者名 (※記入は任意)	西村治彦(総合政策課長)
施策の概要	各主体における環境配慮の織り込みの推進や環境白書等を活用した普及啓発等を行うなど、環境基本計画の効果的な実施により、環境保全に関する施策の効果的な実施を図る。				政策体系上の位置付け	8. 環境・経済・社会の統合的向上及び環境政策の基盤整備		
達成すべき目標	環境の保全に関する施策の総合的かつ計画的な推進				目標設定の考え方・根拠	環境基本法第15条	政策評価実施予定時期	令和5年8月
測定指標	目標		測定指標の選定理由及び目標(水準・目標年度)の設定の根拠					
1 第五次環境基本計画の進捗状況、第六次環境基本計画策定に向けた検討	第五次環境基本計画の点検	R4年度	・第五次環境基本計画に基づき、2022年度(令和4年度)に中央環境審議会において計画の総合的な進捗状況の点検を行うこととされているため。 ・また、第五次環境基本計画策定後6年程度が経過した令和5年度から中央環境審議会等で第五次環境基本計画の見直し、第六次環境基本計画の策定のための検討を行う必要があるため。					
2 環境白書、英語版白書:年1回発行	環境白書、英語版白書:年1回発行	R4年度	・環境基本法第12条の規定に基づき、環境行政年次報告書(環境白書)を作成し、毎年国会報告を行うこととされているため。					
3 見積りの方針の調整を行った結果の資料への取りまとめ、国会等への説明	見積りの方針の調整を行った結果を資料に取りまとめ、国会等に説明する。	R4年度	・環境省設置法第4条第3号に基づき、環境保全経費の見積り方針の調整を行うこととされているため。					
達成手段 (開始年度)	予算額計(執行額) (百万円)				関連する 指標	達成手段の概要等	行政事業レビュー 事業番号	
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度				
(1) 環境行政年次報告書作成等経費(昭和43年度)	32 (28)	32 (31)	31 (27)	31	2	<達成手段の概要> 環境基本法第12条の規定による環境行政年次報告書を作成し国会報告を行うとともに、白書を用いた環境施策に関する普及啓発を行う。 <達成手段の目標> 環境白書、英語版白書:年1回発行(環境省ウェブサイトで公表している環境白書へのアクセス数の対前年度比10%増) <施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 達成手段を実施することにより、環境基本法第12条に定められた環境行政年次報告書(環境白書)の作成、毎年の国会報告を着実に実施することができる。	281	
(2) 環境保全経費見積調整費(昭和46年度)	3 (2)	3 (1)	3 (1)	2	3	<達成手段の概要> 環境省設置法第4条第3号に基づく環境保全経費の取りまとめ及び国会等への説明を行う。 <達成手段の目標> 集計事項数(予算要求における事項等):1,100事項(概算要求における計数の取りまとめ期間:60日) <施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 達成手段を実施することにより、環境省設置法第4条第3号に定められた環境保全経費の見積り方針の調整を着実に実施することができる。	282	
(3) 環境統計・環境情報の総合的な整備推進費(平成22年度)	15 (14)	15 (15)	15 (11)	15	1	<達成手段の概要> 第五次環境基本計画(平成30年4月17日閣議決定)及び公的統計の整備に関する基本的な計画(第三期:平成30年3月閣議決定、変更:令和2年6月2日)に基づき、環境統計・情報を容易に利用できる形で国民に提供するとともに、政策立案等により一層活用していくため、環境データの整備等を実施する。 <達成手段の目標> 環境省ウェブサイトの統計ページへのアクセス数 <施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 環境統計の整備を通じて、地球環境問題に対する関心度向上に寄与する。	283	
(4) 環境基本計画推進事業費(平成7年度)	21 (20)	19 (19)	19 (15)	37	1	<達成手段の概要> (1)社会経済、環境の状況に関する調査 (2)諸外国の環境政策に関する調査 (3)国内の優良事例に関する調査 (4)学識経験者等の有識者によるヒアリング等の開催 <達成手段の目標> 学識経験者を含む専門家で構成する検討会の開催回数:3 <施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> (1)(2)(3)により、計画の点検及び見直しに関する議論を進める上で必要な資料・知見が得られる。 (4)により、様々な主体の意見を計画の見直しに反映することができる。	284	
施策の予算額・執行額	71 (64)	69 (66)	68 (54)	85	施策に関係する内閣の重要政策 (施政方針演説等のうち主なもの)		-	

令和4年度実施施策に係る政策評価の事前分析表

(環境省R4-39)

別紙1

施策名	目標8-5 環境アセスメント制度の適切な運用と改善				担当部局名	大臣官房 環境影響評価課	作成責任者名 (※記入は任意)	大倉紀彰(環境影響 評価課長)					
施策の概要	環境に影響を及ぼすと認められる意思決定の各段階において、環境影響評価制度等を通じ、環境保全上の適切な配慮を確保する。				政策体系上の 位置付け	8. 環境・経済・社会の統合的向上及び環境政策の基盤整備							
達成すべき目標	環境影響評価制度に係る情報基盤の整備、技術手法の開発及び人材育成、審査体制の強化、制度の所要の見直しを講じることにより、環境影響評価制度の適切かつ効果的な運用を行う。				目標設定の 考え方・根拠	環境影響評価法		政策評価実施予定時期	令和5年8月				
測定指標	基準値	基準年度	目標値	目標年度	年度ごとの目標値 年度ごとの実績値							測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠	
					R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		
1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	環境影響評価法に基づく制度の適切な運用の実態を把握するため、当該指標を測定指標として選定。
					600(123)	716(130)	764	/	/	/	/	/	
2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	環境影響評価法に基づく制度の適切な運用の実態を把握するため、当該指標を測定指標として選定。
					557	618	741	/	/	/	/	/	
3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	環境影響評価法に基づく制度の適切な運用の実態を把握するため、当該指標を測定指標として選定。
					565	604	614	/	/	/	/	/	
4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	環境影響評価法に基づく制度の適切な運用の実態を把握するため、当該指標を測定指標として選定。
					43	45	59	/	/	/	/	/	
5	-	-	-	-	100	100	100	100	100	100	100	100	環境影響評価法に基づく制度の適切な運用の実態を把握するため、当該指標を測定指標として選定。
					100	92	89	/	/	/	/	/	
達成手段 (開始年度)	予算額計(執行額) (百万円)				当初予算額 (百万円)	関連する 指標	達成手段の概要等	行政事業レビュー 事業番号					
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度									
(1) 環境影響評価制度高度化経費(昭和55年度)	42 (64)	34 (28)	32 (31)	26	1,2,3	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0284						
(2) 環境アセスメント技術調査費(昭和55年度)	46 (15)	44 (29)	41 (38)	54	1,2,3	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0285						
(3) 環境影響評価制度合理化・最適化経費(平成22年度)	65 (53)	59 (75)	57 (43)	33	1,2	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0286						
(4) 環境影響評価審査体制強化費(平成23年度)	44 (40)	44 (40)	42 (35)	42	2, 4, 5	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0288						
(5) 地方環境事務所における環境影響評価審査体制強化費(平成20年度)	36 (23)	36 (31)	36 (23)	34	2, 4, 5	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0287						
(6) 洋上風力発電の導入促進に向けた環境保全手法の最適化実証等事業	-	-	-	450	1, 5	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0003						

(7)	風力発電等に係るゾーニング導入可能性検討モデル事業(平成29年度)	400 (273)	330 (295)	-	-	1,2,3		
(8)	ゼロカーボンシティ実現に向けた地域の気候変動対策基盤整備事業(令和3年度)(関連:環境省R4-43)	0	0	200 (189)	160	1,2,3	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0002
(9)	再エネの最大限の導入の計画づくり及び地域人材の育成を通じた持続可能でレジリエントな地域社会実現支援事業(令和3年度)	0	0	72 (26)	-	1,2,3		
施策の予算額・執行額		633 (468)	547 (498)	480 (386)	794	施策に関する内閣の重要政策 (施政方針演説等のうち主なもの)	環境基本計画(平成30年4月17日閣議決定) 地球温暖化対策計画(令和3年10月22日閣議決定) エネルギー基本計画(令和3年10月22日閣議決定) 規制改革実施計画(令和3年6月18日閣議決定) 海洋基本計画(平成30年5月15日閣議決定)	

令和4年度実施施策に係る政策評価の事前分析表

(環境省R4-40)

別紙1

施策名	目標8-6 環境問題に関する調査・研究・技術開発					担当部局名	大臣官房 総合政策課 環境研究技術室	作成責任者名 (※記入は任意)	加藤学(環境研究技術室長)			
施策の概要	環境の状況の把握、問題の発見、環境負荷の把握・予測、環境変化の機構や環境影響の解明・予測、環境と経済の相互関係に関する分析、対策技術の開発など各種の調査研究・研究開発を実施するとともに、研究開発のための基盤の整備、成果の普及により環境分野の研究・技術開発を推進し、環境問題の解決や持続可能な社会の構築の基礎とする。					政策体系上の位置付け	8. 環境・経済・社会の統合的向上及び環境政策の基盤整備					
達成すべき目標	環境技術の研究開発を進め、環境と経済の統合された社会の実現に寄与する。				目標設定の考え方・根拠	第6期科学技術・イノベーション基本計画		政策評価実施予定時期	令和5年8月			
測定指標	基準値	目標値		年度ごとの目標値 年度ごとの実績値							測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠	
		基準年度	目標年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		
1	-	-	70%以上 (平成30年度までは60%以上)	各年度	70%以上 46/53 (86.8%)	70%以上 50/55 (90.9%)	/	/	-	-	-	環境研究総合推進費は、環境省における環境技術の研究開発の中核をなす競争的資金による予算であり、採択された個々の課題の成果を上げることが、目標達成に寄与することになる。このため、研究開発の終了時に目標の達成状況や成果の内容等を把握し、その後の研究開発発展への活用等を行うために実施している事後評価において一定の研究成果を上げることが指標としている。
2	-	-	30%	各年度	-	-	30	30	30	30	30	イノベーション創出のための環境スタートアップ研究開発支援事業では、持続可能な社会の実現に向けた現状とのギャップを埋めるイノベーションの創出を目的とし、イノベーション創出の担い手として重要性が増すスタートアップを対象に、環境技術の研究開発・事業化の支援を行う。そこで、本事業のうち環境保全研究費補助金によって事業化支援を行ったスタートアップに対し、年度ごとに外部有識者による評価を行い、本事業の成果の指標とする。
達成手段 (開始年度)	予算額計(執行額) (百万円)				当初予算額 (百万円)	関連する 指標	達成手段の概要等				行政事業レビュー 事業番号	
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度								
(1)	-	-	-	-	1	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)				2022-環境-21-0314-02		
(2)	-	-	-	-	-	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)				0302		
(3)	-	-	-	-	2	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)				0015		
(4)	-	-	-	-	-	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)				0295		

(5)	熱中症対策推進事業 (平成24年度)	-	-	-	-	-	令和4年度行政事業レビューページURL (https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0301	
(6)	子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査) (平成22年度)	-	-	-	-	-	令和4年度行政事業レビューページURL (https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0293	
(7)	化学物質の人へのばく露 総合調査事業費 (平成10年度)	-	-	-	-	-	令和4年度行政事業レビューページURL (https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0296	
(8)	水俣病に関する総合的研究(昭和48年度)(再掲: 27-32)	-	-	-	-	-	令和4年度行政事業レビューページURL (https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0309	
(9)	イタイイタイ病及び慢性カドミウム中毒に関する総合的研究 (平成13年度)	-	-	-	-	1	令和4年度行政事業レビューページURL (https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0311	
(10)	イタイイタイ病及び慢性砒素中毒発生地域住民健康影響実態調査(昭和47年度)	-	-	-	-	1	令和4年度行政事業レビューページURL (https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0312	
(11)	国立水俣病総合研究センター (昭和53年度)	-	-	-	-	-	令和4年度行政事業レビューページURL (https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0298	
(12)	環境汚染等健康影響基礎調査費(平成19年度) ※3 平成28年度までは化学物質の内分泌かく乱作用に関する事業に係る額を記載	-	-	-	-	-	令和4年度行政事業レビューページURL (https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0294	
(13)	環境中の多様な因子による健康影響に関する基礎調査費(平成21年度)	-	-	-	-	-	令和4年度行政事業レビューページURL (https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0265	
(14)	GOSATシリーズによる地球環境観測事業 (平成18年度) (297再掲)	-	-	-	-	-	令和4年度行政事業レビューページURL (https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0315	
(15)	農業影響対策費 (平成19年度)	-	-	-	-	-	令和4年度行政事業レビューページURL (https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0290	
(16)	大気汚染物質による曝露影響研究費 (平成23年度組替)	-	-	-	-	-	令和4年度行政事業レビューページURL (https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0300	
(17)	気候変動に関する政府間パネル(IPCC)評価報告書作成支援事業 (平成18年度) (296再掲)	-	-	-	-	-	令和4年度行政事業レビューページURL (https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	0314	
施策の予算額・執行額		14,174 (13,125)	13,589 (12,646)	13,043	12,872	施策に関する内閣の重要政策 (施政方針演説等のうち主なもの)			第6期科学技術・イノベーション基本計画(令和3年3月26日閣議決定) 宇宙基本計画(令和2年6月30日閣議決定)

令和4年度実施施策に係る政策評価の事前分析表

別紙1

(環境省R4-41)

施策名	目標8-7 環境情報の整備と提供・広報の充実				担当部局名	大臣官房総務課環境情報室 大臣官房総務課総務課広報室 大臣官房総合政策課	作成責任者名 (※記入は任意)	明石健吾(環境情報室長) 永島徹也(大臣官房総務課長) 沼田正樹(広報室長) 西村治彦(総合政策課長)				
	環境保全施策を科学的、総合的に推進するため、環境問題に係る情報を体系的に整備し利用を図るとともに、様々なニーズに対応した情報を整備し、各主体への正確かつ適切な提供に努める。また、地球環境問題から身近な環境問題までの現状と取組について、各種媒体を通じた広報活動を行う。											
施策の概要	環境情報を体系的に整備するとともに、国民等への提供を行い、環境行政の各種施策を推進する基盤とする。				目標設定の考え方・根拠	第五次環境基本計画(閣議決定)		政策評価実施予定時期	令和5年8月			
測定指標	基準値	目標値		年度ごとの目標値							測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠	
		基準年度	目標年度	年度ごとの実績値								
				R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		
1 環境省ホームページへのアクセス数	環境省ホームページへのアクセス数	-	175,787,779	R4年度	170,765,271	172,439,440	174,113,609	175,787,779	175,778,779	177,461,948	179,136,117	環境省ホームページは、環境省施策や取組を国民へ広く発信するものとして整備・運用され、平成30年6月に策定された「環境省デジタル・ガバメント中長期計画」に基づくオープンデータ化の取組等の中核として期待されるシステムである。アクセス数の向上は利用者ニーズに応じた情報の提供がなされているかの評価の指標として有効である。目標値の設定は、環境省デジタル・ガバメント中長期計画の計画終了年において、平成29年度比5%増加を目標とした。
2 研修実施回数	研修計画書に基づく研修の実施	-	未定	-	53	51	-	-	-	-	-	毎年度、環境調査研修所研修規則第二条に基づき研修計画書を策定しており、これに基づき環境行政に携わる体系的かつ専門的な人材の養成を目的とした研修を国や地方公共団体職員等に対して実施しているため。(なお、令和2~4年度については、新型コロナウイルス感染予防・拡大防止の観点から当面の集合研修を中止しており、再開時期も未定であるため、設定が困難である。)
達成手段 (開始年度)	予算額計(執行額) (百万円)			当初予算額 (百万円)	関連する 指標	達成手段の概要等					行政事業レビュー 事業番号	
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度								
(1) 環境統計・環境情報の総合的な整備推進事業 (平成22年度)	15 (14)	15 (15)	15 (11)	15	1	<達成手段の概要> 第五次環境基本計画(平成30年4月17日閣議決定)及び公的統計の整備に関する基本的な計画(第Ⅲ期:平成30年3月閣議決定、変更:令和2年6月2日)に基づき、環境統計・情報を容易に利用できる形で国民に提供するとともに、政策立案等により一層活用していくため、環境データの整備等を実施する。 <達成手段の目標> 環境省ウェブサイトの統計ページへのアクセス数 <施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 環境統計の整備を通じて、地球環境問題に対する関心度向上に寄与する。	283					
(2) 環境調査研修所 (昭和48年度)	125 (121)	105 (83)	105 (85)	102	2	<達成手段の概要> 研修計画に基づく本来の集合研修については、新型コロナウイルス感染予防・拡大防止の観点から当面開催を中止しているが、再開時の感染症拡大防止対策を検討・検証するなど、段階的な再開を模索するとともに、暫定的取組としてオンライン等による「研修代替措置(遠隔参加型分析実習やWEBを活用した研修)」を、国や地方公共団体職員等に実施する。 <達成手段の目標> 本来の集合研修の段階的な再開を模索するとともに、暫定的取組としてオンライン等による「研修代替措置(遠隔参加型分析実習やWEBを活用した研修)」を実施する。 <施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 国や地方公共団体職員等の能力の開発、資質の向上を図り、環境行政の基盤の強化に資する。	306					
(3) 情報基盤の強化対策費 (平成7年度)	1,940 (1,853)	2,609 (2,669)	691	163	1	令和4年度行政事業レビューURL https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html	316					
(4) 環境保全普及推進費 (平成2年度)	85 (77)	88 (81)	102 (97)	96	-	令和4年度行政事業レビューURL https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html	317					

(5)	諸外国における環境法制に共通的に存在する基本問題の収集分析 (平成23年度)	5 (5)	5 (5)	5 (5)	5	-	令和4年度行政事業レビューURL https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html	0319
(6)	意識変革及び行動変容につなげるナッジの横断的活用推進事業 (令和3年度)	-	-	33 (33)	33	-	令和4年度行政事業レビューURL https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html	0308
施策の予算額・執行額		2,170 (2,070)	2,822 (2,853)	951 (231)	414	施策に関する内閣の重要政策 (施政方針演説等のうち主なもの)	-	

令和4年度実施施策に係る政策評価の事前分析表

(環境省R4-42)

別紙1

施策名	目標9-1 地域の脱炭素化の推進				担当部局名	大臣官房地域政策課 大臣官房地域脱炭素 事業推進課 大臣官房地域脱炭素 政策調整担当参事官 室				作成責任者名 (※記入は任意)	松下雄介(地域政策課 長) 犬丸淳(地域脱炭素事 業推進課長) 木野修宏(地域脱炭素 政策調整担当参事官)		
施策の概要	・2030年度温室効果ガス排出削減目標及び2050年カーボンニュートラルの実現に向けて、地域脱炭素が、意欲と実現可能性が高いところからその他の地域に広がっていく「実行の脱炭素ドミノ」を起こすため、地方公共団体による脱炭素先行地域づくりや重点対策加速化事業の支援等、地域脱炭素に係る施策を総動員していく。				政策体系上の 位置付け	9. 地域脱炭素の推進							
達成すべき目標	・民生部門の電力消費に伴うCO2排出の実質ゼロ等を実現する脱炭素先行地域を、2025年度までに少なくとも100ヶ所を選定し、2030年度までに実現する。 ・屋根置き太陽光やゼロカーボンドライブ等の脱炭素の基盤となる重点対策を全国で実施する。 ・脱炭素化に資する事業に対する資金供給の支援を強化することにより、民間投資の一層の誘発を図る。 ・法定義務のある地方公共団体において地方公共団体実行計画を早期に策定し、それ以外の地方公共団体においても策定を促進するとともに、具体的な対策の実施の支援等を通じ脱炭素型地域づくりを推進する。				目標設定の 考え方・根拠	・地球温暖化対策計画及び地域脱炭素ロードマップに基づく主要な施策として、脱炭素先行地域づくりや、脱炭素の基盤となる重点対策の全国実施等が位置づけられている。 ・地球温暖化対策推進法に基づき、地方公共団体は地方公共団体実行計画を策定することとされている。				政策評価実施予定時期	令和5年8月		
測定指標	基準値		目標値		年度ごとの目標値 年度ごとの実績値							測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠	
	基準年度		目標年度		R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		
1 地方公共団体実行計画(区域施策編)の策定義務を有する地方公共団体における計画の策定率	-	一年度	100%	R12年度	-	100%	100%	-					地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき、都道府県、指定都市、中核市(施行時特別市含む。)は、地方公共団体実行計画(区域施策編)の策定をするものと定められているため
2 地方公共団体実行計画(事務事業編)の地方公共団体における策定率	-	一年度	100%	R12年度	-	90%	91%	-					地球温暖化対策の推進に関する法律に基づき、全ての地方公共団体は、地方公共団体実行計画(事務事業編)の策定をするものと定められているため
3 大規模災害時においても発電・電力供給等の機能発揮が可能な再生可能エネルギー等の自立・分散型エネルギー設備の整備等を実施した避難所等の数	-	一年度	1,000施設	R7年度	100	200	150	-					防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策(令和2年12月11日)において、令和7年度までに、大規模災害時においても発電・電力供給等の機能発揮が可能な再生可能エネルギー等の自立・分散型エネルギー設備の整備等を実施するとしているため
4 脱炭素先行地域選定数	-	一年度	少なくとも100地域	R7年度	-	-	-	-					脱炭素先行地域は地球温暖化対策計画及び地域脱炭素ロードマップに基づく主要施策の一つとして、2050年を待つことなく前倒しでカーボンニュートラルを目指す地域であり、年2回程度募集を行い、2025年度までに少なくとも100ヶ所以上選定することとしているため。
5 脱炭素化支援機構が支援した事業による年間CO2排出削減量の累積合計値	-	一年度	-	一年度	-	-	-	-					(脱炭素化支援機構設立後に確定予定)
達成手段 (開始年度)	予算額計(執行額) (百万円)				当初予算額 (百万円)	関連する指 標	達成手段の概要等	行政事業レビュー 事業番号					
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度									
(1) 地域レジリエンス・脱炭素化を同時実現する公共施設への自立・分散型エネルギー設備等導入推進事業(令和2年度)	-	11 (11)	6,093 (2,112)	2,000	3	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	071						
(2) ゼロカーボンシティ実現に向けた地域の気候変動対策基盤整備事業(令和3年度)	-	-	800 (785)	800	1,2,3,4,5	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	074						
(3) 地域脱炭素実現に向けた再生エネの最大限導入のための計画づくり支援事業(令和3年度)	-	-	3132 (1,494)	800	1,2	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	072						

(4) 地域脱炭素移行・再エネ推進 交付金	-	-	-	20,000	1.2	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)	新22-0001
(5) 株式会社脱炭素化支援機構 出資金(令和4年度)(財政投 融資)	-	-	-	20,000	5	<p><達成手段の概要> 2030年度の温室効果ガス2013年度比46%削減や2050年までのカーボンニュートラルの達成に資する事業に対し、脱炭素化支援機関による出資等を通じてリスクマネーを供給する。</p> <p><達成手段の目標> 脱炭素化に資する事業に対して脱炭素化支援機関が出資等を行うことにより、民間投資を呼び込み、脱炭素社会実現に貢献する。</p> <p><施策の達成すべき目標(測定指標)への寄与の内容> 認知度が低い、前例がない等により資金調達が困難な事業に対して出資等を行うことにより、脱炭素化に資する事業への民間投資の呼び水となる。</p>	-
施策の予算額・執行額	0	11 (11)	10,025 (4,391)	43,600	<p>施策に係る内閣の重要政策(施政方針演説等のうち主なもの)</p> <p>地球温暖化対策計画 第3章第1節2.「『地方公共団体』の基本的役割」、第3節「公的機関における取組」の「○地方公共団体の率先的取組と国による促進」、第4節「地方公共団体が講ずべき措置等に関する基本的事項」、第7節「地域の魅力と質を向上させる地方創生に資する地域脱炭素の推進(地域脱炭素ロードマップ)」</p>		

令和4年度実施施策に係る政策評価の事前分析表

別紙 1

(環境省R4-43)

施策名	目標9-2 地域循環共生圏づくりの推進				担当部局名	大臣官房 地域政策課	作成責任者名 (※記入は任意)	松下雄介(地域政策課長)				
施策の概要	・専門人材と地域とのマッチング等の機能を持つプラットフォームの構築・充実等により地域循環共生圏の創造を強力に推進する。				政策体系上の位置付け	9. 地域脱炭素の推進						
達成すべき目標	・地域の活力を最大限に発揮する「地域循環共生圏」の創造により、各地域が自立・分散型の社会を形成しつつ、地域の特性に応じて資源を補完し支え合う取組を推進し、持続可能な地域づくりを通じて、環境で地方を元気にしていくとともに、持続可能な社会を構築していく。				目標設定の考え方・根拠	・「第五次環境基本計画」(平成30年4月閣議決定)では、「地域循環共生圏」の考え方を新たに提唱し、環境で地方を元気にしていくとともに、持続可能な社会を構築していくこととしている。	政策評価実施予定時期	令和5年8月				
測定指標	基準値		目標値		年度ごとの目標値							測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠
		基準年度		目標年度	年度ごとの実績値							
					R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
1 地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業実践地域登録制度登録地域数	-	一年度	100団体	R5年度	20	40	60	80	100			地域のステークホルダーによる主体的な会議運営を通じて地域循環共生圏創造に向けた経済面・環境面で持続可能な構想の具体化を支援する事業において20程度の地域・自治体の支援を予定しているため
達成手段 (開始年度)	予算額計(執行額) (百万円)				当初予算額 (百万円)	関連する指標	達成手段の概要等					行政事業レビュー 事業番号
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度								
(1) 環境で地方を元気にする地域循環共生圏づくりプラットフォーム事業	500 (478)	500 (446)	500 (467)	500	1	令和4年度行政事業レビューページURL(https://www.env.go.jp/guide/budget/review/2022/index.html)					0310	
施策の予算額・執行額	500 (478)	500 (446)	500 (467)	500	施策に係る内閣の重要政策(施政方針演説等のうち主なもの)		地球温暖化対策計画 第3章「目標達成のための対策・施策」第4節「地方公共団体が講ずべき措置等に関する基本的事項」					

令和4年度実施施策に係る政策評価の事前分析表

別紙1

(環境省R4-44)

施策名	目標10-1 放射性物質により汚染された廃棄物の処理				担当部局名	環境再生・資源循環局特定廃棄物対策担当参事官室	作成責任者名 (※記入は任意)	番匠克二(特定廃棄物担当参事官)				
施策の概要	放射性物質汚染対処特措法の円滑な施行等により、放射性物質により汚染された廃棄物の適正な処理を推進する。				政策体系上の位置付け	10. 放射性物質による環境の汚染への対処						
達成すべき目標	対策地域内廃棄物を撤去し、仮置場への搬入を完了する。最終的には、放射性物質に汚染された廃棄物を適正に処理する。				目標設定の考え方・根拠	対策地域内廃棄物処理計画 等	政策評価実施予定時期	令和5年8月				
測定指標	基準値		目標値		年度ごとの目標値 年度ごとの実績値							測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠
		基準年度		目標年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	
1 帰還困難区域を除く対策地域内における解体工事完了市町村数(累積)	1市町村	H27年度	11市町村	長期的な目標	7市町村	7市町村	11市町村	11市町村	-	-	-	・避難指示解除準備区域及び居住制限区域の災害廃棄物等(対策地域内廃棄物)の発生推計量や原子力災害対策本部による各市町村の避難指示解除時期を参考にしつつ、公表資料「データでみる福島再生」で記載している各市町村の解体進捗状況を踏まえて記載。
2 <対策地域内廃棄物・指定廃棄物>特定廃棄物埋立処分施設への搬入量	0	H29年度	5万m ³ (袋)程度	R4年度	5万m ³ (袋)程度	5万m ³ (袋)程度	5万m ³ (袋)程度	5万m ³ (袋)程度	-	-	-	
達成手段 (開始年度)	予算額計(執行額) (百万円)			当初予算額 (百万円)	関連する指標	達成手段の概要等					行政事業レビュー 事業番号	
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度								
(1) 放射性物質汚染廃棄物処理事業 (平成23年度)	105,383 (72,048)	105,924 (83,262)	76,797 (54,229)	63,776	1,2	放射性物質汚染対処特措法に基づき、環境の汚染による人の健康又は生活環境への影響を速やかに低減することを目的として、対策地域内廃棄物及び指定廃棄物を適切かつ迅速に処理する。					0135	
施策の予算額・執行額	105,383 (72,048)	105,924 (83,262)	76,797 (54,229)	63,776	施策に関係する内閣の重要政策 (施政方針演説等のうち主なもの)	・「復興・創生期間」における東日本大震災からの復興の基本方針の変更について ・「第2期復興・創生期間」以降における東日本大震災からの復興の基本方針 ・原子力災害からの福島復興の加速のための基本指針						

令和4年度実施施策に係る政策評価の事前分析表

(環境省R4-45)

別紙1

施策名	目標10-2 放射性物質汚染対処特措法に基づく除染等の措置等				担当部局名	環境再生・資源循環局 環境再生事業担当参事官室 環境再生施設整備担当参事官室	作成責任者名 (※記入は任意)	馬場康弘(環境再生事業担当参事官) 内藤冬美(環境再生施設整備担当参事官)
施策の概要	放射性物質汚染対処特措法に基づき、除染等の措置等を迅速に実施する。				政策体系上の位置付け	10. 放射性物質による環境の汚染への対処		
達成すべき目標	東京電力福島第一原子力発電所の事故によって放出された放射性物質による環境の汚染が人の健康又は生活環境に及ぼす影響を速やかに低減する。				目標設定の考え方・根拠	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の避難解除、復興に向けた放射線防護に関する基本的な考え方について ・放射性物質汚染対処特措法に基づく基本方針 ・各市町村毎の特別地域内除染実施計画 ・「東京電力福島第一原子力発電所事故に伴う放射性物質による環境汚染の対処において必要な中間貯蔵施設等の基本的考え方について」等 	政策評価実施予定時期	令和5年8月
測定指標	目標		測定指標の選定理由及び目標(水準・目標年度)の設定の根拠					
		目標年度						
1 除去土壌等の仮置場等の解消等	除去土壌等の仮置場等の管理・原状回復、除去土壌の処分		長期的な目標	「第2期復興・創生期間」以降における東日本大震災からの復興の基本方針等に沿って設定				
2 中間貯蔵施設の整備、除去土壌等の輸送及び処理の推進	中間貯蔵施設の整備、除去土壌等の搬入及び処理		長期的な目標	令和4年度の中間貯蔵施設事業の方針等に沿って設定				
3 仮置場から中間貯蔵施設への輸送量	81.2万m ³		令和4年度	令和4年度の中間貯蔵施設事業の方針等に沿って設定				
達成手段(開始年度)	予算額計(執行額)(百万円)				当初予算額(百万円)	関連する指標	達成手段の概要等	行政事業レビュー事業番号
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度				
(1) 除去土壌等の適正管理・搬出等の実施(平成23年度)	117,526 (95,802)	45,310 (41,542)	28,445 (23,548)	27,087	1	令和4年度行政事業レビューページURL https://www.reconstruction.go.jp/topics/main-cat8/sub-cat8-3/20220428110351.html	0136	
(2) 中間貯蔵施設の整備等(平成23年度)	218,781 (161,880)	525,901 (503,124)	157,435 (145,655)	198,106	2	令和4年度行政事業レビューページURL https://www.reconstruction.go.jp/topics/main-cat8/sub-cat8-3/20220428110351.html	0137	
施策の予算額・執行額	336,307 (257,683)	571,211 (544,666)	185,880 (169,203)	225,193	施策に関係する内閣の重要政策(施政方針演説等のうち主なもの) ・「復興・創生期間」における東日本大震災からの復興の基本方針の変更について ・「第2期復興・創生期間」以降における東日本大震災からの復興の基本方針 ・原子力災害からの福島復興の加速のための基本指針 ・総理所信表明演説「原発事故で大きな被害を受けた福島では、帰還困難区域を除き、ほぼ全ての避難指示が解除されたことに続き、先月から中間貯蔵施設が稼働しました。除染土壌の搬入を進め、2020年には身近な場所から仮置き場をなくします。」(平成29年11月・抜粋)			

令和4年度実施施策に係る政策評価の事前分析表

(環境省R4-46)

別紙1

施策名	目標10-3 東日本大震災への対応(特定復興再生拠点の整備)				担当部局名	環境再生・資源循環局 環境再生事業担当参事官室 特定廃棄物対策担当参事官室	作成責任者名 (※記入は任意)	馬場康弘(環境再生事業担当参事官) 番匠克二(特定廃棄物対策担当参事官)				
施策の概要	福島復興再生特別措置法に基づき、市町村長が作成し、内閣総理大臣の認定を受けた計画(認定特定復興再生拠点区域復興再生計画)に沿って、特定復興再生拠点区域の復興及び再生の推進に必要な除染や廃棄物の処理事業を実施する。				政策体系上の位置付け	10. 放射性物質による環境の汚染への対処						
達成すべき目標	帰還困難区域の復興・再生のため、福島復興再生特別措置法に基づき、市町村が定める帰還困難区域内に避難指示を解除し、帰還者等の居住を可能とすることを旨とする「特定復興再生拠点区域」の復興及び再生を推進する。				目標設定の考え方・根拠	・帰還困難区域の取扱いに関する考え方 ・原子力災害からの福島復興の加速のための基本指針 ・福島復興再生基本方針	政策評価実施予定時期	令和5年8月				
測定指標	基準値	目標値		年度ごとの目標値 年度ごとの実績値							測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠	
		基準年度	目標年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度		
1 特定復興再生拠点区域において避難指示解除(全域)に必要な範囲の除染が完了した町村数	0	H29年度	6	R5年度	0	0	0	3	3	-	-	・各自治体の認定特定復興再生拠点区域復興再生計画に沿って、除染に係る進捗状況を踏まえて記載。
2 特定復興再生拠点区域における解体工事完了町村数	0	H29年度	6	長期的な目標	2	2	0	1	3	1	-	
達成手段 (開始年度)	予算額計(執行額) (百万円)			当初予算額 (百万円)	関連する 指標	達成手段の概要等					行政事業レビュー 事業番号	
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度								
(1) 特定復興再生拠点整備事業(平成29年度)	75,620 (55,693)	102,553 (88,592)	43,367 (37,637)	44,461	1,2,3	令和4年度行政事業レビューページURL https://www.reconstruction.go.jp/topics/main-cat8/sub-cat8-3/20220428110351.html					0138	
施策の予算額・執行額	75,620 (55,693)	102,553 (88,592)	43,367 (37,637)	44,461	施策に関する内閣の重要政策 (施政方針演説等のうち主なもの)		・原子力災害からの福島復興の加速のための基本指針 ・福島復興再生基本方針 ・「復興・創生期間」における東日本大震災からの復興の基本方針の変更について ・「第2期復興・創生期間」以降における東日本大震災からの復興の基本方針 ・経済財政運営と改革の基本方針2022					

令和4年度実施施策に係る政策評価の事前分析表

別紙1

(環境省R4-47)

施策名	目標10-4 放射線に係る一般住民の健康管理・健康不安対策										担当部局名	環境保健部 放射線健康管理担当 参事官室	作成責任者名 (※記入は任意)	鈴木章記(放射線健康 管理担当参事官)
施策の概要	東京電力福島第一原発事故を受け、福島県が創設した「福島県民健康管理基金」に交付金を交付するなど、原子力被災者の健康の確保に必要な事業を中長期的に実施する体制整備を支援した。さらに、原子力被災者の健康確保に万全を期すため、福島県の基金実施事業の前提となる被ばく線量の評価、人材育成、リスクコミュニケーションの推進等、国として実施すべき事業を行う。										政策体系上の 位置付け	10. 放射性物質による環境汚染への対処		
達成すべき目標	原子力被災者の健康確保、健康不安の解消					目標設定の 考え方・根拠		福島復興再生特別措置法及び同法に基づく 福島復興再生基本方針			政策評価実施予定時期	令和5年8月		
測定指標	基準値	基準年度	目標値	目標年度	年度ごとの目標値 年度ごとの実績値							測定指標の選定理由及び目標値(水準・目標年度)の設定の根拠		
					R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度			
1 研究の採択等件数 (被ばく線量評価、健康影響、健康不安対策等に関する調査研究)	15	H24年度	20	-	20	20	20	20	20	20	20	20	被災者の健康管理、不安対策のため求められる研究課題①放射線被ばくの線量評価、②被災者の健康管理に資する放射線の健康影響の解明、③被災者の健康不安対策に資する研究調査等を毎年度採択し、所要の研究成果を得ることで、政策に必要な知見を得るために指標を選定。①、②、③のテーマを各6件、複合テーマ2件の計20件を目標とする。	
2 受講者満足度(%) (保健医療福祉等関係者 研修会、専門家派遣平均)	83	R2年度	80	-	-	80	80	80	80	80	80	80	地域の住民が抱える放射線の健康不安に身近で対応している自治体職員や放射線相談員に対して、研修会の開催や専門家の派遣を通じて、最新情報の共有や継続的に学ぶ機会を提供している。効果的・効率的な事業となっているかを測定する指標として、受講者満足度を選定。目標値は過去の実績を踏まえて設定。	
3 受講者満足度(%) (住民セミナー、車座意見 交換会平均)	98	R2年度	80	-	-	80	80	80	80	80	80	80	地域の住民が抱える放射線に対する健康不安等に対し、自治体だけでは対応が難しい住民セミナーや車座意見交換会の場を通じて、リスクコミュニケーションをきめ細やかに実施している。効果的・効率的な事業となっているかを測定する指標として、受講者満足度を選定。目標値は、過去の実績を踏まえて設定。	
4 「東京電力福島第一原子力 発電所事故の被災地における、次世代以降の人 (将来生まれてくる子や孫 など)への放射線による健康 影響について、起こる可 能性が高い」と思っている 人の割合(%) (全国アンケート調査)	40	R2年度	20	R7年度	-	40	-	-	-	-	-	20	原子放射線の影響に関する国連科学委員会(UNSCEAR)の2020/2021報告書において、「放射線被ばくが直接の原因となるような将来的な健康影響は見られそうにない」とされている。一方で、日本国内のアンケート調査では、原発事故による次世代への健康影響が高いと認識している人の割合が約40%という結果がでている。この認識は、被災地の人たちへの差別・偏見にもつながりかねないことから、誰一人取り残さない社会の実現に向け、その割合を2025年に半減させるプロセス目標を設定。	
測定指標	基準	基準年度	目標	目標年度	施策の進捗状況(目標) 施策の進捗状況(実績)							測定指標の選定理由及び目標(水準・目標年度)の設定の根拠		
					R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度			
5 福島県「県民健康調査」の 進捗	-	H26年度	福島県「県 民健康調 査」の着実 な実施	-	「県民健康調査」の円滑な実施のための支援	「県民健康調査」の円滑な実施のための支援	「県民健康調査」の円滑な実施のための支援	「県民健康調査」の円滑な実施のための支援	「県民健康調査」の円滑な実施のための支援	「県民健康調査」の円滑な実施のための支援	「県民健康調査」の円滑な実施のための支援	「県民健康調査」の円滑な実施のための支援	東京電力福島第一原発事故により、周辺地域住民の被ばく線量の把握や、放射線の影響を考慮した健康管理の重要性が指摘されている。福島県民の中長期的な健康管理を可能とするため平成23年度から福島県が創設した「福島県民健康管理基金」に交付金(782億円)を拠出しており、国として継続して県民健康調査が円滑に行われるよう、福島県に必要な支援を行っていく必要があることから指標として選定。	

達成手段 (開始年度)	予算額計(執行額) (百万円)			当初予算額 (百万円)	関連する 指標	達成手段の概要等	行政事業レビュー 事業番号
	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度			
原子力被災者に対する健 (1) 康管理・健康調査 (平成23年度)	2,077 (1,487)	1,976 (1,418)	1,887 (1,536)	1,717	1.2,3,4,5	<p>福島県民等の放射線被ばくによる健康管理や健康不安対策のため、中長期にわたる放射線の健康影響に係る調査研究、内部被ばくの正確な推計による被ばく線量評価等に関する調査研究、不安を抱く住民に対する安心リスクコミュニケーション事業などを実施することにより、原子力被災者の健康確保、不安解消を図る。</p> <p>また、茨城県東海村及び那珂市において希望者に対する健康相談及び心のケア相談等を行う。</p> <p>※東海村臨界事故については、原子力規制委員会の発足後に文部科学省から移管された業務のみレビュー対象。</p>	0311
施策の予算額・執行額	2,077 (1,487)	1,976 (1,418)	1,887 (1,536)		<p>施策に関する内閣の重要政策 (施政方針演説等のうち主なもの)</p>	<p>「復興・創生期間」後における東日本大震災からの復興の基本方針の変更について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福島復興再生特別措置法及び同法に基づく福島復興再生基本方針 ・東京電力原子力事故により被災した子どもをはじめとする住民等の生活を守り支えるための被災者の生活支援等に関する施策の推進に関する法律及び同法に基づく基本方針 	